

2012 年度 修士論文

戸建て住宅地の庭の活用に関する研究  
— オープンガーデンの社会実験からの考察 —

Study on the Effective Use of Yards in Detached Housing Estates  
Analysis Considering the Demonstration Test of an Open Garden Event

河野 すみれ

Kono, Sumire

東京大学大学院新領域創成科学研究科  
社会文化環境学専攻



## 目次

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| ■まえがき                       | 5  |
| ■1章 研究の枠組み                  | 8  |
| 1-1 研究の背景                   | 8  |
| 1-1-1 住宅地の課題と庭              | 8  |
| 1-1-2 社会実験として               | 10 |
| 1-2 研究の目的                   | 11 |
| 1-3 既往研究・関連研究               | 12 |
| 1-4 研究の新規性                  | 13 |
| 1-5 研究の方法・構成                | 14 |
| 1-6 調査の履歴                   | 15 |
| ■2章 現代の戸建て住宅の庭              | 18 |
| 2-1 本論で扱う庭の定義               | 18 |
| 2-2 住宅と庭の歴史と空間の分析           | 19 |
| 2-2-1 日本庭園—囲まれた庭            | 19 |
| 2-2-2 現代住宅の庭                | 21 |
| 2-2-3 車庫の登場 囲みの変化           | 25 |
| 2-2-4 街並み形成への意識             | 27 |
| 2-2-5 共有空間としての「コモン」         | 28 |
| 2-2-6 園芸からガーデニングへ           | 30 |
| 2-2-7 庭の利用実態                | 31 |
| 2-2-8 考察                    | 33 |
| 2-3 アメリカの郊外住宅の庭との比較         | 34 |
| 2-3-1 開かれた芝生の庭              | 34 |
| 2-3-2 日本の庭の特性、日米比較より        | 35 |
| 2-4 戸建て住宅の庭が持つ意味            | 35 |
| ■3章 庭の公開、オープンガーデンの現状        | 40 |
| 3-1 個人の庭空間の公共的利用 オープンガーデンとは | 40 |
| 3-1-1 日本のオープンガーデン           | 40 |

|                              |                           |           |
|------------------------------|---------------------------|-----------|
| 3-1-2                        | 英国のオープンガーデン               | 41        |
| 3-1-3                        | オープンガーデンに関する既往研究          | 41        |
| <b>3-2</b>                   | <b>ケーススタディ</b>            | <b>42</b> |
| 3-2-1                        | 全国のオープンガーデン               | 42        |
| 3-2-2                        | 現地訪問                      | 45        |
| <b>3-3</b>                   | <b>柏市のカシニワ制度について</b>      | <b>48</b> |
| 3-3-1                        | カシニワ制度とは                  | 48        |
| 3-3-2                        | 柏市公園緑政課ヒアリングより            | 50        |
| 3-3-3                        | カシニワオープンガーデン登録者ヒアリング      | 50        |
| 3-3-4                        | 協働事業提案について                | 51        |
| <b>3-4</b>                   | <b>オープンガーデンの効果についての分析</b> | <b>51</b> |
| 3-4-1                        | オープンガーデンによって可能になったこと      | 51        |
| 3-4-2                        | 今後必要だと思われる視点              | 52        |
| <b>3-5</b>                   | <b>小括</b>                 | <b>53</b> |
| <b>■ 4章 社会実験の実施 東急柏ビレジにて</b> |                           | <b>56</b> |
| <b>4-1</b>                   | <b>社会実験の背景</b>            | <b>56</b> |
| 4-1-1                        | 対象地の概要 東急柏ビレジのこれまで        | 56        |
| 4-1-2                        | 宮脇檀の外構計画                  | 58        |
| 4-1-3                        | 住宅地の街区単位                  | 60        |
| 4-1-4                        | アンケート                     | 62        |
| 4-1-5                        | 柏ビレジで実施することの意義            | 65        |
| <b>4-2</b>                   | <b>社会実験の目的</b>            | <b>67</b> |
| <b>4-3</b>                   | <b>社会実験の方法</b>            | <b>68</b> |
| <b>4-4</b>                   | <b>実験の概要</b>              | <b>68</b> |
| <b>4-5</b>                   | <b>小括</b>                 | <b>80</b> |
| <b>■ 5章 実験の分析</b>            |                           | <b>84</b> |
| <b>5-1</b>                   | <b>実験の観察から</b>            | <b>84</b> |
| 5-1-1                        | 住民の反応より                   | 84        |
| 5-1-2                        | 諸条件より                     | 85        |
| <b>5-2</b>                   | <b>ヒアリング調査</b>            | <b>87</b> |
| 5-2-1                        | ヒアリングの目的                  | 87        |
| 5-2-2                        | ヒアリングの方法                  | 87        |

|                                      |            |
|--------------------------------------|------------|
| 5-2-3 ヒアリングの内容                       | 87         |
| <b>5-3 分析</b>                        | <b>101</b> |
| 5-3-1 <つながり> 共通点としての「庭」              | 102        |
| 5-3-2 <きっかけ> 踏み込みやすい中間領域             | 103        |
| 5-3-3 <支えあい> 支えあう気持ちの拡大              | 103        |
| 5-3-4 <アメニティ> まちの機能と私有地              | 104        |
| 5-3-5 <ストレス> オープンガーデンによるストレス要素       | 104        |
| <b>5-4 小括</b>                        | <b>105</b> |
| <b>■ 6章 提案</b>                       | <b>108</b> |
| 6-1 <つながり> 「庭」以外のキーワードと掛け合わせる        | 108        |
| 6-2 <きっかけ> 参加理由の提供・共通課題解決への糸口        | 108        |
| 6-3 <支えあい> 地域の自立の手段としての「外部」からのサポート   | 109        |
| 6-4 <アメニティ> 機能を置く場としての私有地            | 110        |
| 6-5 <ストレス> 公開の規模・公開の段階性              | 110        |
| <b>■ 7章 結論</b>                       | <b>114</b> |
| <b>7-1 成果</b>                        | <b>114</b> |
| テーマ1：現代の庭が持つ価値                       | 114        |
| テーマ2：オープンガーデンとは                      | 114        |
| テーマ3：住み続ける＝「つながり」「きっかけ」「支えあい」「アメニティ」 | 115        |
| <b>7-2 課題</b>                        | <b>116</b> |
| <b>7-3 まとめ</b>                       | <b>117</b> |
| <b>■あしがき (謝辞)</b>                    | <b>118</b> |
| <b>■資料編</b>                          |            |



## ■まえがき

自宅の庭の手入れを日々行っている大学（院）生には会ったことがない。私も祖母が長期入院するまでは特に自ら進んで行うことがなかった。入院した祖母に、ご近所に恥ずかしくないようにと念を押されて手入れしてみると、時間はかかる、夏場はすぐにプランターの水が枯れる、雑草は生える、落ち葉は散る、よく見ると得体の知れない虫がついている、猫がどこかで糞をしているなど、フラストレーションの連続であった。時間がないので朝の6時前から手入れを行っている、散歩中のご夫婦に「きれいね」、と声をかけられた。こちらはほぼパジャマ姿で髪の手も整えておらず、恥ずかしくなり、半笑いの会釈で返した。

しかし、このホラーも誰か一緒に手伝ってくれる人がいるとまだ気が楽である。花を植える等して、近所の公園の美化に取り組んでいた祖母には花好きの仲間が多く、手入れを手伝いに来てくれたこともあった。夏場に代わりに水まきをしてくれていたこともあった。次第に水をやりながらたまに見える虹や、いつの間にか庭の住人になったトカゲに遭遇する静かな時間に癒されるようになった。外出が多い家族と暮らしている祖母にとっては、庭に出ている時間や、公園の手入れをしている時間は友人とのコミュニケーションの機会であり、ご近所の方の「きれいね」という褒め言葉はうれしかったはずだ。

祖父の死後、いつのまにか重要な空間になった庭であるが、住宅計画時にはおそらくおまけのような立ち位置であった。今となっては仏間と化した和室や、広すぎてあまり使われないリビングルームよりも、庭の方が遥かに情熱を注がれることになるとは誰が予想できただろう。持ち主が庭の手入れに費やす時間が増えたために、私有空間であるとはいえ、未亡人ストリートとも呼ばれている道沿いに住む近所の人々と祖母の情報交換の場にもなっていた。退院後、祖母は公園の手入れをするほど体力が回復していないので、庭に対する思いをより膨らませていて、色々と計画している。本人も少々は自覚しているのだろうが、これは未亡人ストリートにとってもいいことであると思う。

このような実体験から、同じ庭でもフラストレーションに感じて手入れを放棄したくなる人と、楽しむ人がいることが分かった。放棄する人がいれば庭は荒れ、地域にとってマイナスの資産になるし、手入れに情熱をかける人がいればプラスの資源になる。フラストレーションを減らし、楽しみを増やすことによってプラスの資源を増やすことは、これからの長寿社会で住宅地が魅力的であり続ける為に大切なことであるはずだ。そのためには、住民がどう関わり、行政がどう関わり、さらに、外部のサポートもどのように関わっていけるか。庭の持つポテンシャルを活かすには、どのように庭を見つめていくことができるか。調査を進めていくうちに、庭に関わっている地域のお母さんたちから、自宅だけではなく、住み続けたまちに対する愛情を感じ取るようになっていった。庭という存在を通して生まれる、人と人の関係性に着目し、住宅地の庭の可能性について考えていこう。





## ■ 1章 研究の枠組み

### 1-1 研究の背景

#### 1-1-1 住宅地の課題と庭

#### 1-1-2 社会実験として

### 1-2 研究の目的

### 1-3 既往研究・関連研究

### 1-4 研究の独自性

### 1-5 研究の方法・構成

### 1-6 調査の履歴

## ■ 1 章 研究の枠組み

### 1-1 研究の背景

#### 1-1-1 住宅地の課題と庭

高度経済成長・それ以降に建てられた郊外戸建て住宅地において、日用品の購入や地域内交流のために計画された中心商店街の衰退、体力の低下による維持管理の困難、利用されない空間の増加などの要因によって住環境の質や魅力が低下してきている。これにより、長年暮らしてきた住宅地に住み続けることに生活の困難や、将来に対する不安が生じており、これらの課題への対策が求められている。

以下に、郊外に計画された戸建ての住宅地が抱える問題を整理する。住宅地の多くは郊外の鉄道沿線につくられ、通勤や通学は最寄り駅までバス移動が想定されているものも少なくない。徒歩圏内でアクセスできる中心商店街や、公園などのアメニティも用意された。各家庭が自動車を持つようになると、車庫も含めて計画されるようになった。このような住宅地に同じような年齢層の世代が同時に入居し、同時に年老いていく中で、あらわになってきている問題点がある。

#### (1) 孤独の可能性

職住が近接している人ならいいが、郊外住民の多くは勤務先、通学先など日常の生活を住宅から離れた場所で送っている。従って、所属するコミュニティはそれぞれ違う場所に持つ。特に定年後は、新しいコミュニティに所属しない限り外出の機会が減ってくる。地域の外にコミュニティを持つ場合があるが、外出が困難になるとその関係が続けるのも難しくなる。地域内で繋がる機会があれば良いのだが、近隣同士でも向き不向きがある。よって、より多くのつながりの選択肢があることが求められる。

外出機会が少なかったり、つながりをつくるのが難しく、外出へのモチベーションが下がったりすると、多くの高齢者は自宅に引きこもるようになる。普段から交流がないと近隣からの関心も薄くなり、一人暮らしの場合はより孤独化していく。

#### (2) 買物の困難

自動車の普及により、住民が近隣の商店街ではなく、少し離れた大型店舗で買物するようになった結果、商店街が衰退している現状がある。こうなってくると、高齢になり自動車を手放した場合、買物できる場所が近くになくなるという事態が起こる。バス等の公共交通はどうかというと、これも各家庭が自動車を利用するため利用者が少なく、赤字路線が削減され、交通手段の選択肢が減ってきている。かつて商店街は地域の人同士が顔を合せる交流の場として機

能していたが、買物する場所が多様化した今はそのような役割を果たすのが難しくなってきた。さらに、同じ住宅地であっても、足腰が弱り、最寄りの商店街に行くのでさえ難しい人もいる。

### (3) プライバシーと無関心

団地に住み始めたのは若い核家族で、プライバシーが守られた住宅が歓迎された。プライバシーが強いところに住む核家族は内部のつながりが強い反面、外との繋がりが弱くなる傾向がある。よそに干渉されたくない、だからこそ自分も干渉しないという態度が結果的に近隣への無関心へと繋がるようになった。このような態度であると、防犯や安全管理上、弱い住宅地になる。近隣へ目を配ることの大切さは多くの住民の共通認識であるが、日本の住宅の塀や生け垣等の構造上、難しい部分もある。

### (4) 空間機能の固定化による使われのない空間の増加

既述のことに重なるが、一つの用途の為につくられ、現在は必要なくなった空間が存在する。個々の住宅の規模で言うと、子供部屋やガレージ等がその例である。子供が自立し、単身や高齢夫婦のみの世帯が多くを占める今、いくつもの寝室が必要となくなってきたこと等の、住宅計画時のニーズと現状住宅形状の不一致がよく言われている。ガレージは、自動車社会となってからの住宅に必ずと言っていいほど付随する。買物が徒歩圏内で行うことが難しい郊外の住宅地ほど車への依存度は大きい。とはいえ、高齢となると免許を返上し、車の運転をやめる世帯も増えてくる。となると、ガレージの機能も敷地内に必要なくなる。

住宅地の規模で言うと、子供が成長し、ほとんど使われなくなった小公園が一例である。コミュニティ形成の場としてせっかく計画された共有地の小道なども、整備が行き届かなくなると犬の散歩にさえ利用されなくなる。

さて、戸建て住宅のほとんどには庭があるが、私的な空間と見なされ、現状では主な利用者はその住民のみで、利用のされ方も限られている。現代住宅の庭の計画は基本的に住居建物とは違い、植物の配置等の空間構成は住民の手によって比較的自由に行うことができ、各々の庭の管理はほとんど住民に任されてきた。街路に面し、人の目に触れる場所なので、ある程度の体裁が保たれてきたとも言える。意識の高いまちであるほど、その庭は整っている。しかし、社会へ対する責任の為だけで庭を管理するとなるとそれも辛い作業である。庭は安らぎや住環境の向上を目的として用意された空間であるが、その管理が負担となれば安らぎどころではなくなる。

また、庭を主とする住宅の外部空間は、個人とまちとの接点ともいえる。これは高齢になる前でも、なった後でも変わらない。この空間は、自宅と近隣との関係をつくっていく上で重要な役割を果たしてきた。その空間が「不要」で、「ストレスが溜まる」空間となってしまったら、

住宅地にとってプラスに働くとは考えられない。植物が育てられる緑地として、室内の延長の空間としてという特徴のみに着目し、それらを改善したとしても、「関係が生まれる場所」としての視点を持たなければ解決できない部分がある。

そのような中で、近年個人の庭を公開するオープンガーデンという取り組みが全国各地で行われており、地域住民間の関係の構築や、庭管理の意欲向上などの役割を果たしている。戸建て住宅地の庭の、オープンガーデンのような公共的利用は、上述の住宅地の課題に対し、新しい設備投資の必要も少なく、一助になる部分があるのではないだろうか。このような考えの下、千葉県柏市の東急柏ビレジにて、高齢化する郊外住宅地でのオープンガーデンを題材として社会実験を行うことになった。

#### 1-1-2 社会実験として

本論のもうひとつのきっかけは、高齢化が進む住宅地の生活の質を良くしていくために、地域内の拠点づくりを目指す社会実験が現在進められていることである。科学技術振興機構の「気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム」の一環として、「明るい低炭素社会の実現に向けた都市変革プログラム」が東京大学により、千葉県柏市を対象地として進められている。<sup>1</sup>

本プログラムの目的は、高齢社会と低炭素社会の同時進行に直面する今、高齢者の資産と能力の積極的な社会への還元を進めることで、成長可能な「明るい」低炭素社会を実現することである。6つの研究グループがあり、その中の都市計画グループでは、高齢者居住充実のための計画に取り組んでいる。

都市計画グループのサブグループの一つ、清家清水サブグループでは柏市北部に位置する東急柏ビレジでの社会実験を行った。筆者はこちらのサブグループに属しており、社会実験の実施に関わっている。柏ビレジと社会実験の状況などの詳しい背景は4章で述べる。社会実験では中心商店街の衰退等の要因により、住民同士の交流機会が減っていることに着目し、「大きな拠点」「小さな拠点」という二本の柱で拠点づくりを行っている。いずれも地域の見守りをめざしているが、規模が異なる。「大きな拠点」は、商店街の空き店舗を活用した、柏ビレジ全域を包括する生活支援サービスの拠点づくりである。「小さな拠点」はそれより小さい規模の拠点として、より親密な距離感のコミュニケーションの場の形成を目指し、地域内に点在することによってより細かいケアが可能になる。研究グループでは、柏ビレジは外構計画に特徴があり、庭への関心も大きい住宅地であるので、庭空間を利用して「小さな拠点」をつくることができないかということに着目して実験を進めた。本論では後方の「小さな拠点」について取り扱う。

また、柏ビレジが位置する柏市では、「カシニワ」というオープンガーデンの支援制度が2010年より設置されている。まだ制度自体が新しいため認知度はあまり高くない。しかし、オープンガーデンだけでなく、いくつかの施策が組み合わせられ、公有・民有の緑地管理の向上を目的とした包括的な制度であることが注目されている。

柏市では登録された庭、柱の一つである「カシニワ公開」の目的を「地域の庭やオープンガーデンの見学や利用を通して、ご自身が楽しみながら、それぞれの庭に携わる方々との交流を深めることで、人とのつながりがより豊かになり、地域の魅力が向上していくこと」<sup>ii</sup>としている。

社会実験はカシニワ制度の担当課である柏市都市部公園緑政課にも協力を得ながら行った。また、2013年4月より、まちづくりを目的とした学生団体 balloon と協働の事業としてカシニワ制度の普及を目指すことになっている。balloon は上に説明した東京大学の研究グループと密接な関係を持っている。<sup>iii</sup>また、協働事業のモデル地区としては、柏ビレジと、手賀の杜が選定され、ここで進めていくことに決定した。このようにして、庭に対してまちづくりの視点をもった主体と、緑地の視点を持った主体とが協力体制で働きかけていくことになった。

## 1-2 研究の目的

本研究では、「庭」という住宅地の中での曖昧ともいえる存在に着目する。「庭」は個人が所有する私有地であるが、「住宅」というプライバシーが強い空間と、まちの人が日常的に利用する「道」との間の中間に位置する領域である。また、「庭」が私有地でありながら景観に対する公共的な役割を果たしていることは、庭を手入れする多くの住民から意識されている。ただし、住宅地の庭といっても様々であり、造られた時期や庭への住民側の姿勢によっても形態が異なる。まずは住宅地の庭どのような場所であるのかについて考察する。

さらに、オープンガーデンについても言及する。どのような効果や可能性があり、どのような課題があるのかについて考察する。

これらをもとに、冒頭に述べたものと同等の課題を抱える住宅地で、住民と一緒に計画を行い、社会実験としてオープンガーデンを開催する。ここから、住民のニーズやまちに対する願望を見つけることによって、既成の住宅地の庭の活用の可能性について検討する。また、実験からの分析を来年度からの協働事業にも活かせるように提案も記述したい。

### 1-3 既往研究・関連研究

本研究全体と関連する既往研究について整理し、現代の庭空間の利用実態に関する研究、共有空間「コモン」の利用に関する研究（街並みの維持管理に関するものも含む）、私有空間の公共的利用に関する研究、オープンガーデンに関する研究について取り上げた。1-4で本研究の新規性を示す。

#### (1) 住宅地の庭に関する研究

##### ・利用実態

郊外戸建て住宅地における庭空間の使用頻度の低さは落合（2007）によって指摘されている。とくに子供が庭で遊ばなくなった後は園芸、ガーデニングを楽しむ場としての利用価値が大きくなる。庭の道路への面し方によってどのような行動が発生する可能性が高いかを調べる中で、道に面した庭の方が近隣住民とのコミュニケーションは生まれやすいが、プライベート性が高い庭の方が活動自体は生まれやすいことを指摘している。近年の都市住居における庭の空間構成については、藤田・梅津ら（1998）によって報告されている。戸建て住宅の外部空間の利用実態や意識に関しては片山ら（2002）によって研究されている

##### ・住宅地の形態に関する研究（街並みの維持管理に関するもの）

近年の都市住居における庭の空間構成については、藤田・梅津ら（1998）によって報告されている。計画された戸建て住宅地において、住戸数個単位で共有する「コモン」という空間を設け、そこを共有する住民によって管理を行うスタイルをとる住宅地がある。良好な街並み景観の維持とコミュニティ形成を目指している。その整備後の住民による管理の実態を和田ら（2000）がアンケート調査によって調べている。コミュニティや景観形成を意図しつくられた道コモン型の戸建て住宅地は、公有の場合には居住者の評価が高く、共有の場合には居住者の管理負担となり評価が低いことを指摘した。共同で管理することにより得られる利点を居住者がみつけ、実現する必要性を示している。

また、街並みの維持管理に住民が関わることや、街が構成される道路の形態によって、コミュニティ形成に一定の影響があり、重要であるということも指摘されている。小田ら（2000）は道路空間が広場として工夫された住宅地での空間の利用実態の調査から、近所の子供の遊び場、客用の駐車スペース、近所住民の会話等に使用されており、客の駐車スペースとして利用されることに対して気にする人が多いことを報告している。また、斉藤（2000）は良好な街並み形成にはコモンスペースの共有だけでなく、共有の緑への理解があるコミュニティ形成の重要性を指摘している。

## (2) オープンガーデンに関する研究

オープンガーデンについては、2000年ごろから(相田・進士 2001)によって研究されている。庭の公共的利用のまちづくり、コミュニティづくりの効果についても多くの指摘がされてきた。郊外既成住宅市街地における、支援制度を通じた住民主体による私有空間の公共的利用の取り組みを対象に、後藤(2011)は私有空間の公共的利用を分類し、実証的、体系的に検討し、成果・課題を分析している。また、事業手法について重要な点を示唆している。私有地の公共的利用に際し、私有空間は個人財産であり、住民の資金的、技術的不足等のために、住民の善意や自助努力のみに頼って持続せず、それを支える仕組みが必要であることを述べている。その持続性のための仕組みには、利用期間についての共有(協定等の締結)、維持費用の支援、定期的な見直し、新たな担い手の加入、地域の理解、ネットワークづくりなどを挙げている。また、ガーデニングブームの実態(高橋・下村 2001)や、庭を一般公開するオープンガーデンのまちに対する効果(平田ら 2003)については主に00年代以降から日本でも造園学分野の研究としてとりあげられてきた。また、このようなオープンガーデンを支える制度(渡邊 2009)についても検証が行われてきた。

### 1-4 研究の新規性

今回の社会実験では、「オープンガーデン」という単語が「立派な庭」を連想させ、抵抗を感じる人もいたこともわかってきた。「オープンガーデン」の実施によって庭で庭主と訪問者の間でコミュニケーションが生まれ、開催者同士のコミュニティが形成されることは指摘されてきたが、「オープンガーデン」がもつハードルにも言及し、活動の妨げになっているのではないかと疑問視する視点を持った研究はされてこなかった。社会実験では、庭の公開の本質を、立派な庭を公開することではなく、庭を通じたコミュニケーションが醸成されることであると捉えて進めていく。

また、未利用地の利用による交流の場づくりは自治体等によっても行われているが、公共地ではない場所への管理における外部による介入は一般的には難しい<sup>iv</sup>ので、あまり積極的に行われてこなかったのが現状である。オープンガーデンは庭や植物の愛好家同士の交流機会として、また、都市や緑地の美化への手段として論じられてきたが、戸建て住宅地の課題に対する解決策として論じられたものはない。

本研究では、オープンガーデンは戸建て住宅地に普及した庭の性質を引出し、戸建て住宅地の課題に対して何かしらの解決が出来るかを社会実験から検証する。

## 1-5 研究の方法・構成

本章では研究の背景と問題意識、目的を明らかにしてきた。

2章では、戦後の郊外戸建て住宅地の庭について時間を追って整理し、庭がこれまで住民やまちにとってどのような存在かを考え、そこからどのようなポテンシャルを持った空間なのか、どのような重要性を持っているのかを考察する。

3章では近年の庭を利用したオープンガーデンの取り組みについて調べ、可能性と限界を述べる。

4章では2012年に東急柏ビレジで行われた社会実験の背景と位置づけを明らかにし、対象地について説明する。また、今年度行った社会実験の一連の内容について報告する。

5章では社会実験の参加者へのヒアリングの分析から、実験の効果（庭活用の効果）について分析する。2章、3章の内容と合わせて、考察を行う。

6章では、5章の分析から、どのように庭を利用することが効果的か、提案する。

7章では以上の議論に関して簡潔にまとめる。



1-6 調査の履歴

| 月  | 日  | 曜日 | イベント            |
|----|----|----|-----------------|
| 4  | 19 | 水  | 柏市ヒアリング         |
| 5  | 9  | 水  | JST ミーティング      |
|    | 17 | 木  | 柏市打ち合わせ         |
|    | 18 | 金  | 流山オープンガーデン見学会   |
|    | 28 | 月  | チラシ配布           |
|    | 30 | 水  | 柏ビレジ打ち合わせ       |
| 6  | 10 | 日  | 勉強会             |
|    | 13 | 水  | 柏ビレジ打ち合わせ       |
|    | 24 | 日  | カシニワ見学会         |
|    | 30 | 土  | 企画ワークショップ       |
| 7  | 5  | 木  | 協働事業提案プレゼン      |
|    | 28 | 土  | 前日準備            |
|    | 29 | 日  | オープンガーデン・プレイベント |
| 8  | 11 | 土  | 柏ビレジ空き店舗活用イベント  |
|    | 25 | 土  | チラシ配布（回覧）       |
| 9  | 9  | 日  | 企画ワークショップ       |
|    | 11 | 火  | 柏ビレジ打ち合わせ       |
|    | 14 | 金  | 協働事業打ち合わせ       |
|    | 15 | 土  | チラシ配布（回覧）       |
|    | 23 | 日  | ふらっとガーデン+リンクカフェ |
| 10 | 3  | 水  | 修論中間発表          |
|    | 11 | 木  | 協働事業提案報告会       |
|    | 17 | 水  | JST ミーティング      |
|    | 27 | 土  | 手賀の杜視察          |
| 11 | 11 | 日  | 手賀の杜役員会         |
|    | 18 | 日  | ヒアリング調査2件（撮影協力） |
|    | 19 | 月  | （撮影協力）          |
|    | 23 | 金  | 柏ビレジ打ち合わせ       |
| 12 | 1  | 土  | 我孫子庭園公開見学会      |
|    | 2  | 日  | ヒアリング調査         |
|    | 9  | 日  | ヒアリング調査         |
|    | 12 | 水  | JST ミーティング      |
|    | 16 | 日  | ヒアリング調査         |
|    | 22 | 土  | ヒアリング調査2件       |
| 1  | 18 | 木  | ヒアリング調査         |
|    | 28 | 月  | 提出              |

図 1-1 研究の履歴

---

<脚注>

- <sup>i</sup> 明るい低炭素社会の実現に向けた都市変革プログラム ホームページ
- <sup>ii</sup> 柏市 ホームページ
- <sup>iii</sup> balloon メンバー 2 人が研究グループに所属し、実験を担当している。
- <sup>iv</sup> 藤岡 2005

<参考文献>

- 1) 明るい低炭素社会の実現に向けた都市変革プログラム ホームページ  
<http://low-carbon.k.u-tokyo.ac.jp/outline/index.html>
- 2) 柏市 ホームページ  
[http://www.city.kashiwa.lg.jp/living/living\\_environment/1384/1387/index.html](http://www.city.kashiwa.lg.jp/living/living_environment/1384/1387/index.html)
- 3) 落合 正一(2007)「分譲住宅における庭の形式と利用実態に関する研究」住・生活研究 (3), pp.11-27
- 4) 藤田一枝・梅津光男(1998)「5640 現代都市住居における庭の空間構成に関する研究 : 6. 庭の使い方と意識」学術講演梗概集. E-2, pp.243-244
- 5) 片山めぐみ、久保恵美子、添田昌志、大野隆造(2002)「戸建住宅の外部空間に対する意識とその利用に関する研究 その1 外部空間の物理的特性と利用の関係」
- 6) 久保恵美子、添田昌志、大野隆造(2002)「戸建住宅の外部空間に対する意識とその利用に関する研究 その2 外部空間に対する意識と利用の関係」
- 7) 和田香織・齊藤広子・小田啓文 (2000)「7078 道コモン型戸建て住宅地の街なみと共同管理の評価 : 道コモン型戸建て住宅地の居住者評価・その2」学術講演梗概集. F-1 pp.155-156
- 8) 小田啓文・齊藤広子・和田香織(2000)「7079 戸建て住宅地のコミュニティ育成を目指し工夫された道路空間の利用と評価 : 道コモン型戸建て住宅地の居住者の評価 その1」学術講演梗概集. F-1, pp.157-158
- 9) 齊藤広子(2000)「戸建て住宅地におけるコモンスペースの緑の管理による街なみとコミュニティ形成」日本建築学会計画系論文集 (528), pp.163-169
- 10) 相田明・進士五十八(2001)「先駆的事例を通じた我が国におけるオープンガーデンの意義」東京農大農学集報 46(3), pp154-165
- 11) 後藤智香子(2011)「住民主体による私有空間の公共的利用に関する研究 一支援制度を通じた住宅・庭先・緑地の公開を事例として一」東京大学博士論文
- 12) 高橋ちぐさ・下村孝(2001)「ガーデニングブームの実態と背景 : 雑誌, 出版物を通して見たガーデニングブーム」日本造園学会誌 65(1), pp.27-32
- 13) 平田富士男・橘俊光・望月明(2003)「わが国におけるオープンガーデンの地域経済への波及効果量の把握に関する研究」日本造園学会誌 Vol.66(5), pp.779-782
- 14) 渡邊誠(2009)「流山市におけるオープンガーデンに関する考察」日本国際観光学会論文集, pp.77-83
- 15) 藤岡作太郎(2005)「世界のガーデンシティーに学ぶ花と緑のまちづくり」学芸出版 p.200

## ■ 2章 現代の戸建て住宅の庭

### 2-1 本論で扱う庭の定義

### 2-2 住宅と庭の歴史と空間の分析

- 2-2-1 日本庭園-囲まれた庭
- 2-2-2 住宅地の造成
- 2-2-3 車庫の登場 囲みの変化
- 2-2-4 街並み形成への意識
- 2-2-5 共有空間としての「コモン」
- 2-2-6 園芸からガーデニングへ
- 2-2-7 庭の利用実態
- 2-2-8 考察

### 2-3 アメリカの郊外住宅との比較

- 2-3-1 American Green より
- 2-3-2 日本の庭の特性、日米比較より

### 2-4 戸建て住宅の庭が持つ意味

## ■ 2章 現代の戸建て住宅の庭

1章では庭の活用が住宅地にとって有意義であるという仮説を述べた。本章では現代の庭を過去の歴史や異文化との比較からどのような存在であるか、どのような違いがあるかを確認し、現代の庭が持つ意味を考察する。

### 2-1 本論で扱う庭の定義

まず、戸建て住宅地における庭を次のように定義する。

敷地境界線と住居建物との間の私有地で、植物が観賞用に展示、栽培されている一帯の計画された空間とする。緑地に接する通路やウッドデッキ等もこれに含む。基本的には車庫部分は除くが、植物のプランター等があり、緑を楽しむ為の工夫がされている場合は庭とする。

「庭」という単語は、古代から使われており、その意味について評論家等による説明が多くなされている。一例として山田宗睦（創園「庭の意味」）によると、もともと日本では築地塀、中国では城壁に囲われた中庭のことを指す。また、洋の東西を問わず、庭は宮の中庭を原型としていた。そして何もないのが原則である。なにもないが、放ったらかしの荒地ではない。たんねんに整地され、堅固に水平に加工された人工の空間である。なにもないのは、無用の空間だからではなく、元旦の朝賀の式、即位の式、外国使節引見の式など、国家の最重要行事が行われる場であったからである。

英語では中庭のことをコート court のほかに、ヤード yard ともいうが、この yard とガーデン garden とは語源が同じである。こんにち一般的な庭を意味するガーデンは、囲地、囲われた場を意味するガルト gart がもとである。ヨーロッパでも、囲われた平坦な人工的な場が、庭の原型であった。

しかし、近年建てられた住宅地を見ると、囲いがあるものもないものもあり、多様化している。住宅地の庭ではどのような行動が行われているのだろうか。現代の住宅地について調べるために、多様化した経緯、また、それによって生まれた効果について本章で述べる。

## 2-2 住宅と庭の歴史と空間の分析

まずは現代の庭についてその背景を知るために過去にさかのぼって、庭がどのような存在であったのかを検証する。

### 2-2-1 日本庭園-囲まれた庭

現代の庭になる前までは、戸建て住宅の庭はいわゆる日本庭園であった。時代ごとの住宅の庭の流れを追うこととする。西欧文化に影響される以前の日本の庭についてまとめる。建築史家の伊藤ていじ「家の変遷と庭の変遷」<sup>i</sup>をベースに記述する。

#### <寝殿造と庭>

栗田「日本の庭とその原イメージ」<sup>ii</sup>によると、日本史の文献で、最古の記録として記されている庭園としては『日本書紀』に蘇我馬子の庭園があり、飛鳥時代、西暦 620 年頃のことされている。馬子は、渡来系の文化を持っている進歩的な蘇我氏の族長で、飛鳥川のほとりに館を建てていた。おそらく川の水をひき込んで池と島、又、築山のある庭園を造っていた。この庭は当時の話題となり、彼を「島の大匠」と人々は呼んだという。

このように、古代から中世まで自然の縮景として庭の風景がつくられた。<sup>iii</sup>さらに、栗田は同じ文章の中で、以下のように述べている。

よく知られている平安時代の貴族の住居の様式である寝殿造りは庭園と池との密接な融合を示していた点に特徴があることが知られている。つまり自然そのものと融合してはじめて住居建築が成り立っていたということである。これは、人間の生活を宮殿建築物中心に置き、その附属的な空間として、周辺を庭園でとりかこむという西欧的な「庭園」とは発想が全く異なっているのである。「にわ」は自然と融合し、ひとつの全宇宙、コスモスの象徴となっている。

庭を持てるのは特権階級のみであったので、その邸宅も庭も広大であった。築地塀で囲まれており、この厚い塀により外の世界とある程度切り離されていたと考えられる。また、庭は邸宅と密接な関係をもつ、儀式や遊びを行う実用的な空間でもあった。

#### <書院造と庭>

住宅の内部の装飾が洗練され、内部で接待等が行われるようになったため、庭は儀式とは切り離された。<sup>iv</sup>このため、細川管領邸のように自然の風景を建物の内部から見て楽しむように造られた庭、茶庭のようにアプローチのシークエンスとして楽しむ庭、そして大規模なものになると回遊し、感じて楽しむ庭となった。

#### <方丈と庭>

方丈は隠居した僧の住宅である。禅宗寺院の庭は観賞用であり、禅宗の精神世界を体現するためにつくられた。<sup>15</sup>作庭そのものが修行で、砂熊手で白砂に模様をつくるのは若い僧の日常的な修行であり、宗教活動と密接な関わりをもっている。

#### <民家の庭>

農家では稲を干し、脱穀する場所として前庭は必要不可欠であった。一隅に菜園、花園、植栽を設けたりしていたが、規模も形式も一定していない。

町家では建物が道路に面して作られたので、建物と建物の間に庭を持つことになる。京都の坪庭はその典型であり、多くの場合植栽が施され、茶庭風につくられていた。

このように、農家は作業場として、使うことを目的とした庭であったのに対し、町家では茶湯の文化を象徴する庭が造られた。明治になるまで、民家の多くは板戸を締めた薄暗い家の中で暮らし、庭に接した日常生活を営むようになるのは、紙が安価になって、どこの家でも明かり障子を付け、さらにガラス戸を用いるようになってからで、それにはトタンの普及で容易に庇をつけられるようになったことが大きい。どこの家にも縁側がつけられて、庭は人々により親しいものとなった。縁側は、冬はサンルーム、夏は涼み台となって、近隣の人々との交流の場になったばかりでなく、子供たちの良い遊び場にもなった。<sup>16</sup>また、庶民にとって庭が趣味の空間になったのは江戸時代頃からであると考えられる。

また、川添は「庭と日本家屋」の中で、以下のように述べている。

都市住宅に関しては、大正期まで、都市住宅の九割が借家だったから、庭は、さほど広くはなく、それに比して多くの樹木を植えたから概して薄暗く、しばしばモルタルぬりの小さな池が狭い庭を一層狭くしていた。庭は林泉という固定観念があったのだろう。また、借家での庭の手入れについては、もっぱら男の役割で、中年男の庭いじりは当たり前すぎて趣味にもならない、といわれたほど日常化した男の気晴らしになっていた。

## 2-2-2 現代住宅の庭

居住専用の住宅というものが現れたのは、明治以降の近代社会になってからである。それまでの特権階級や武士の住宅は行政機関であり会議所であり、農家は農作物の加工場であり、町家は店舗併用住宅であったからである。近代社会になり、社会機能の分化が始まった。このようにしてサラリーマンといわれる人々のための専用住宅が誕生した。門から玄関へのアプローチや住宅前に庭の部分が確保されていて、前庭の最大の特色は芝庭である。この周辺の隣家との境や道路沿いには植栽が加えられている。西欧文化が入ってきたことによって、洋風の応接間とともに芝庭がつけられるようになった。このような「庭付き一戸建て」の家を持つことを、新興のサラリーマンが夢見るようになっていく。

このような憧れの一つのモデルとなったのは、現在は高級住宅街として知られている、渋谷栄一ら財界人によって計画された田園調布等の住宅地であり、イギリスの田園都市を理想として造られた。土地の分譲という形式で整備されたので建設主体は別々であるが、それぞれの敷地は住民同士で決めた分譲条件に従い、緑の生け垣をめぐらせ、芝生の庭がつけられた。<sup>vii</sup>以上のような形式の住宅は東京では関東大震災以後に増加していった。<sup>viii</sup>

第二次世界大戦では、全国的に多くの建物が失われた。米軍による都市爆撃により、焼かれ、壊された建物は全国で 230 万戸にのぼる。また、延焼を防ぐためにおこなわれた建物疎開によって、約 60 万戸の建物が強制的に取り壊された。第二次世界大戦の結果生じた住宅不足数は 420 万戸（1946 年 4 月現在、まだ満州等から引き揚げていない人を除くと 380 万戸）と計算された。

戦後初期の一般庶民の住宅建設に関しては住宅の坪数の制限等、かなりの規制がかかっていた。<sup>ix</sup>しかし、戦後のアメリカ軍を筆頭とする占領軍は、アメリカ風の住居（デペンデント・ハウス）や生活を日本の国土の上に大きく展開させた。アメリカ的生活様式を目の当たりに見せつけられたことは、いつの歴史にもみられる支配者模倣のコースで、のちにこれがすぐれた暮らし方として「生活革新」の目標にまつりあげられてゆく下地を準備した。<sup>x</sup>

1950 年代になると、住宅の坪数制限は完全に撤廃された。住宅金融公庫がつけられ、持家重視政策が展開された。持家層は拡大したが、インフレの影響で地価は高く税金の引き上げ等の諸条件より、手に入れた土地は小さいものであった。

西山（1976）は都市化の進行によって広大な庭園を持つことが不可能になってくると、ニワを（このような）観賞用のものとしてではなく、より切実な住宅の開放性を確保する空間として、あるいは屋内空間とつながる屋外居住空間としての庭の見方が強まってくると述べている。また、大正期の生活改善同盟会や、その流れを汲む住宅建築の指導者、塚本靖博士が「中流住宅では庭園は観賞より居住が大切であり、児童の遊戯や家族の団らんの場として平庭に芝草を植えるべきである」と主張しており、そのような考え方から、ニワは住宅が将来増改築される

場合の拡張予備空間であるという考え方が強まったということを指摘している。

さらに、限られた裕福層の大邸宅の建設も、住宅金融公庫の融資によって建設が可能になった低収入層の小規模な住宅に加え、建築ジャーナリズムの誌面をにぎわすようになった。外国人建築家 A. レーモンドなどの作品が注目を浴び、「洋風住宅」が国民のある種の羨望の対象となっていく。以上のようにして、住宅の洋風化が進行した。

下の図は車庫や増築スペースとして庭空間が利用されていく姿を示している。

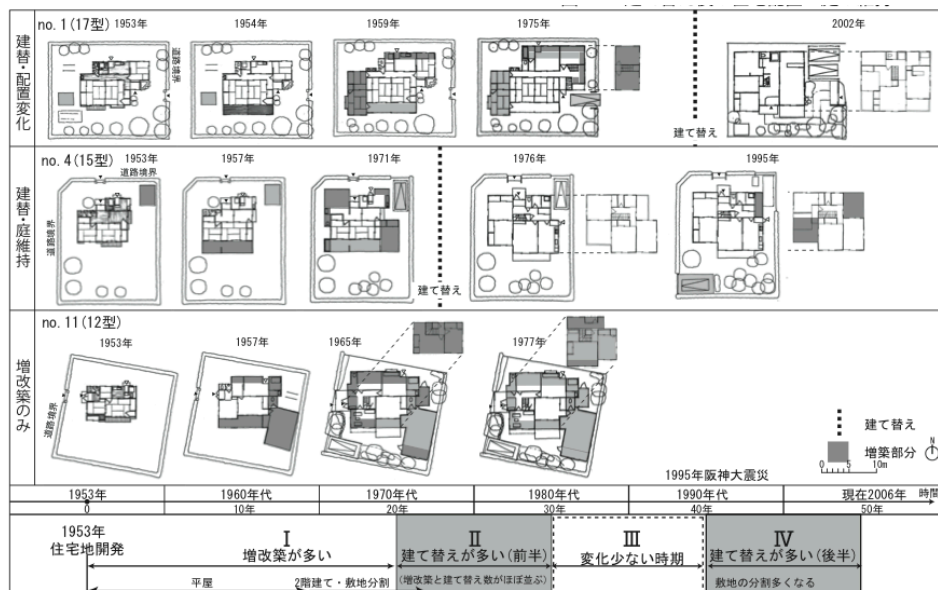


図 2-1 上甲東園における住宅配置と庭の変容過程 (出典：山口 2009)

藤田・梅津 (1994) は現代都市住居における庭の空間構成に関する研究の中で、中規模、独立、持家の住宅外部の空間構成を調査した。

住宅内部の庭に面する部屋が洋室になった住宅が増えたのと同時に、庭に面する室の前のつくりでテラスが増えている。よって、住宅内部の変化がアウトドアリビングを増加させ、テラスを増加させた。このことに駐車、車路スペースの必要が加わり、植栽スペースの現象を起こしていると分析している。



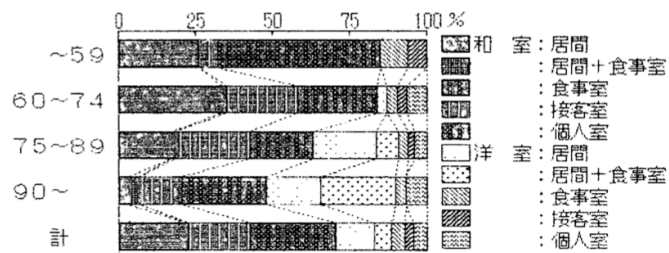


図2-2 主な庭に面する室の和洋形式 住宅建設時期別 (出典：藤田・梅津 1994)

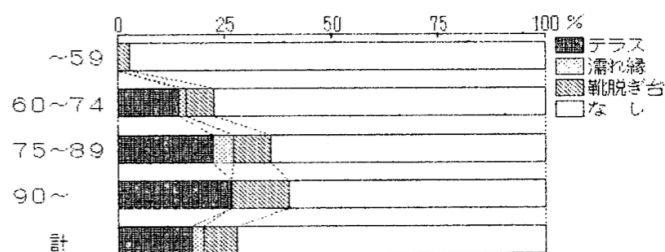


図2-3 主な庭に面する前の作り 住宅建設時期別 ((出典：藤田・梅津 1994)

また、1970年頃より、庭をもつ戸建て住宅は、団地として開発されたものも多かった。大月・深見(2004)は首都圏における開発面積5ha以上の大規模戸建て住宅団地の開発を対象に、分布状況の把握や公的開発と民間開発の面積、件数の比較を行っている。このような大規模な住宅地開発の件数は1970年代前半をピークに、高度経済成長の終焉とともに減衰している。

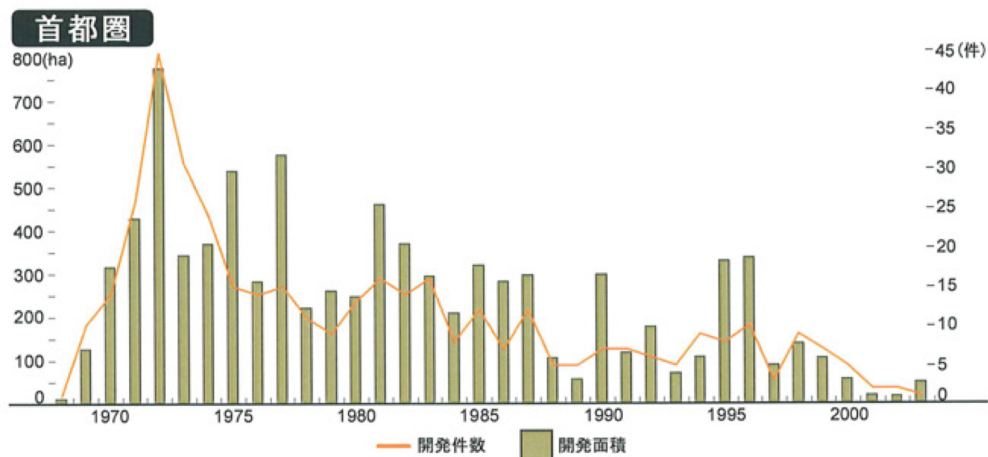


図2-4 首都圏全体の開発件数・面積の推移 (出典：大月・深見 2004)

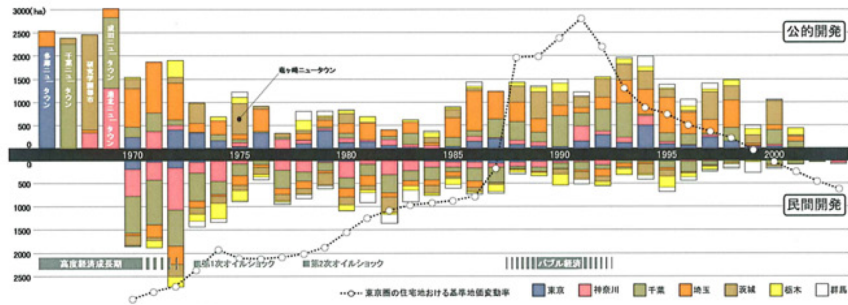


図 2-5 開発主体別の大規模宅に開発の年次別開発 (出典: 大月・深見 2004)

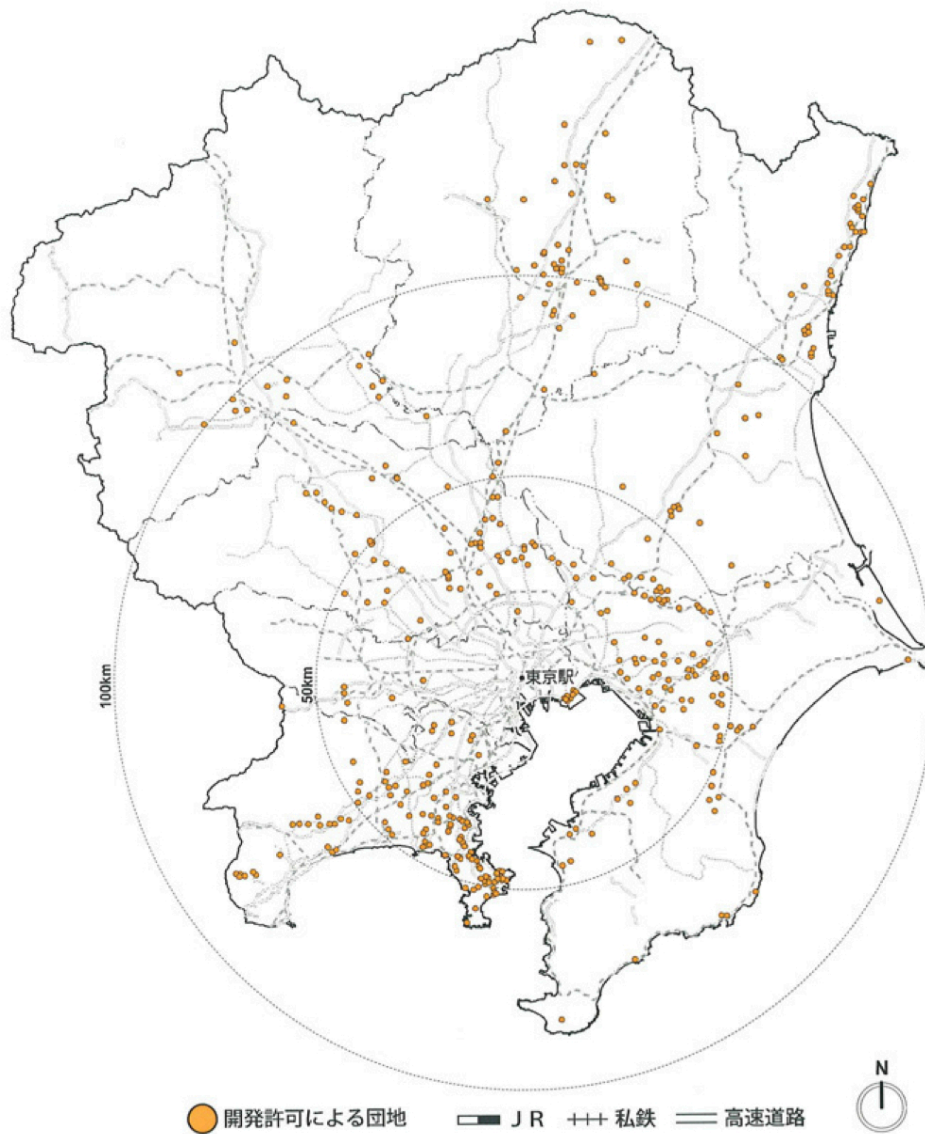


図 2-6 開発許可団地の分布 (出典: 大月・深見 2004)

2-2-3 車庫の登場 囲みの変化

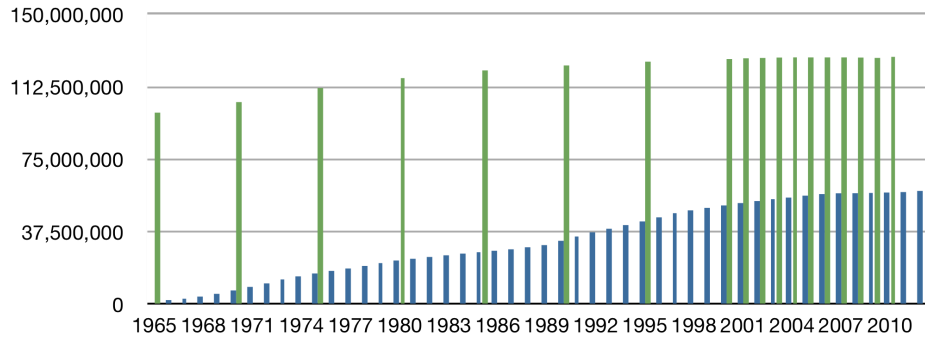


図2-7 乗用車保有台数と人口変遷

(出典：国勢調査、自動車保有台数統計データより筆者作成)

上のグラフは全国の乗用車の保有台数の変遷を示している。緑が日本の人口(国勢調査は2000年まで5年おきに統計をとっている)、青が自動車台数である。戦後初期は自動車を持つという事はあまり一般的ではなかったが、現在では国民2人に1台程の台数が存在する。つまり、それだけの数の車庫が必要とされているということである。

庭の用途別部分スペースの面積構成についての研究 藤田・梅津(1993)では、宅地のうち、建物が占める部分を除いた残りのスペースをすべて庭と規定し、庭面積に対する駐車面積等を求めている。駐車面積は1959年までに建てられた住宅の50%ではつくられておらず、1975年以降は調査したすべての住宅に併設されていることがわかる。

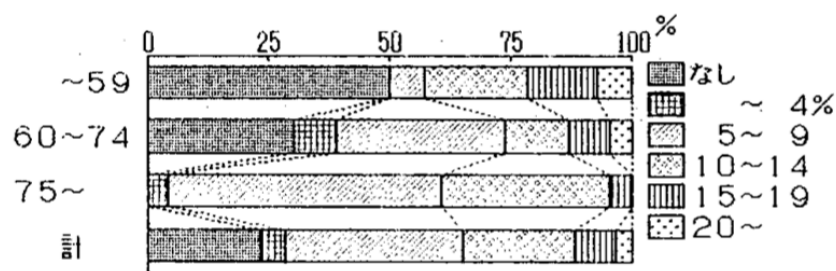


図2-8 庭面積に対する駐車面積 住宅建設時期別 (出典：藤田・梅津 1993)

庭面積に対するアウトドアリビング面積も、1959年まではなかったものの、1975年以降は62%と急増している。

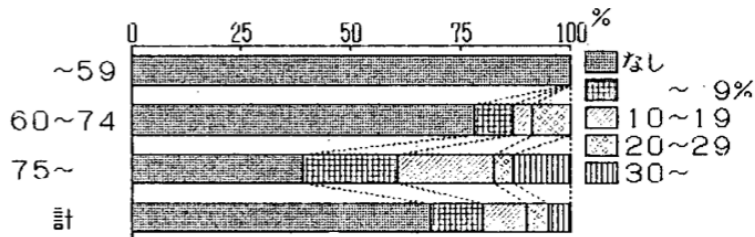


図2-9 庭面積に対するアウトドアリビング面積 住宅建設時期別 (出典：藤田・梅津 1993)

庭面積に対する植栽面積は構成比が小さくなってきている。

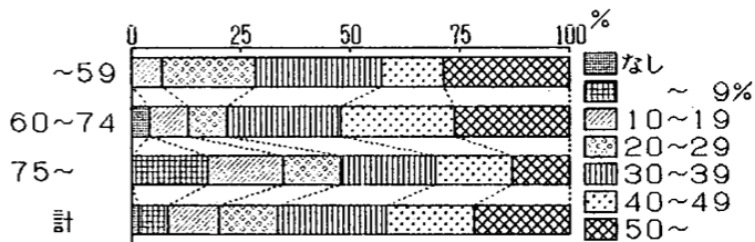


図2-10 庭面積に対する植栽面積 住宅建設時期別 (出典：藤田・梅津 1993)

このようにして、庭面積に対する駐車面積、アウトドアリビングスペース、通路面積が増え、植栽スペースが小さくなるという変化が起きている。藤田・梅津はこの変容の背景には、観賞用から実用性へという意識の変化があると指摘した。

また、車庫が庭に入ってくるようになったこと等も起因して、いままでは塀によって閉ざされた庭空間が開口を持つようになったと考えられる。庭の囲いに変化が現れた。

1960~1989年に建設された住宅はほぼすべて囲まれているが、1990年以降のものは囲いが減少していることが分かる。

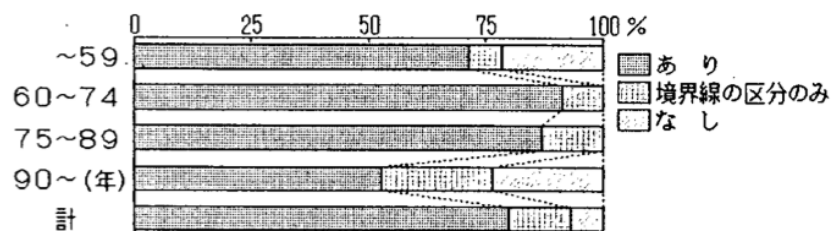


図2-11 囲いの有無 住宅建設時期別 (出典：藤田・梅津 1995)

囲いの高さも、低くなってきている 1959年以前のものには1.5m以上と0.5~1.5mが半々であるのに対し、1990年には1.5m以上はなくなり、0.5~1.5mと0.5m以下のものが半々という結果になった。

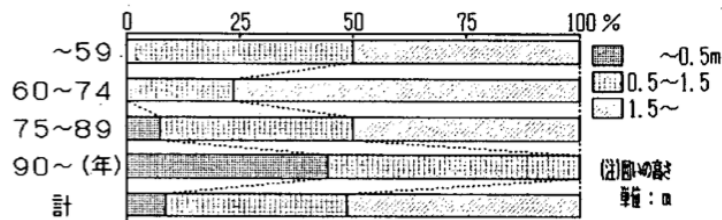


図2-12 囲いの高さ 住宅建設時期別 (出典：藤田・梅津 1995)

また、出入と視線の遮断性も、1990年には出入、視線とも遮断する囲いは減ってきている。

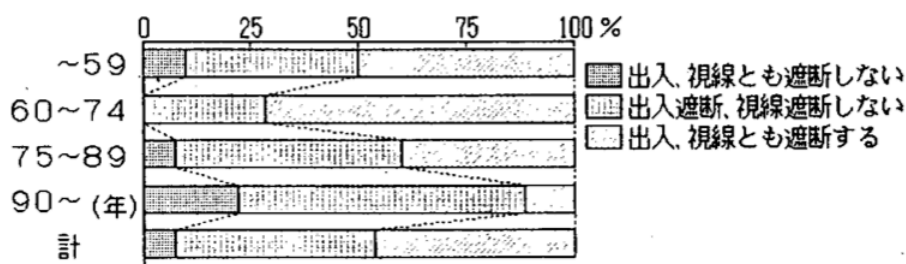


図2-13 出入りの視線の遮断性 住宅建設時期別 (出典：藤田・梅津 1993)

#### 2-2-4 街並み形成への意識

戦後の大量住宅不足が解消し、1973年のオイルショックで高度経済成長の流れに急ブレーキがかかると、無秩序で統一感のない街並みへの意識が高まってきた。<sup>xi</sup>歴史的な街並みがある地区でそのような意識が高まり、1960年代後半には街並み保存を目的とする住民団体も生まれた。1970年代には全国的に街並み保全の機運が高まった。

住宅政策も、量から質へと大きく転換する。戸建住宅の分譲に際しても、値段や立地、居室面積や設備といった従来からの価値に対して、その住宅が建っている街の環境が、商品価値として認められはじめた結果、街づくりという新しい分野にも、いくらかの費用と労力を割くような時代となる。街並みを意識した住宅地が計画され始めたのはこの頃、1970年代からである。進歩的なデベロッパーやハウスメーカーが戸建て住宅地の分譲ビジネスにおいて街づくりの必要性を感じ、宮脇檀などの建築家に街並みの環境設計を依頼するようになった。<sup>xii</sup>

居住者側の意識の変化も見られる。外部物干し場が家の外部からベランダなどの内部（見えない空間）へと移ってきている。外部に干している場合でも、建設年代が新しくなるにつれ、人から見られないところであることの重要度が高くなってきている。このことから、プライバシー重視や、外観重視など、居住者意識の変化も見受けられる。

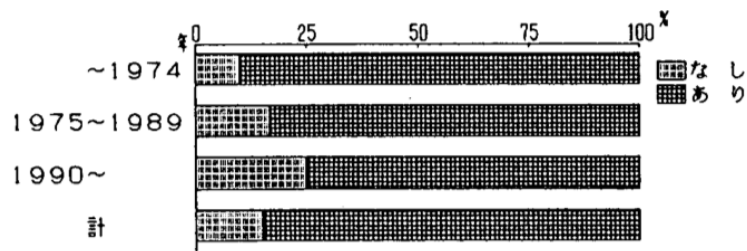


図2-14 外部物干し場の有無 (出典：藤田・梅津 1999)

### 2-2-5 共有空間としての「コモン」

まちなみとコミュニティづくり両方の視点から住宅地づくりが見直されるようになり、道路等の“公”の空間と宅地等の“私”の空間をつなぐ“共”の空間をつくる手法が意識されるようになった。1979年に設立され、以来民間宅地開発事業者とともに、“共同分譲”や“民卸し”といった方式の開発事業のコーディネートをを行っている住宅生産振興財団(2011)では以下のようにこの手法を紹介している。

#### <オープン外構>

敷地の周囲に塀や壁を巡らす代わりに、道路に開かれたかたちで庭空間を適度に開放し、樹木などを植栽するデザイン手法です。生活街路に沿って開放感と統一的まちなみを手軽に実現でき、瞬く間に全国に普及しました。

#### <ボンエルフ道路>

宅地の一部を“共”空間として、道路側に公開緑地や広場を提供するだけでなく、道づくりそのものにも工夫を凝らし、歩行者の安全を優先した歩車共存の道路を“共”空間の道路として実現したデザイン手法です。換地設計上の制約や公共移管上の規制から自由となるボンエルフ道路を導入することによって、曲線形の路地や広場など、多様な形態を持つ道路づくりが可能となり、一般的な区画整理の街区(背割宅地)では実現できない、ゆったりとした懐の深い生活空間づくりが可能となり、郊外住宅地に多く試みられていた手法です。

#### <コモン>

“共”空間を道路として設えるのではなく、宅地の規模に余裕があれば、住宅街区の中央に大きなコモンガーデン(共有公園)を設置する手法も可能となります。住まい手の健全

なコミュニティ意識を育む上で、有効な役割を果たします。

このような手法の確立には、建築家宮脇檀の指導によるまちなみ景観の形成、さらには住宅地の環境形成のノウハウが大きな財産となっている。<sup>xiii</sup>

計画された戸建て住宅地において、住戸数個単位で共有する「コモン」という空間を設け、そこを共有する住民によって管理を行うスタイルをとる住宅地がある。良好な街並み景観の維持とコミュニティ形成を目指している。その整備後の住民による管理の実態を和田ら（2000）がアンケート調査によって調べている。下は「道」がコモンスペースとして利用され、景観向上や通過交通の抑制、走行速度の規制に寄与することを目指してつくられた住宅の住民意識を調べたアンケート結果である。

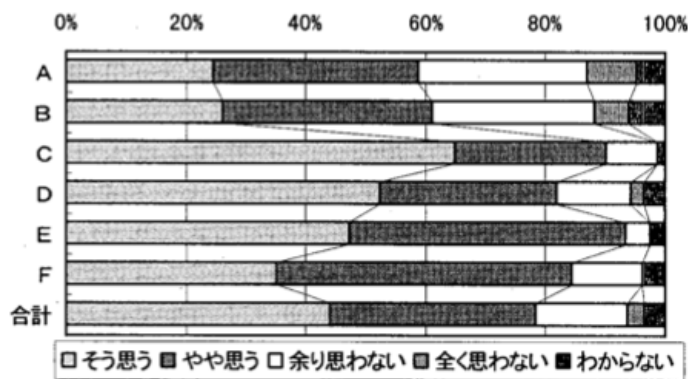


図2-14 道は住環境や景観に寄与しているか（和田・斉藤・小田 2000）

A, B は道が共有地の住宅地、C, D, E, F は道が公有地の住宅地である。コミュニティや景観形成を意図しつくられた道コモン型の戸建て住宅地は、公有の場合には居住者の評価が高く、共有の場合には居住者の管理負担となり評価が低いことが指摘された。共同で管理することにより得られる利点を居住者がみつけ、実現する必要性が示された。

また、街並みの維持管理に住民が関わることや、街が構成される道路の形態によって、コミュニティ形成に一定の影響があり、重要であるということも指摘されている。小田ら（2000）は道路空間が広場として工夫された住宅地での空間の利用実態の調査から、近所の子供の遊び場、客用の駐車スペース、近所住民の会話等に使われていることが確認された。

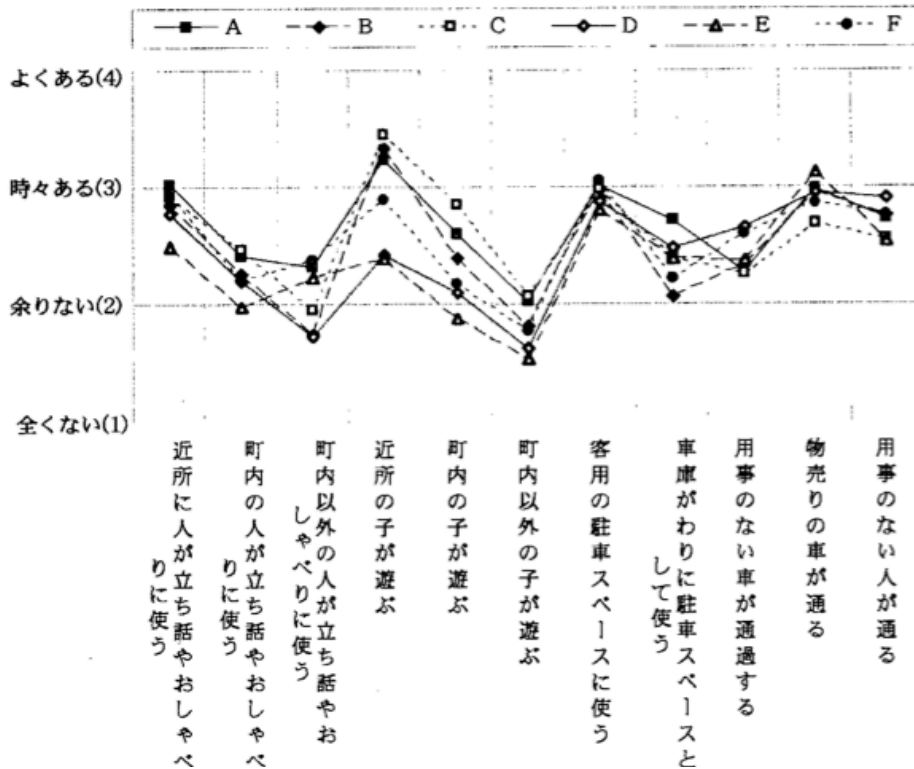


図2-15 道路空間の使われ方 (小田・八木・斉藤 2001)

さらに、斉藤(2000)は良好な街並み形成には共有空間であるコモンスペースの緑の整備のみでは、居住者のコミュニティ形成御のまちなみ形成にも寄与せず、良好に管理されてはじめて街なみやコミュニティ形成につながる、と指摘した。これには緑の手入れ等を通じて、居住者相互の交流と価値の共有化、目標の共同化が重要であると述べている。

#### 2-2-6 園芸からガーデニングへ

高橋・下村(2001)によると、1990年に大阪で開催された国際花と緑の展覧会(大阪花博)以降、生活まわりや都市空間に緑のみならず花を持ち込む、ガーデニングへの関心が高まった。1970年代にブームを迎えた園芸との違いは、園芸が植物の栽培に関心が向けられていたのに対し、ガーデニングは欧米の園芸の要素である、装飾性やデザイン性を取り込み、生活空間を美しく演出するという観点が持ち込まれた所にあると認識されている。

また、女性インテリア雑誌「私の部屋 BISES」が1993年以降にイングリッシュガーデンを取り上げたことがブームの誘因とされていることを紹介している。同誌は、99年7月からは、新たに「BISES」という同じロゴを使いながら二度目の創刊号を発行した。「緑と親しむ暮らしを



提案する大人のためのライフスタイルマガジン」に変身したとされる。ブーム以前は園芸系の雑誌は栽培法を掲載していたが、ブーム以降はデザインや空間づくりを解説するものが増加した。

また、白幡（2001）は園芸とガーデニングの比較のなかで、ガーデニングは広く他者とのコミュニケーションを図る為の自己表現であり、園芸はありふれた自然と一人しみじみ対話する中で育まれた対象を深く見つめる畏敬の念であり、忘れがたい自然観だとしている。

このようにして、庭は屋外の部屋として、エクステリアを楽しむ対象となってきている。また、安定的に趣味として定着していると見ることができる。総務省統計局の調査によると過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った高齢者は1701万人で、行動者率は68.7%となっている。「趣味・娯楽」の種類別に行動者率をみると、男女とも「園芸・庭いじり・ガーデニング」（男性37.2%、女性38.7%）が最も高い。

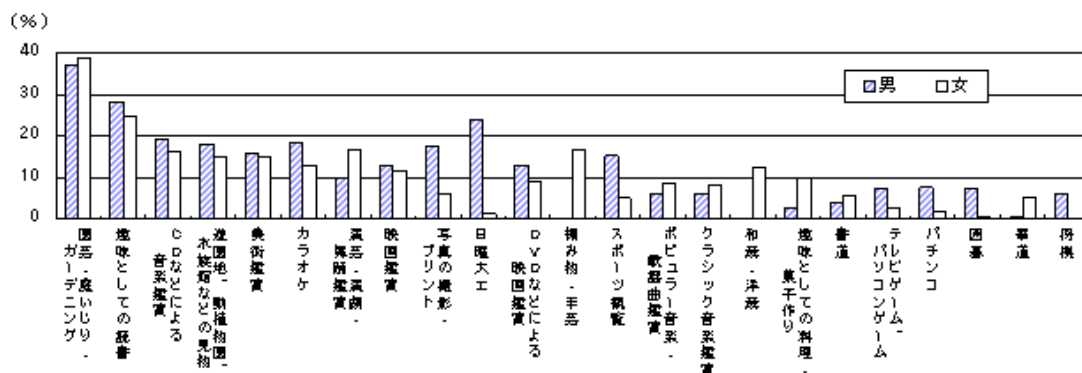


図2-17 高齢者の「趣味・娯楽」の種類別行動者率（出典：「平成」18年社会生活基本調査）

### 2-2-7 庭の利用実態

庭の利用実態に関する研究は多く書かれている。

| 行為の分類  | 庭での生活行為             | 割合 (%) |
|--------|---------------------|--------|
| 憩いの場   | 日光浴や昼寝や読書をする。       | 6.6    |
|        | バーベキュー等、家族での食事。     | 5.8    |
| 運動の場   | ラジオ体操やなやとび等の軽いスポーツ。 | 6.6    |
|        | 野球やゴルフの素振りをする。      | 10.4   |
|        | キャッチボールや卓球等のスポーツ。   | 1.4    |
| 趣味の場   | 盆栽・工作・修理等の軽い作業。     | 33.8   |
|        | 犬や猫等のペットの飼育。        | 16.8   |
| 幼児の遊び場 | 幼児のママゴトや行水。         | 7.2    |
| サービスの場 | 物を置く。物置を置く。         | 30.9   |
|        | 洗濯物や布団を干す。          | 45.1   |
|        | 自動車のパーキングスペース。      | 25.1   |
| 植栽の場   | 樹木の育成。（鉢植えは除く。）     | 72.3   |

図2-18 庭での生活行為とその分類（出典：藤田・梅津 1999）

谷口ら（1991）は庭での生活行為について調べており、上の表からはサービスの間や植栽の間としての利用が多く、憩いの場としての利用が少ないことが分かる。

片山ら（2002）による下のグラフは各利用が行われる頻度を表しているが、「通る」が最も多く、「植栽の手入れ」以外は趣味や憩いの場としての利用は比較的少ないことが分かる。

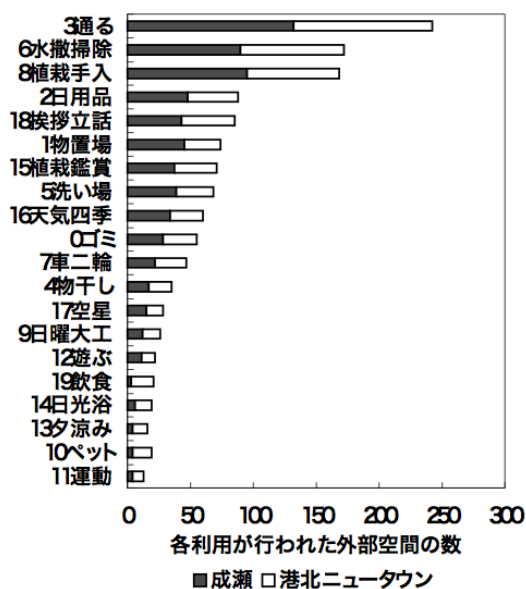


図 2-1 9 各利用が行われた外部空間の数 (出典：片山・久保・添田・大野 2002)

また、分譲住宅の庭のあり方の現状に疑問を持ち、庭の形態によって誘発される行動を調べた落合（2007）によると、リビングや居室の開口を一部道路側に向け、庭を道路付近に確保して出入りを容易にした「公私対面型」の庭は「お隣さんと話す」「子供が遊ぶ」といった近隣とのコミュニケーションをとることに高い利用頻度を得ている、としている。ただし、庭の利用は決して多いとは言えない。平日の庭は、ほとんど使われていない。

| 庭の形式  | 平日平均<br>出庭回数<br>(回) | 平日平均<br>利用時間<br>(分) | 週のうち、無利用日<br>が有る |
|-------|---------------------|---------------------|------------------|
| 公私対面型 | 1.72                | 26.61               | 55.22%           |
| 公私直交型 | 2.00                | 20.26               | 61.36%           |
| 公私分離型 | 1.45                | 16.14               | 69.39%           |

図 2-2 0 平日庭を利用する頻度 (出典：落合 2007)

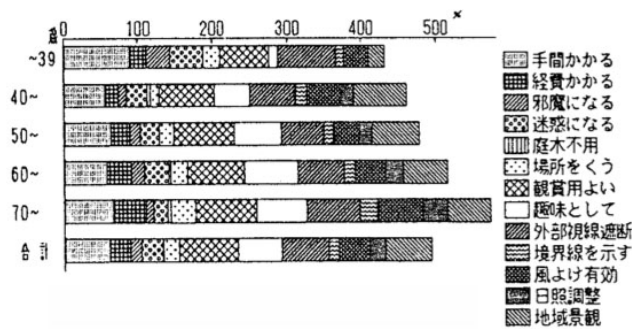


図2-2 1 庭木スペースに対する考え 庭主の世代別 (出典：藤田・梅津 1998)

また、藤田・梅津(1998)は世代別の庭主の考えについて調べ、若い世代ほど「観賞用としてよい」、「趣味として良い」が減少し、「手間がかかる」「経費がかかる」という否定的な意見が多く、「地域景観に良い」という意見が減少していることを指摘した。庭主のライフスタイルの変化が読み取れる。

このように、庭の利用のバリエーション・頻度ともに少なく、滞在時間も短く、若い世代ほど庭離れが進んでいくことが予想される。

## 2-2-8 考察

かつて庭は限られた階級の人のものであったが、第二次世界大戦後の持家政策によって、多くの人が庭に接した郊外の住宅地に住むようになった。もともと庭というのは囲まれた空間を指しており、初期に造られた住宅地も塀によって囲まれていた。高い塀によって分断された庭は、隣の空間とはあまり干渉することはなかったが、のちに囲いがなくなったり低くなったりしたことによって、互いに干渉する空間になってきたと言える。このように囲いが変化した背景には、自動車の普及が大きいと考えられる。互いに干渉することによって、景観や街並みに対する意識も強くなり、住民に共同意識が芽生えるような工夫が住宅地にもされるようになった。

また、自動車の普及により、ガレージのスペースが取られたため、観賞用の植栽スペースは狭い空間になっていった。住宅の洋風化も進むにつれ、それに接する空間も洋風化し、実用的なテラス等がつけられた。1990年代になると、これまでの園芸とは異なる、ガーデニング文化が支持を集め、庭の洋風化も進んだと考えられる。ガーデニングや園芸は高齢者の趣味として人気が高く、今後とも高齢社会の中で重要な位置づけになるだろう。以上のように、かつての自然を縮景として取り入れて愛でる観賞用の庭から、実用的な庭へ、また、空間づくりを楽しむ花の庭へと使われ方や嗜好も変化してきている。ただし、庭の利用実態を調べる研究による

と、庭の利用回数や、使われ方は限定されている。このように、庭空間は価値観の変化や生活スタイルの変化に伴い、大規模戸建て住宅地が造られるようになった1960年代後半ごろから形を変貌させているといえるが、未だ利用方法は限定的である。

## 2-3 アメリカの郊外住宅の庭との比較

### 2-3-1 開かれた芝生の庭

戦後の西欧文化の影響は大きいものであった。海外でも、日本と同じように第二次世界大戦後、住宅不足の時代を経験する。ここでは諸外国の中で、一足先に木造の戸建て住宅の大量供給を行ったアメリカの庭に着目する。この住宅の大量供給を行ったのはレビット社のような宅地開発をデベロッパーで、その後の住宅供給の礎を築いている。日本より先に自動車社会が進行したアメリカの郊外住宅の庭はどのような位置づけであったのだろうか。

戦後のベビーブーマー世代をターゲットにつくられた初期の郊外型戸建て住宅地、レビットタウンでは、建蔽率12%ほどの住宅の最大の売りは前庭の芝生であった。前庭は第一印象、住宅地の価値に繋がるということで、誰もが必死になって手入れをした。手入れを忘れた場合は、管理会社が代わりに草刈りをして、請求書がポストに入れられる、という屈辱を味わった。そして、芝生ではなく、違う植生を育てようとするすると近隣住民からの制裁が加えられる。様々な消費者の不安をあおるような宣伝などにより、全国的に狂信的な美しい芝生への追求が始まったことが述べられている。庭にお金をかけるため、家財道具をほとんど持っていない人もいたほどである。

スタインバーグ(2006)は、なぜこれほど住民たちが庭を熱心に入手するのかという点に対して、機械化、効率化によって仕事にかかる時間が減り、余裕ができた父親たちの「プロテスタントらしく、建設的な」休日の過ごし方として、芝生の手入れは人気が出た、と考察している。また、母親たちにとって子供を遊ばせる場所として庭が最適であったと指摘している。目が行き届く上に、どろんこになる心配がなかったからである。またやがて、このような価値観で芝生の上で育った子供たちは同じようにマイホームには完璧な芝生を求めるようになる。ただし、芝生の維持は環境への大きな負荷や格差社会のもとで成り立っており、アメリカ社会の今後の課題でもある。<sup>xiv</sup>

## 2-3-2 日本の庭の特性、日米比較より

まずアメリカの郊外戸建て住宅との比較で注目したいのは、囲みによって生まれる違いである。近隣に対して開かれた形態を持つアメリカの庭では、社会に対するアピールが重要であり、社会的な制裁がかかるほど、手を抜くことが許されない。一方、囲まれた日本の住宅の庭は、比較的自由的な空間として使われてきた。隣近所に迷惑さえかけなければ、どのようなスタイルにしてもよいが、庭主の勝手である。日本の庭は、趣味の庭、個人が見て楽しむための庭である。よっぽどのことでもない限り、塀の中の庭に文句を付ける人はあまりいない。その分、プライベートな空間として発展した。逆に言えば、他人の庭に対して不満を持つことがあったとしても、自分にはどうすることもできないので、無関心になっていったとも捉えられる。

次に着目したいのは、アメリカの庭では家族で手入れに関わっているということである。日本では、庭の規模が小さい、ということもあるだろうが、手入れを家族総出で行うことはあまりない。プロテスタントの宗教的な価値観からも家族での手入れをする習慣が出来ている。芝生という平面的な形態がルールとなっている住宅地に関しては、美しい芝生をつくることによってうまれる隣家との連続性が、コミュニティの価値を維持する上で非常に重要視されているのである。日本においては若い世代は共働き等で忙しいことに加え、社会的な縛りもないのでこのような習慣がなく、庭離れが起こる一因となっている可能性がある。

このように、開かれた庭であると、近隣に対して常に気を使う必要性が発生する。このため、管理のモチベーションが生まれやすいが、ストレスも大きい。逆に日本のように囲まれた庭であると、プライベートな空間となり、庭主にとって自由であるが、隣家との連続性はとぎれやすい。このため庭の手入れは社会的責任というより、趣味として理解されてきている。よって、管理の意欲を向上させるためには、趣味がより楽しくなるような方法が望まれる。また、これはオープンな外構になった日本の住宅地にも同様に言えることであって、社会的責任による意欲向上よりも、庭を楽しむことによる管理への意欲向上が必要であり、このためには庭空間のより多様な利用価値が求められてくるだろう。

## 2-4 戸建て住宅の庭が持つ意味

庭はほとんどすべての郊外戸建て住宅地の住宅が持つ空間である。住宅建設用に整備された画一的な土地の分譲がされてきたのにも関わらず、多くの庭主はそれぞれに工夫を行い、個性的な庭を作り上げてきた。また、庭空間が開けてきたことにより、「街並み」に対する意識も生まれており、公共的な役割も意識されている。住宅地の共有地の管理については整備だけな

く、その後のコミュニティづくりが大切であると研究により分かっている。今後、庭がオープンになっていくにつれて、庭主の社会性や、庭を楽しむことによる管理への意欲向上がより問われてくる。また、庭好きだけが楽しむものではなく、庭を持つ人すべてが参加できるものであって欲しいところである。

次章ではその可能性がある庭活用の方法としてオープンガーデンを取り上げる。

---

#### <脚注>

<sup>i</sup> ミサワホーム総合研究所(2000)

<sup>ii</sup> ミサワホーム総合研究所(2000)

<sup>iii</sup> 十世紀から十三世紀頃まで、邸宅形式の主流は寝殿造である。典型的な寝殿造を構えたのは、三位以上（後には五位以上）の貴族たちである。天皇の御所もこの中に入る。寝殿とは、古代中国の唐の時代の宮殿では正殿とか主屋という意味である。築地塀で囲われた方一町（約百二十メートル四方）の敷地に南面して建てられた寝殿を中心として、東西北に対屋を配し、それらを相互に透渡廊とか渡殿といわれる屋根つき吹き放ちの廊下でつなぎ、東西の対屋から細長い廊がのび、その先に泉殿と釣殿を設けた形式を指している。寝殿正面の空間は二部構成となっており、ひとつは白砂の部分であり、行事の場であるとともに、鶏合、蹴鞠、雅楽、舞踊などが催される空間でもある。もうひとつはこの白砂の庭の南に広がるもので、ここでは自然の風景を模した景が再現されている。池を中心として、それに流れ込む遣水や、池の中の中島、朱塗りの橋、草木、石組などで構成される。伊藤ていじ「家の変遷と庭の変遷」

<sup>iv</sup> 書院造は室町時代の禅寺の書院（学問所）の様式を起源とするといわれているが、詳しくは分かっていない。むしろ桃山時代から江戸時代にかけての将軍や大名の邸宅、桂離宮のような宮家の別荘、明治・大正時代に和風住宅と称されたものを思い浮かべた方が理解しやすい。鎌倉時代、室町時代は寝殿造から書院造への過渡期と捉えることができる。この頃から、座敷飾りに趣向が凝らされるようになり、会所といわれる武家風の客殿が鬮茶、花瓶合、猿楽などの新興の遊樂の場となった。こうして書院造化した邸宅に付随する庭園は現存しないが、上杉家本の『洛中洛外図屏風絵』の細川管領邸をみると、寝殿造の砂庭の部分がなく、植栽が施された山泉水形式の庭であったことが分かる。このような形式がその後大規模化し、歩きながら楽しむ回遊式庭園となっていく。回遊式の思想は入口から茶室に至る経路を庭として構成した茶庭に由来している。したがって回遊式庭園では茶庭が創り出した飛石、茶湯の美意識によって社寺から転用された石燈籠、茶湯の作法に必要とされる蹲踞、そして茶湯を楽しむことのできる茶屋が、回遊式庭園の景の一部として配される。伊藤ていじ「家の変遷と庭の変遷」

<sup>v</sup> 禅宗寺院の主屋の方丈の庭は禅宗哲学の結果として生まれたものである。およそ禅宗では捨て去ることのできる要素はすべて捨て去る。自然がもつ外衣はできるだけ剥ぎとろうとする。このようにして石庭が生まれ、龍安寺の庭がその典型のひとつである。稀に石の代りに、楓のみ（高桐院）、桔梗のみ（芳春庵）、刈込のみ（正伝寺）といった形式のものもあるが、庭園要素を絞り込んでいる点では禅宗の哲学につながっている。伊藤ていじ「家の変遷と庭の変遷」

<sup>vi</sup> 川添登「庭と日本家屋」

<sup>vii</sup> 長谷川徳之輔(2008)

<sup>viii</sup> 伊藤ていじ「家の変遷と庭の変遷」

<sup>ix</sup> 戦後間もなくは12坪以上の戸建て住宅は建設を禁止された。しかし、富裕層の要求に応え、徐々に規制は緩められていった。1948年には15坪まで建設が認められた。1949年には戦後のインフレの中で隠匿物資などヤミ経済の繁栄に寄生するヤミ建築をも含めて、戦後最高の70万戸を超える1948年の住宅建設の

---

山はすでに下り坂に向かっていた。こうして、1949年6月には30坪以内の住宅はただ届け出さえすれば自由に建てられるようになり、1950年2月には坪数の制限は完全に撤廃された。西山 1976

<sup>x</sup> デペンデント・ハウスについては、そのものが日本人の住宅のアメリカ化に影響を与えたという面より、むしろその建設作業の中で要求された水準に対応するための努力や、そこで習得された新しい技術力がのちの住宅復興における技術革新の推進に何ほどの基盤づくりをした。西山 1976

<sup>xi</sup> 住宅生産振興財団 (2011)

<sup>xii</sup> 二瓶正史 (1997)

<sup>xiii</sup> 住宅生産振興財団 (2000)

<sup>xiv</sup> しかし、完璧な芝生への追求は、多くの犠牲の上で成り立っていた。雑草が生えてくることを阻止するために、除草剤が多用された。除草剤はアメリカ軍が敵軍の陣地を枯れさせ、飢えさせるために使用した2,4-Dといういわゆる枯葉剤である。これはタンポポなどの双子葉類の植物のみを選択的に除草するので、好んで用いられた。しかし、同時にクローバー等、地中に養分を蓄える植物も殺してしまったので、芝生に化学肥料を与える必要性が生じた。また、芝刈りの方法として芝生を短く切りそろえる「クルーカット」が人気であるが、これは光合成を阻害し、さらに土表面の乾燥を早めている。これにより、水をより多く与える必要性が発生し、水不足の被害が多く発生した。また、水をたくさん与えることによって土から養分が流れだすのも早まり、より多くの化学肥料が必要とされる悪循環が起こる。除草剤や化学肥料による環境負荷はかなり大きい。そして、機械化が進むとともに、管理が可能となった芝生面積はさらに広大になり、環境負荷は増え続けていることも訴えている。

#### <参考文献>

- 1) ミサワホーム総合研究所 (2000) 「創園 庭を考える」
- 2) 西山卯三 (1976) 「日本のすまい II」
- 3) 長谷川徳之輔 (2008) 「東京山の手物語」三省堂
- 4) 住宅生産振興財団 (2000) 「まちなみコーディネート事例シリーズ No. 6 コモンのある街」
- 5) 山口 秀文 (2009) 「住宅配置と庭の変容過程に関する研究 -西宮市上甲東園の計画的住宅地を対象に-」神戸大学大学院
- 6) 藤田一枝・梅津光男 (1994) 「5109 現代都市住居における庭の空間構成に関する研究 : 2. 主な庭の面積構成および住宅内部との関係について」学術講演梗概集. E, pp. 217-218
- 7) 大月敏雄・深見かほり (2004) 「首都圏における民間大規模戸建て住宅団地の開発実態分析と今後の土地利用方策の検討」土地関係研究最終報告書
- 8) 国勢調査 <http://www.stat.go.jp/data/topics/topi244.htm>
- 9) 自動車保有台数統計データ [http://www.airia.or.jp/number/pdf/03\\_1.pdf](http://www.airia.or.jp/number/pdf/03_1.pdf)
- 10) 藤田一枝・梅津光男 (1993) 「5054 現代都市住居における庭の空間構成に関する研究 : 1. 庭の用途別部分スペースの面積構成について」学術講演梗概集. E, pp. 107-108
- 11) 藤田一枝・梅津光男 (1995) 「5567 現代都市住居における庭の空間構成に関する研究 : 3. 囲いの形態と機能について」学術講演梗概集. E-2, pp. 199-200

- 
- 12) 藤田一枝・梅津光男(1999)「5658 現代都市住居における庭の空間構成に関する研究：7. 庭の使い方と意識2」学術講演梗概集. E-2 pp. 213-214
  - 13) 住宅生産振興財団(2011)「コミュニティを育むまちなみづくり」p. 3
  - 14) 二瓶正史(1997)「戸建て住宅地の環境設計 宮脇檀の住宅地設計」住宅生産振興財団
  - 15) 住宅生産振興財団(2000)「住まいのまちなみを創る 工夫された住宅地・設計事例集」p. 23
  - 16) 和田香織・齊藤広子・小田啓文(2000)「7078 道コモン型戸建て住宅地の街なみと共同管理の評価：道コモン型戸建て住宅地の居住者評価・その2」学術講演梗概集. F-1 pp. 155-156
  - 17) 小田啓文・齊藤広子・和田香織(2000)「7079 戸建て住宅地のコミュニティ育成を目指し工夫された道路空間の利用と評価：道コモン型戸建て住宅地の居住者の評価 その1」学術講演梗概集. F-1, pp. 157-158
  - 18) 齊藤広子(2000)「戸建て住宅地におけるコンスペースの緑の管理による街なみとコミュニティ形成」日本建築学会計画系論文集(528), pp. 163-169
  - 19) 高橋ちぐさ・下村孝(2001)「ガーデニングブームの実態と背景：雑誌, 出版物を通して見たガーデニングブーム」日本造園学会誌 65(1), pp. 27-32
  - 20) 白幡 洋三郎(2001)「ガーデニングと園芸」日本造園学会誌 65(1), pp. 19-20
  - 21) 総務省統計局ホームページ <http://www.stat.go.jp/data/topics/topi244.htm>
  - 22) 藤田一枝・梅津光男(1998)「5640 現代都市住居における庭の空間構成に関する研究：6. 庭の使い方と意識」学術講演梗概集. E-2, pp. 243-244
  - 23) 谷口 汎邦・天野克也・吉田 敏明・栗原伸治(1991)「5030 独立住宅の庭における生活行為と意識評価について：大都市既成・住宅市街地における建築・空間の変容過程に関する基礎的研究 その7」学術講演梗概集. E, pp. 59-60
  - 24) 片山めぐみ・久保 恵美子・添田 昌志・大野 隆造(2002)「戸建住宅の外部空間に対する意識とその利用に関する研究：その1 外部空間の物理的特性と利用の関係(住空間の心理と行動(2), 建築計画 II)」学術講演梗概集 E-2, pp. 39-40
  - 25) 落合 正一(2007)「分譲住宅における庭の形式と利用実態に関する研究」住・生活研究(3), pp. 11-27
  - 26) Ted Steinberg(2006)「“American Green” The Obsessive Quest for the Perfect Lawn」Norton



## ■3章 庭の公開、オープンガーデンの現状

### 3-1 個人の庭空間の公共的利用 オープンガーデンとは

#### 3-1-1 日本のオープンガーデン

#### 3-1-2 英国のオープンガーデン

#### 3-1-3 オープンガーデンに関する既往研究

### 3-2 ケーススタディ

#### 3-2-1 全国のオープンガーデン

#### 3-2-2 現地訪問

(1) 流山 2012年5月

(2) 我孫子 2012年12月

### 3-3 柏市のカシニワ制度について

#### 3-3-1 カシニワ制度とは

#### 3-3-2 柏市公園緑政課ヒアリングより

#### 3-3-3 カシニワオープンガーデン登録者ヒアリング

#### 3-3-4 協働事業提案について

### 3-4 オープンガーデンの効果についての分析

#### 3-3-1 オープンガーデンによって可能になったこと

#### 3-3-2 今後必要だと思われる視点

### 3-5 小括

## ■3章 庭の公開、オープンガーデンの現状

前章では庭は完全なプライベートな空間ではなくなりつつあり、中間の領域としての意味を持ち始めたことを述べた。さて、不特定多数に向けた「オープンガーデン」というものもあり、2000年前後に盛り上がったガーデニングブームを受けて注目が集まった。これは庭の中まで人を引き込み、庭を公開する試みであるが、本章ではその実態とプラス・マイナスを含めた効果について考える。

### 3-1 個人の庭空間の公共的利用 オープンガーデンとは

#### 3-1-1 日本のオープンガーデン

日本の現代的なオープンガーデンに関する00年代初期の研究<sup>1)</sup>によると、オープンガーデンとは、

「情報が周知されていることにより一般市民が入り込み鑑賞することができる個人庭園」のことである。市民が「個人庭園」という私的な空間を訪問することにより、公的な空間と認識する。そして、オープンガーデンでは「個人庭園」を所有し、管理する「庭園主」は「来訪者」とガーデニングの情報交換といった交流をし、「来訪者」は「個人庭園」をまちなみとして景観認識するこれらオープンガーデンの基本となる3要素としてそれらの関係により、オープンガーデンが成立しているのである。

以降、多くのオープンガーデンに関する研究が行われてきた。1996年ごろのガーデニングブームが起こる以前より、庭の公開を開催している庭園はあったが、主にオープンガーデンが増えてきたのはガーデニングブーム以降である。このころより、研究分野でオープンガーデンが取り上げられるようになった。

庭主が手をかけて作り上げた庭を公開することによって、来訪者は美しい緑をみて楽しむことができ、庭主もそれによって喜びを覚えるといった双方にとって利益があることが注目され、まちづくりの方針の中に取り入れられたり、住民主体によって団体が立ち上げられたり等、全国各地で試みが行われた。成功している事例としては、長野県小布施町、兵庫県三田市、埼玉県深谷市等が有名である。地域によっては庭を公開している家をまとめて紹介する本やマップも販売や配布が行われており、認知度を上げるのに役立っている。

これらの本や、紹介するホームページの多くにはオープンガーデンは英国を発祥とするという記述が見られる。また、多くのガーデニング関連本でもイングリッシュガーデンが紹介されていることから分かるように、英国が意識され、影響を少なからず受けていると考えられる。

### 3-1-2 英国のオープンガーデン

参考として、英国のオープンガーデンについて記述する。英国のオープンガーデンは、ナショナル・ガーデン・スキーム The National Garden Scheme Charitable Trust (以下、NGS) という団体によって開催されている。相田・鈴木・進士 (2002) によると、ヴィクトリア女王即位 50 年祭記念看護協会から発進した女性全国委員会 Women's National Committee が 1927 年にオープンガーデンを企画したことにより、NGS の歴史が始まった。349 庭園の公開を 6 月に開催することを紹介するガイドブックがつくられたが、反響が大きかったため 260 庭園が追加され、7 月以降も公開期間を延長した。これらの庭への入場料が募金となった。その後、第二次世界大戦で多くの庭園が荒廃し、庭園を保護する為にナショナル・トラスト庭園基金が設置され、1949 年より NGS とナショナル・トラストは提携を始めた。一般市民の庭の公開や、茶菓の提供、植物の販売がされるようになるのもこの頃からである。1980 年には女王の看護団体から独立し、慈善団体となる。以後、寄付先は看護医療団体だけではなく、選択肢の拡大・多様化を行う一方、庭園主に選択権の一部を委託する運営手法の柔軟的な体制がとられている。上流階級との関係が深い組織であるので、知名度を高めるのに役立ったことも指摘されている。

NGS が今日でも出版しているガイドブック The Yellow Book 2012 (毎年出版) を見てみると、写真による紹介というより文字の情報量が多く、英国全土のオープンガーデン情報が地区ごとに紹介されている。貴族系統の公園のような大庭園から街の中の小規模庭園まで、約 3800 庭園の公開日やアポイントメントの必要有無等が分かりやすくまとめられている。日本全国のオープンガーデンを紹介する全国版の紹介本 (3 年毎に更新) はチャリティーを押し出した構成ではないが、マルモ出版より発売されている。出版社が独自に調べたルートでの掲載となるので、全国的な組織を持つ英国の Yellow Book とは多かれ少なかれ性格が異なる。しかし、表紙を黄色にする等、Yellow Book や英国のオープンガーデンへの意識が伺える。

### 3-1-3 オープンガーデンに関する既往研究

オープンガーデンに関する研究は上記に述べたように 2001 年頃以降に多く書かれている。相田・進士 (2001) によると、「オープンガーデンは『庭園主』と『来訪者』、もしくは『庭園主同士』が、ガーデニングという『好縁』によって結ばれ、『次の時代の基本的な人間関係を規定する重要な要因となる可能性がある』ボランティア活動、つまり手間暇をかけた庭園を公開する活動によって成立している」と述べ、新しい人間関係の構築可能性を示唆している。

長野県小布施町でオープンガーデンを行っている住民のヒアリングより、野中 (2002) は、

見られることが励みになっている一方、行政からの過大な支援はストレスになるということを指摘している。

オープンガーデンの地域経済への波及効果量の把握の研究を行った平田・橘・望月（2003）は、他の緑のイベントに比べ、低支出で他の緑のイベントより大きな効果が得られることを報告した。

林・長谷川（2005）はワークショップを住民と行い、小さな活動の実現が意欲向上につながったこと、多様な主体が関わることによって様々な役割分担に繋がったことを述べた。

また、オープンガーデン実施者の意識構造の変容に関する研究もされている。三分一・湯沢・熊野（2007）は実施者のオープンガーデンへの評価はプラス、マイナス両方の評価を包括する内容であったが、実施者の継続の意向は強いという分析をした。

朴・野中（2008）によると、オープンガーデン活動は地域の宣伝やまちづくりへのつながりの手段として行政が支援しているが、参加者たちは花好きという趣味活動の一環として自由性を重視している。また参加者だけの楽しみではなく、他の人に見せる楽しみをオープンガーデンの魅力として認識しており、花仲間との交流に対する希望が大きい。継続させるためには、行政は資金補助という面ではなく、人との交流機会や他団体紹介による連携ができるよう仲介役割を担当し、参加者たちが楽しみながら活動を続けられるようにすることが求められる、と述べている。

さらに、渡邊（2009）はオープンガーデンを実施する庭主の年齢層が、生活にゆとりが出た中高年女性が主体であることを指摘している。地域内に増加中の団塊の世代の参加や見学によって、高齢化社会で発展する可能性も指摘している。また、流山市ではまちづくり方針とオープンガーデン事業が切り離されている点に言及し、深谷市の取り組み事例のように、「まちづくりに貢献している」という意識を住民が持つ為にはオープンガーデンをまちづくりの行政方針、構想、施策に積極的に盛り込むことかできるかどうか今後の課題であるとしている。このように流山市のオープンガーデンと深谷市のオープンガーデンの比較分析から、行政運営が住民や庭主のモチベーションに効果的に作用していると述べている。

## 3-2 ケーススタディ

### 3-2-1 全国のオープンガーデン

以下は全国のオープンガーデン活動を行っている組織を筆者が独自にまとめた表である。インターネット検索エンジン google で「オープンガーデン」「オープンガーデン団体」「オープンガーデン+都道府県名」で検索した結果、出てきたものを表 3-1 にまとめた。

日本ではオープンガーデンを全国的に統括する組織がないため、すべてを把握できた訳では

ない。これらの団体の多くは独自でオープンガーデンの冊子やマップを作成し、配布や販売をおこなっている。そして、会員の有志が集まって庭を巡るツアーを行っているところも多い。公開範囲が会員登録者のみのものもある。多くの団体は独自のホームページを運営しているが、市町村のホームページによる簡単な紹介のもあり、詳細な情報を得るのは難しいものもあった。北海道、長野県、埼玉県、岡山県、兵庫県では一つの市町村だけでなく県内の多くの地区でオープンガーデンの試みを行っているところがある。

また、花好きの同好会的な活動と、コミュニティづくりや緑の景観づくりを意識した、行政や観光協会による働きかけが大きいものの2種類に分けられる。多くの団体で講習会や懇親会など会員同士のコミュニケーションを図る為の集会が行われていた。

また、会員やオープンガーデン参加者が運営する個人ブログも多数あり、庭の写真の公開や、庭主との会話の内容などが記載されており、コミュニケーションを楽しんでいる様子も伺える。さらに、ホームページのうち15件はオープンガーデン発祥地のイギリスについて触れており、英国文化やそのガーデニングへの憧れも伺える。流山のように公開日を地域で規定しているところもあれば、伊豆のようにそれぞれ別の日程で行っているところもある。通年公開の地域もあるが、ホームページ管理者により庭主への負担が大きいとのコメントもあった。もてなしの方法も様々で、日本庭園での野点が行われるところもあれば、イングリッシュガーデンでのアフタヌーンティーもあった。チャリティー活動を行っているところは少数であり、日本でのオープンガーデンは庭好き同士のコミュニケーションの為の場としての役割が大きいことが読み取れる。

| 都道府県 | エリア | 公開回数     | 会員数   | 設立年   | 日程の統一 | 組織名  | ガイドブック有無                     | HP有無 | 行政との連携 | チャリティ      | イギリスに関する記載 |   |   |
|------|-----|----------|-------|-------|-------|------|------------------------------|------|--------|------------|------------|---|---|
| 1    | 北海道 | 全域       | -     | -     | 2001  | ×    | Brains                       | ○    | x      | -          | -          | <a href="http://www.cgarden-hokkaido.co.jp/brains.html">http://www.cgarden-hokkaido.co.jp/brains.html</a> |   |
| 2    | 北海道 | 全域       | 127   | -     | 3003  | ×    | ガーデンアライズ北海道                  | ○    | ○      | x          | -          | <a href="http://www.gih2008.com/index.html">http://www.gih2008.com/index.html</a>                         |   |
| 3    | 青森  | 十和田市     | 20    | -     | 2008  | ×    | オープンガーデンとわだ                  | マップ  | ○      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://www.city.towada.lg.jp/machidukuri/opengarden/top.htm">http://www.city.towada.lg.jp/machidukuri/opengarden/top.htm</a>   |
| 4    | 岩手  | 若手県      | -     | -     | 1999  | ○    | オープンガーデンいわて                  | ○    | ○      | 同好会        | ○          | ○   | <a href="http://green.ap.teacup.com/opengarden/">http://green.ap.teacup.com/opengarden/</a>   |
| 5    | 岩手  | 奥州       | 23    | -     | -     | ○    | オープンガーデンやうしゅう                | マップ  | ○      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://www.city.shu.wate.jp/view/nc2c1-2622">http://www.city.shu.wate.jp/view/nc2c1-2622</a>   |
| 6    | 秋田  | 秋田県      | 40    | -     | 2012  | ○    | オープンガーデン秋田                   | ○    | x      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://akita.kezai.biz/headline/1483/">http://akita.kezai.biz/headline/1483/</a>   |
| 7    | 宮城  | 宮城県      | 42    | -     | 1998  | -    | オープンガーデンみやぎ                  | ○    | ○      | 同好会        | x          | ○   | <a href="http://www.garden-miyagi.ne.jp/community/">http://www.garden-miyagi.ne.jp/community/</a>   |
| 8    | 山形  | 蔵王       | 9     | -     | 1999  | ○    | 蔵王オープンガーデン                   | x    | ○      | 同好会        | x          | x   | ペンション<br><a href="http://www.geocities.jp/zaopengarden/club.html">http://www.geocities.jp/zaopengarden/club.html</a>  |
| 9    | 福島  | いわき市     | 12    | -     | 1999  | ○    | オープンガーデンいわき                  | ○    | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://www.opengarden.jp">http://www.opengarden.jp</a>   |
| 10   | 福島  | 須賀川市     | -     | -     | -     | 予約制  | オープンガーデンGreen Net            | -    | ○      | 同好会        | -          | -   | 東日本大震災をうけ解散   |
| 11   | 新潟  | 新潟市      | 18    | -     | 2004  | -    | オープンガーデン新潟                   | ○    | ○      | 同好会        | x          | ○   | <a href="http://www.15.alala.or.jp/garden-niigata/">http://www.15.alala.or.jp/garden-niigata/</a>   |
| 12   | 富山  | 富山県      | 53    | -     | 2008  | x    | のとキョシマツツシオープンガーデン            | マップ  | ○      | 行政HP       | x          | x   | <a href="http://www.ekunpoto-shikawa.net/mod/likes/opengarden2012/index.php?PAGE=results&amp;2011">http://www.ekunpoto-shikawa.net/mod/likes/opengarden2012/index.php?PAGE=results&amp;2011</a>                                   |
| 13   | 栃木  | 益子市      | 23    | -     | -     | x    | オープンガーデンまじこ(まじこ花のまちづくり実行委員会) | マップ  | ○      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://www.town.mashiko.tchigi.jp/dir.php?code=396">http://www.town.mashiko.tchigi.jp/dir.php?code=396</a>   |
| 14   | 茨城  | つくば      | -     | -     | 1998  | -    | つくばオープンガーデン                  | x    | ○      | NPO主導      | x          | x   | 街の緑化/オープンガーデンではない<br><a href="http://www.5e.biglobe.ne.jp/~tug/2007/07contents.htm">http://www.5e.biglobe.ne.jp/~tug/2007/07contents.htm</a>  |
| 15   | 埼玉  | 深谷市      | 80    | -     | 2004  | ○    | 花仲間                          | マップ  | ○      | 行政支援       | x          | x   | <a href="http://www.city.fukaya.saitama.jp/fukayahanaweb/opengarden.htm">http://www.city.fukaya.saitama.jp/fukayahanaweb/opengarden.htm</a>   |
| 16   | 埼玉  | 坂戸市      | 33    | -     | -     | x    | 坂戸オープンガーデン                   | マップ  | ○      | 行政主導       | x          | ○   | <a href="http://www.city.itsukuba.lg.jp/10_1039_166_310.html">http://www.city.itsukuba.lg.jp/10_1039_166_310.html</a>   |
| 17   | 埼玉  | 川口市実行    | 60前後  | -     | -     | ○    | 緑の里実行オープンガーデン                | マップ  | ○      | 造園業協会主催    | x          | x   | 川口市園楽協会<br><a href="http://kawazukyo.wordpress.com">http://kawazukyo.wordpress.com</a>  |
| 18   | 埼玉  | 鴻巣       | 58    | -     | 2007  | ○    | 鴻巣オープンガーデン                   | マップ  | ○      | 行政HP       | x          | ○   | <a href="http://www.city.konosu.saitama.jp/0_71_374.html">http://www.city.konosu.saitama.jp/0_71_374.html</a>   |
| 19   | 埼玉  | 曾根町      | 13    | -     | -     | x    | 曾根町地協会 懸せるオープンガーデン           | マップ  | ○      | 観光協会       | x          | x   | <a href="http://www.city.kokorozawa.saitama.jp/kurashi/jutaoka/seikan/mikanekakan/garden/boukokuichiran/index.html">http://www.city.kokorozawa.saitama.jp/kurashi/jutaoka/seikan/mikanekakan/garden/boukokuichiran/index.html</a> |
| 20   | 埼玉  | 所沢市      | 90    | -     | -     | x    | ここどこガーデン(トコガーデンナー)           | マップ  | ○      | 行政HP       | x          | x   | <a href="http://www.city.satama.lg.jp/contents/1335827859783/files/p1.pdf">http://www.city.satama.lg.jp/contents/1335827859783/files/p1.pdf</a>   |
| 21   | 埼玉  | さいたま市緑区  | 16    | -     | 2011  | ○    | 緑区 オープンガーデン                  | マップ  | x      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://hanayuuu-man.jimdo.com">http://hanayuuu-man.jimdo.com</a>   |
| 22   | 埼玉  | 熊谷市      | -     | -     | 2006  | ○    | オープンガーデン花友会くまがや              | マップ  | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://www.city.akiruno.tokyo.jp/contents_detail.php?rmdid=1632">http://www.city.akiruno.tokyo.jp/contents_detail.php?rmdid=1632</a>   |
| 23   | 東京  | あきる野市    | -     | -     | -     | ○    | あきる野市オープンガーデン                | ○    | ○      | 行政主導/地域防災課 | x          | ○   | <a href="http://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/spot/open_gardens.files/opengarden.pdf">http://www.city.nishitokyo.lg.jp/enjoy/spot/open_gardens.files/opengarden.pdf</a>   |
| 24   | 東京  | 西東京市     | 28    | -     | 2008  | x    | 西東京オープンガーデン                  | マップ  | -      | 行政支援       | x          | x   | <a href="http://www.city.akiruno.tokyo.jp/contents_007/007173.html">http://www.city.akiruno.tokyo.jp/contents_007/007173.html</a>   |
| 25   | 東京  | 小平市      | 26    | -     | -     | x    | こたいらオープンガーデン                 | マップ  | ○      | 行政HP       | x          | x   | <a href="http://www.city.nagayama.chiba.jp/appeal/9907/009927.html">http://www.city.nagayama.chiba.jp/appeal/9907/009927.html</a>   |
| 26   | 千葉  | 流山市      | 30前後  | 80    | 2005  | ○    | 花恋人                          | ○    | △      | 行政支援       | x          | x   | <a href="http://www.city.kashiwa.lg.jp/qci/event_info.html">http://www.city.kashiwa.lg.jp/qci/event_info.html</a>   |
| 27   | 千葉  | 柏市       | 31    | -     | 2010  | x    | カシワオープンガーデン                  | マップ  | ○      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://www.city.ichikawa.lg.jp/qci/event_info.html">http://www.city.ichikawa.lg.jp/qci/event_info.html</a>   |
| 28   | 千葉  | 市川市      | 6     | -     | -     | ○    | まちなかガーデンフェスタ                 | マップ  | ○      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://www.city.ichihara.chiba.lg.jp/lum/q-2012.html">http://www.city.ichihara.chiba.lg.jp/lum/q-2012.html</a>   |
| 29   | 千葉  | 市原市      | 12    | -     | -     | ○    | いはらオープンガーデン                  | マップ  | ○      | 行政HP       | x          | ○   | <a href="http://www.sagamihara-green.or.jp/open_g.html">http://www.sagamihara-green.or.jp/open_g.html</a>   |
| 30   | 神奈川 | 相模原市     | 42    | -     | -     | 予約制  | 相模原オープンガーデン                  | マップ  | ○      | 公益財団法人     | x          | x   | <a href="http://27.zen.to4.com/~spokankou/21-test1.html">http://27.zen.to4.com/~spokankou/21-test1.html</a>   |
| 31   | 神奈川 | 大磯市      | 757   | -     | -     | x    | おおいもオープンフェスタ                 | マップ  | ○      | 商工会主導      | x          | x   | <a href="http://www.town.chusei.nagano.jp/site/opengarden/">http://www.town.chusei.nagano.jp/site/opengarden/</a>   |
| 32   | 長野  | 小布施町     | 127   | -     | 2000  | x    | 小布施オープンガーデン                  | マップ  | ○      | 行政支援       | x          | x   | <a href="http://qos.mn.jp">http://qos.mn.jp</a>   |
| 33   | 長野  | 信州       | 80    | -     | -     | -    | オープンガーデン信州                   | マップ  | -      | 同好会        | x          | ○   | <a href="http://www.city.suzaka.nagano.jp/enjoy/kenkou/hana/open/pdf/map.pdf">http://www.city.suzaka.nagano.jp/enjoy/kenkou/hana/open/pdf/map.pdf</a>   |
| 34   | 長野  | 信州       | 41    | 58    | 2005  | -    | 須賀川オープンガーデン                  | マップ  | ○      | ○          | x          | x   | <a href="http://www.city.matsumoto.nagano.jp/shisei/matsuduku/sankyomidori/hanajpp/opengarden.html">http://www.city.matsumoto.nagano.jp/shisei/matsuduku/sankyomidori/hanajpp/opengarden.html</a>                                 |
| 35   | 長野  | 松本市      | -     | -     | 2004  | x    | 松本オープンガーデン                   | -    | ○      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://www.tz-gardeningclub.com">http://www.tz-gardeningclub.com</a>   |
| 36   | 静岡  | 伊豆       | 25    | 75-85 | 1998  | x    | 伊豆オープンガーデンクラブ                | マップ  | ○      | x          | x          | x   | バリエーション/参加が多い/会員/同好会的<br><a href="http://www.wakabusu2/">http://www.wakabusu2/</a>  |
| 37   | 静岡  | 浜松       | -     | -     | 2000  | -    | オープンガーデン浜松                   | ○    | ○      | 同好会        | x          | ○   | <a href="http://www.s-opengarden.jp">http://www.s-opengarden.jp</a>   |
| 38   | 静岡  | 静岡       | -     | -     | -     | x    | しずおかオープンガーデン.jp              | ○    | ○      | 新聞         | x          | x   | <a href="http://www.sophia.or.jp/~sugiyama/open-g.html">http://www.sophia.or.jp/~sugiyama/open-g.html</a>   |
| 39   | 岐阜  | 岐阜県      | 76    | -     | 2005  | -    | 岐阜オープンガーデン協会                 | ○    | -      | 同好会        | x          | ○   | <a href="http://www.city.rishin.lg.jp/event/1947/5589/index.html">http://www.city.rishin.lg.jp/event/1947/5589/index.html</a>   |
| 40   | 愛知  | 日進市      | 14    | -     | 2007  | x    | NOTA                         | x    | ○      | x          | ○          | ○   | <a href="http://www.ryokuchiyokai.toyota.aichi.jp/opengarden2011/index.html">http://www.ryokuchiyokai.toyota.aichi.jp/opengarden2011/index.html</a>   |
| 41   | 愛知  | 豊田市      | 61    | -     | -     | x    | 豊田オープンガーデンクラブ                | マップ  | ○      | 緑地協会       | x          | x   | <a href="http://www.kumanohananet.or.jp">http://www.kumanohananet.or.jp</a>   |
| 42   | 三重  | 熊野市      | 25    | -     | -     | -    | くまの花いっぱいネットワーク               | ○    | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://www.geocities.jp/su3reka/">http://www.geocities.jp/su3reka/</a>   |
| 43   | 大阪  | 富田林市     | -     | -     | 1998  | x    | すみれ会                         | マップ  | ○      | ○          | x          | x   | 街の緑化/オープンガーデンではない<br><a href="http://blog.sakai-comcom.net/aladdin/?p=2152">http://blog.sakai-comcom.net/aladdin/?p=2152</a>  |
| 44   | 大阪  | 堺市       | 61    | -     | -     | ○    | 花ネットたけし                      | マップ  | x      | 町会?        | x          | x   | <a href="http://www.geocities.jp/wyph235/open-garden-wakayama/">http://www.geocities.jp/wyph235/open-garden-wakayama/</a>   |
| 45   | 和歌山 | 和歌山県     | 33    | 112   | 2002  | ○    | オープンガーデンわかやま                 | ○    | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://www.aispark.co.jp/watch/opengarden.php">http://www.aispark.co.jp/watch/opengarden.php</a>   |
| 46   | 兵庫  | 宝塚       | 127   | -     | 2001  | ○    | 宝塚オープンガーデンの会                 | マップ  | ○      | 行政支援       | x          | x   | <a href="http://www.aq21.jp">http://www.aq21.jp</a>   |
| 47   | 兵庫  | 淡路       | 97    | -     | 2002  | -    | あわじオープンガーデン                  | -    | x      | -          | -          | -   | <a href="http://www.city.kawarishi.hyogo.jp/kurashi/midori/10995/010996.html">http://www.city.kawarishi.hyogo.jp/kurashi/midori/10995/010996.html</a>   |
| 48   | 兵庫  | 伊丹       | 10    | -     | 2005  | ○    | 大池緑まにろ公園クラブ                  | マップ  | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://www.sandgreenet.jp">http://www.sandgreenet.jp</a>   |
| 49   | 兵庫  | 川西市      | 22    | -     | -     | x    | 川西市緑化協会                      | マップ  | ○      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://www.nic.hi-ho.ne.jp/sawayakayakka-cnp/21.html">http://www.nic.hi-ho.ne.jp/sawayakayakka-cnp/21.html</a>   |
| 50   | 兵庫  | 三田       | 100以上 | 165   | 2000  | x    | 三田花と緑のネットワーク                 | ?    | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://garden.tamba.tv">http://garden.tamba.tv</a>   |
| 51   | 兵庫  | 播磨川      | 22    | -     | -     | -    | NPO法人さわか緑花クラブ                | -    | ○      | 同好会        | x          | ○   | <a href="http://www.tajima.or.jp/modules/event/index.php?entame=6059">http://www.tajima.or.jp/modules/event/index.php?entame=6059</a>   |
| 52   | 兵庫  | 丹波       | 50    | -     | 2002  | ○    | 丹波の森花クラブ                     | マップ  | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://www.geocities.jp/nakajima_haartfuina/og2012/opengarden2012-000info.html">http://www.geocities.jp/nakajima_haartfuina/og2012/opengarden2012-000info.html</a>   |
| 53   | 兵庫  | 豊岡       | -     | -     | 2002  | ○    | 豊岡市日惹町花と緑の協会                 | ○    | x      | 同好会        | ○          | x   |   |
| 54   | 兵庫  | 中播磨      | 28    | -     | 2002  | ○    | 中播磨ハートフルネット                  | マップ  | ○      | ○          | ○          | x   |   |
| 55   | 兵庫  | 朝来       | 10    | -     | 2002  | -    | 朝来市・朝来花いっぱい協会                | -    | -      | -          | -          | -   |   |
| 56   | 兵庫  | 芦屋       | 82    | -     | -     | ○    | 芦屋市オープンガーデン                  | マップ  | ○      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://www.geocities.jp/nakajima_haartfuina/og2012/opengarden2012-000info.html">http://www.geocities.jp/nakajima_haartfuina/og2012/opengarden2012-000info.html</a>   |
| 57   | 兵庫  | 多可       | 61    | -     | -     | ○    | ガーデンズネット                     | マップ  | ○      | 観光協会       | x          | x   | <a href="http://hakaopengardens.web.fc2.com">http://hakaopengardens.web.fc2.com</a>   |
| 58   | 兵庫  | 神戸市      | 26    | -     | -     | ○    | 花ハート神戸オープンガーデン               | マップ  | x      | 行政主導       | x          | x   | <a href="http://machikomai.aqa.ne.jp/view/tarumi2/375/45199/">http://machikomai.aqa.ne.jp/view/tarumi2/375/45199/</a>   |
| 59   | 兵庫  | はりま      | -     | -     | -     | -    | ひょうごオープンガーデン開催機構             | -    | -      | -          | -          | -   | <a href="http://blog.jp">http://blog.jp</a>   |
| 60   | 岡山  | 岡山       | 210   | -     | 1999  | x    | パレオブルック岡山                    | ○    | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://www.nkara.ne.jp/zumi-sun/opengardenn.html">http://www.nkara.ne.jp/zumi-sun/opengardenn.html</a>   |
| 61   | 広島  | 庄原       | 26    | -     | 2010  | x    | 庄原さとやまオープンガーデン               | ○    | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://www.nagahara.com/ogk/opengarden.html">http://www.nagahara.com/ogk/opengarden.html</a>   |
| 62   | 徳島  | 徳島       | -     | -     | 2009  | x    | 徳島ガーデナーズ倶楽部                  | x    | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://www.nagahara.com/ogk/opengarden.html">http://www.nagahara.com/ogk/opengarden.html</a>   |
| 63   | 福岡  | 北九州      | -     | -     | 2002  | -    | オープンガーデン北九州                  | ○    | ○      | 会員のみ公開     | x          | ○   | <a href="http://www.geocities.jp/minatozaka/">http://www.geocities.jp/minatozaka/</a>   |
| 64   | 福岡  | 湊波       | -     | -     | -     | -    | 湊波フラワークラブ                    | x    | ○      | 会員のみ公開     | x          | x   | <a href="http://www.kurume-hotomeki.jp/hanuhimaru-naw/web-content/opengarden_aya/index.html">http://www.kurume-hotomeki.jp/hanuhimaru-naw/web-content/opengarden_aya/index.html</a>   |
| 65   | 福岡  | 久留米市田主丸町 | 13    | -     | -     | x    | 田主丸オープンガーデン彩の会               | マップ  | ○      | 光コンベンション国際 | x          | ○   | <a href="http://www.kumanomoto.com/around/og_201103.html">http://www.kumanomoto.com/around/og_201103.html</a>   |
| 66   | 熊本  | 菊池市      | 7     | -     | 2002  | x    | 菊池オープンガーデン                   | マップ  | ○      | 観光協会       | x          | x   | <a href="http://www.chisesa-spa.com">http://www.chisesa-spa.com</a>   |
| 67   | 大分  | 大分市      | -     | -     | 1998  | -    | フェリスクラブおおい                   | -    | ○      | 会員のみ公開     | x          | ○   | <a href="http://www.miyazaki-csb.jp/~sunflogarden/index.htm">http://www.miyazaki-csb.jp/~sunflogarden/index.htm</a>   |
| 68   | 宮崎  | 宮崎       | 130   | 56    | 2001  | -    | サンフラワー宮崎オープンガーデン             | -    | ○      | 行政支援       | x          | x   | <a href="http://www.hmg-miyazaki.net/about.html">http://www.hmg-miyazaki.net/about.html</a>   |
| 69   | 宮崎  | 宮崎       | -     | -     | 10    | 2006 | HMGオープンガーデンみやざき              | マップ  | ○      | 同好会        | x          | x   | <a href="http://okinawa-nanjo.jp/garden/">http://okinawa-nanjo.jp/garden/</a>   |
| 70   | 沖縄  | 南城市      | -     | -     | 2009  | 年2回  | 癒いのオープンガーデン(観光協会)            | マップ  | ○      | 観光協会       | x          | x   |   |

表3-1 全国のオープンガーデン団体 (Google 検索より)

### 3-2-2 現地訪問

オープンガーデン開催の実態の参考事例として、流山市のオープンガーデン（公開期間 2012 年 5 月 18～20 日）と我孫子市日立総合研修所の庭園公開（公開日 2012 月 12 月 1 日）を見学した。双方とも柏市のオープンガーデン「カシニワ」登録者の一行と共に見学した。

（1）流山オープンガーデン 2012 年 5 月 20 日 主催：流山ガーデニングクラブ「花恋人」

見学したのは江戸川台駅周辺のエリアである。駅から近い住宅地でも 80 坪の広さで分譲された住宅地であり、庭面積に余裕がある地域である。既往研究によると、流山市が 2005 年に市主催のガーデニングコンテスト応募者に呼びかけ、市民クラブ「流山ガーデニングクラブ「花恋人（カレント）」が発足した。発足当初は 40 名のクラブ会員であったが、以降約 80 名、72 庭の公開に拡大している。5 月の公開は 30 庭前後であった。オープンガーデンの道案内ガイドブックが市内の書店や花屋で毎年改訂されて販売されている。当日道案内のマップを無料で手に入れることも出来る。

#### <A 邸>

バラの最盛期である 5 月の中旬であり、見事に咲いているバラを見ることができた。大勢で一気に訪問するのにも庭提供者は慣れた様子ではあったが、広い庭とはいえ、さすがに 20 名弱の人数で訪問すると長居をすることはできなかった。被災地への寄付といったチャリティーを目的とした鬼ぐるみのスタンプの販売もおこなわれていた。学生ボランティアによる受付もあり、道案内もしてもらえるようになっていた。



図 3-1、3-2

<B 邸>

オープンガーデンを行っていない近隣の住居もかなり手入れされている住宅が目立った。同行の柏市在住の見学者との会話から、オープンガーデンに登録していない庭でも近隣にオープンガーデンがあると、見られることを意識してきれいにしようと思うのだろう、という意見も聞かれた。B 邸の庭面積はそれほど広くはなかったが、壁面を使ったディスプレイは見学者に好評だった。オープンガーデンを行っている庭には千葉大学大学院の環境デザイン研究室の学生が作成した、風車付きの看板がかけられている。<sup>11</sup>ガレージの方ではテーブル席もあり、休憩をとっている人もいた。



図3-4、3-5

<C 邸>

小さな庭面積でも、勾配をうまく活かして見応えのある空間をつくり出していた。幅1m 足らずの隣家とのスペースではあるが、様々な多肉植物などをふんだんに使っているところや、エクステリアの作り込みにもこだわりが見られた。多くの見学者が感嘆の声を上げていた。庭主も表に出てきて、庭の説明を行っていた。



図3-6、3-7、3-8



(2) 我孫子日立総合研修所 2012年12月1日 主催：我孫子の景観を育てる会

こちらは個人宅の庭公開でも、ガーデニング愛好の組織による庭公開でもないが、民間所有の大庭園の庭公開の一例として挙げる。日立総合研修所は(株)日立製作所ならびに日立グループ企業に対し、経営研修、ビジネススキル研修、語学研修など、様々な人財開発ニーズに応える研修の開発、提供を行うコーポレートユニバーシティであり、初夏と初冬に庭園の一般公開を2002年より社会貢献の一環として行っている。

入場料は100円(子供無料)であり、スタッフからマップを受け取った。もともとある山の起伏を活かした森のような1万4千坪の大庭園である。散策ルートの途中で木々の葉の裏側を覗き込めるように、スタッフから手鏡を渡され、来場者は紅葉を楽しんでいた。また、しばらく進むと手賀沼を望むことができ、東屋や竹林もあるストーリー性のある回遊式の構成となっていた。研修所の前まで戻ると有志によるコカリナの演奏や、カレーの販売を行っていた。かなりの人数の来場者が見学しており、我孫子の景観を育てる会のホームページによると、1日の公開で来場者は1,000人を超えた。



図3-9、3-10、3-11

3-12、3-13

### 3-3 柏市のカシニワ制度について

後に4章、5章で述べる社会実験は柏市と協力体制で行っており、また、今後の市のオープンガーデン支援制度のあり方についても共に検討していくことになっている。社会実験は柏市で実施し、その過程で制度の登録者にも協力して頂いた内容は、制度の検討材料ともなっている。以下、カシニワ制度について述べる。

#### 3-3-1 カシニワ制度とは

千葉県柏市は東京都心から約30km圏に位置する人口約40万人、面積11490haの中核都市である。緑地を取り巻く課題として、緑地の減少、公園の不足、管理水準の低下した空き地や樹林地の発生等があり、緑豊かな住みよい街づくりを推進するために定めていた柏市緑の基本計画(平成8年3月)と沼南町緑の基本計画(平成16年3月)をもとに、平成21年6月に新しく緑の基本計画が定められた。基本計画の84施策のうちの一つ、「未利用地を活用したコミュニティガーデンづくり」が最重点施策と位置づけられたことを契機として、この施策の具現化にむけた制度がつくられることになった。

緑の基本計画での最重点施策「未利用地を活用したコミュニティガーデンづくり」に「オープンガーデンの支援」等関連する5つの施策を組み合わせ、1つの施策だけでなく複合的に施策を実施することが目指された。市の担当者による視察、協議、様々な検討がなされて、平成22年11月15日に制度運用開始の運びとなった。

この制度は、2つの制度の柱により構成されている。1つ目の柱は「カシニワ情報バンク」であり、主に緑地の暫定利用に対する仲介制度である。また、腐葉土や植物の苗や球根等、物資の提供等の仲介も行っている。2つ目の柱は登録者の庭を市のホームページで公開する「カシニワ公開」である。また、財団法人柏市緑の基金によるカシニワ制度登録者への助成金の交付が可能となっている。

カシニワ制度ホームページより抜粋：

**カシニワ情報バンク**は、土地・市民団体等・支援情報を登録したいかたに申請して頂き、市による審査ののち、登録内容の一部をホームページで公開するものです。土地所有者と活動団体等とのマッチングが図れ、交渉が成立すれば協定等の所定の手続きを行ない、使用期間等の土地の利用に係る取り決めを定めます。空いている土地を対象に、使いたいかたの責任のもとに自由な取り組みを行なえる場として、公園に代わる新しい共用空間を作ることをねらいの一つとしています。

カシニワ公開は、一般公開可能な個人のお庭、市民団体等のかたたちがみどりの保全や創出のために利用されている土地を登録して頂き、オープンガーデンや誰でも利用できる地域の庭として、ホームページで紹介を行います。そして多くの方に、見学や利用を通して楽しんで頂きながら交流を深め、みどりとのかかわりの中で地域力を高めていくことをねらいとしています。

いずれも登録は無料です。なお、カシニワ制度に登録されたかたがたに対する助成金の交付(財団法人柏市みどりの基金による実施)を平成23年4月1日から行っています。

この制度を推進することによって緑地の保全、生物多様性の保全、コミュニティの醸成、都市緑化の推進、都市景観の演出、歩いていける身近なオープンスペースの確保、人々の交流の増進、地域力の向上に少なくとも1つは寄与するものと期待されている。

このような柏市の市民との協働による緑のまちづくりの取り組みが評価され、「第32回緑の都市賞」では、千葉県内では初となる最優秀賞の内閣総理大臣賞を受賞している。「カシニワ制度」については、全国的にも珍しい緑地の様々な利用に対応した包括的な支援制度の枠組みが高く評価され、土地活用の模範的事例を表彰する「土地活用モデル大賞」において、都市みらい推進機構理事長賞も受賞している。



図3-14 カシニワコンセプトダイアグラム (出典: 柏市ホームページ)

### 3-3-2 柏市公園緑政課ヒアリングより<sup>iii</sup>

カシニワのオープンガーデンへの登録数は平成1月28日現在、31件である。公開期間や、庭のどこまで入って良いかは庭主によって決められており、ホームページでそれらの情報を公開している。土地の固定資産税などの助成も行っている。柏市のカシニワ制度の担当部署である都市部公園緑政課の方にカシニワ制度の運用状況についてヒアリングを行った。

公園緑政課が現在行っている周知方法はチラシ、ホームページ、SNS サイト Twitter によるものである。今後もっと周知の手段を増やしていくつもりである。オープンガーデンの方では特にトラブル等は起きていない。カシニワの認知度を上げる以外で、困っていることはというと、制度自体が非常に柔軟に作られているため、何でも出来ると思われてしまうことがあることである。また、情報バンクに提供できる土地情報があまりないこと、支援情報があまり増えないこと等も課題である。登録者からは、隣接する流山市のオープンガーデンのように、統一公開日を設けたいという要望も出ている。まだ始まったばかりの制度であるので、改良しながら制度の推進をしていくことを前提としている。

### 3-3-3 カシニワオープンガーデン登録者ヒアリング<sup>iv</sup>

また、カシニワに登録している方 K さん（60代・女性）からもお話を伺った。

登録したきっかけは、別の登録者の紹介によりこの制度を知ったことであった。プランターでいっぱい花を咲かせるのが好きで、人に見られてほめてもらうことがやりがいになると思い、登録した。看板があると近所の方との話題にもなるし、ほめてもらえて嬉しい。また、K さんは登録して、きれいに咲かせようと思うことで忙しくすることが大事だと感じている。登録したことによって感じるメリットは、カシニワバンクの支援情報で、サギソウの球根等がもらえることである。デメリットは特に感じていない。人がいっぱい来て困るということもない。

我孫子の庭園見学の際も、他のカシニワ登録者と話をする機会があったが、トラブルは特に発生しておらず、ホームページを見て訪問されることもない、という話であった。

一方、カシニワ登録を勧められても登録しない人もいる。登録者の K さんと同じ地域に住んでいる方は、「見せるほどの庭ではない」「常にきれいにしておかなくてはいけないのは負担」と述べていた。また、近隣がどう思うかを気にする様子も伺えた。

### 3-3-4 協働事業提案について

柏市には市民公益活動団体からの企画・提案をもとに、団体と市が、ともに提案内容の実現性を高め、事業の実施に向けて力を合わせていく「協働事業提案制度」がある。選考を通過した提案の事業内容等を一年間かけて成案化に向けて調整し、その翌年度に協働事業（市から提案団体への特定契約、形式的には市からの受託事業）として実現化していく。

市の担当部署が解決したいと考えている、指定されたテーマに対して市民団体が具体的事業の提案をするコースもあり、平成 24 度は公園緑政課によってオープンガーデンの普及を推進する為の提案が募集された。これに対し、今回の柏ビレッジでの社会実験を担当している学生団体 balloon として提案をおこなったところ、平成 25 年度より協働事業として 2 つのモデル地区でオープンガーデンを実施することが決定し、平成 24 年度は実施に向けて協議を重ねている。

balloon の提案の内容を簡単に説明すると、住宅地の庭は面積が限られており、オープンガーデンは庭を見学するだけであるとすぐに見終わってしまうという点に着目し、イベントを挿入することによって、庭を見るだけの場ではなく、交流の場にしようというものである。また、オープンガーデンは実際に体験してみないと分からない部分も多いので、一緒にオープンガーデンについて知る、見る、計画する、実施するという 4 段階の体験型のプログラムを行うというものである。今回の柏ビレッジでの社会実験は来年度の実装を意識した実験にもなっている。

## 3-4 オープンガーデンの効果についての分析

### 3-4-1 オープンガーデンによって可能になったこと

以下、日本のオープンガーデンについてまとめる。

#### <庭好きコミュニティの育成・交流による意欲向上>

1990 年代後半より全国各地で行われるようになり、現在でも多くの団体により、公開が続けられている。イベントの広報などで市町村の支援を受けているところが多いが、主に庭を管理するのは庭主であり、庭主は見られることを励みにして庭の手入れを懸命に行っている。組織の会員等が頻繁にツアーを行っていることから、庭好き同士のコミュニティ形成に貢献していることも分かる。また、ツアーで見学した内容を自宅の庭づくりに活かし、より魅力的な庭づくりにむけて努力している。多くの組織は英国 NGS の影響を受けており、ホームページや「イエローブック」などにそれが現れている。また、イングリッシュガーデン風の庭園づくりも非常に人気があり、英国を意識していると考えられる。

#### <景観の美化>

周囲の庭のレベルも向上しているのだとしたら、それも成果といえるだろう。流山のオープンガーデンの際に、見学者は口々にオープンガーデンに登録している庭そのものだけでなく、周囲の庭のレベルの高さについて賞賛していた。そのような効果については調査することはないが、彼らの実感が事実だとすれば、登録されている庭の数以上の庭が美化されており、まちの景観の向上に役立つといえるだろう。

#### <高齢者の趣味>

渡邊(2009)が指摘しているように、オープンガーデンを実施する庭主の年齢層は、生活にゆとりが出た中高年女性が主体である。実際に同行したオープンガーデンのツアーの参加者の全員がまだまだ元気な中高年世代であり、ツアーで訪れた庭では、自身の庭づくりに活かすために熱心な観察が行われていた。また、お互い初対面であったにもかかわらず、参加者同士の会話も弾んでいる様子が見受けられた。このような世代の庭への関心が大きくなり、オープンガーデンによってつくられたつながりが退職後のコミュニティとして、また、意欲ややりがいとして重要なものになるほど、庭の手入れも熱心に行われることになるだろう。

### 3-4-2 今後必要だと思われる視点

#### <敷居を低くする>

庭は戸建て住宅地においてはほとんどすべての人が所有しているが、オープンガーデンは庭好きに絞り、ターゲットとしたものとなっている。その中でイギリス式庭園やチャリティー、「イエローブック」が好まれているが、すべてイギリスへの意識であり、「庭の公開」と「英国」は別々にとらえていいものであると思われる。また、手をかけて育てられた花や空間を見ることや見せることに参加者の関心がおかれている。このようなことに庭公開者の関心が向き、技術の向上などに特化するあまり、外から見ると、ある程度の庭のレベルがないと入ることが難しいコミュニティであると思われる傾向があるため、それによって生まれる交流はある程度限られる。その他にも、ヒアリングから分かるように、近隣への配慮や常に見られることなどの不安要素があり、登録される庭の数が思うように伸びないという課題がある。柏市のオープンガーデン登録制度も、例外ではない。

### <滞在型の交流>

現地についてみて分かったことであるが、日本の戸建て住宅地の庭のほとんどは見学してしばらく滞在できるほどは広くなく、見るという目的のみで訪れた場合、庭主と来訪者の交流が生まれるのは難しいと考えられる。

住宅地のオープンガーデンで本来の交流という目的を達成しようとした場合、留まるための工夫や、交流が生まれるための工夫によって、オープンガーデンによる交流がよりきっかけ作り、強いつながりづくりに役立つものと思われる。

日本には、オープンガーデンの全国的な組織と呼べるものはないが、地域内で地域の魅力を向上させようとオープンガーデンを行う動きがある。この効果を十分に引き出すためには、十分なコミュニケーションが地域内で行われる必要があり、その方法が問われてくる。

## 3-5 小括

オープンガーデンの効果や課題について述べた。効果として、庭好きコミュニティの育成・交流による意欲向上、景観の美化、高齢者の趣味や庭好き同士のつながり作りがあげられる。これらは、緑地を管理するという視点で見ると、大きな成果を上げていると見ることができる。しかし、オープンガーデンの「地域の人と庭を共に利用する」という価値に焦点を当ててその効果をより引き出そうとすると、課題として敷居が高いため参加に躊躇する人がいるということや、滞在型の交流にするには工夫が必要であるということが挙げられる。次章の社会実験ではこれらを考慮しつつ、住宅地の課題に対処する一つの方法としてオープンガーデンを見ていく。

---

### i<脚注>

i 相田明・進士五十八(2001)「先駆的事例を通じた我が国におけるオープンガーデンの意義」東京農大農学集報 46(3), pp154-165

ii 流山市ホームページ

iii 公園緑政課ヒアリング 全文は付録資料-1 参照

iv カシニワ登録者ヒアリング 全文は付録資料-1 参照

<参考文献>

- 1) 相田明・鈴木 誠・進士五十八(2002)「英国ナショナル・ガーデン・スキームによるオープンガーデンの発祥と活動」日本造園学会誌 65(5), 393-396
- 2) National Garden Scheme 「The Yellow Book 2012」
- 3) 相田明・進士五十八(2001)「先駆的事例を通じた我が国におけるオープンガーデンの意義」東京農大農学集報 46(3), pp154-165
- 4) 野中勝利(2002)「長野県小布施町におけるオープンガーデンの特徴と課題」日本造園学会誌 65(5), pp. 805-810
- 5) 平田富士男・橘俊光・望月明(2003)「わが国におけるオープンガーデンの地域経済への波及効果量の把握に関する研究」日本造園学会誌 Vol. 66(5), pp. 779-782
- 6) 林まゆみ・長谷川利恵子(2005)「宝塚市山本地区を事例とした緑豊かなまちづくりに向けてのワークショップの成果とその検証」日本造園学会誌 68(5), pp. 871-874
- 7) 三分一淳・湯沢昭・熊野稔(2007)「オープンガーデン実施者の開放性に関する意識構造の検討」日本造園学会誌 70(5), pp. 391-396
- 8) 朴恵恩・野中勝利(2008)「オープンガーデン活動の実態からみた展開と課題」都市計画報告集 No. 7
- 9) 渡邊誠(2009)「流山市におけるオープンガーデンに関する考察」日本国際観光学会論文集, pp. 77-83
- 10) 我孫子の景観を育てる会のホームページ  
[http://www.geocities.jp/abikokeikan/index\\_hitachi.html](http://www.geocities.jp/abikokeikan/index_hitachi.html)
- 11) 柏市ホームページ  
[http://www.city.kashiwa.lg.jp/living/living\\_environment/1384/1387/index.html](http://www.city.kashiwa.lg.jp/living/living_environment/1384/1387/index.html)
- 12) 細江まゆみ(2011)「カシニワで地域の魅力をアップーカシニワ制度の創設経緯と運用開始後の状況について」新都市 65(9), pp. 46-50



## ■ 4章 社会実験の実施 東急柏ビレジにて

### 4-1 社会実験の背景

4-1-1 対象地の概要 東急柏ビレジのこれまで

4-1-2 アンケート

4-1-3 住宅地の街区単位

4-1-4 アンケート

4-1-5 柏ビレジで実施することの意義

4-2 社会実験の目的

4-3 社会実験の方法

4-4 実験の概要

4-5 小括

## ■ 4章 社会実験の実施 東急柏ビレジにて

1章では庭の活用が住宅地にとって有意義であるという仮説を立てた。2章では庭は様々なポテンシャルを持ち、社会への関わり方を規定する部分があることを確認した。3章では「オープンガーデン」に着目し、その効果について分析した。本章はコミュニティのための場をつくる目的に、住民と東京大学と協力主体が行った社会実験を報告する。

### 4-1 社会実験の背景

#### 4-1-1 対象地の概要 東急柏ビレジのこれまで

東急柏ビレジは東京からちょうど30km圏の千葉県柏市に位置する、赤煉瓦の塀や樹木の町並みがある戸建て住宅の団地である。東急不動産が1980年から分譲を始め、建築家宮脇檀のまちづくりの思想をとりいれてつくられた。各住宅にガレージがあることから、自動車での移動をベースに計画されたことが分かる。柏ビレジ1600戸は1980年から約5年かけて徐々に建売販売された。そして1990年にほぼ完売となる。柏ビレジを開発当初に購入した世帯は、30～40代を世帯主とし、子育て期にあるいわゆる核家族と呼ばれる世帯が大半で、入居者の8割は、東京3区に勤める管理職であった。<sup>1</sup>バブル期には不動産価格が高騰したが、現在は不動産価格が比較的低下し、緑豊かで落ち着いた雰囲気が子育て環境に向いているとして、再び若い世帯がちらほらと入居している。

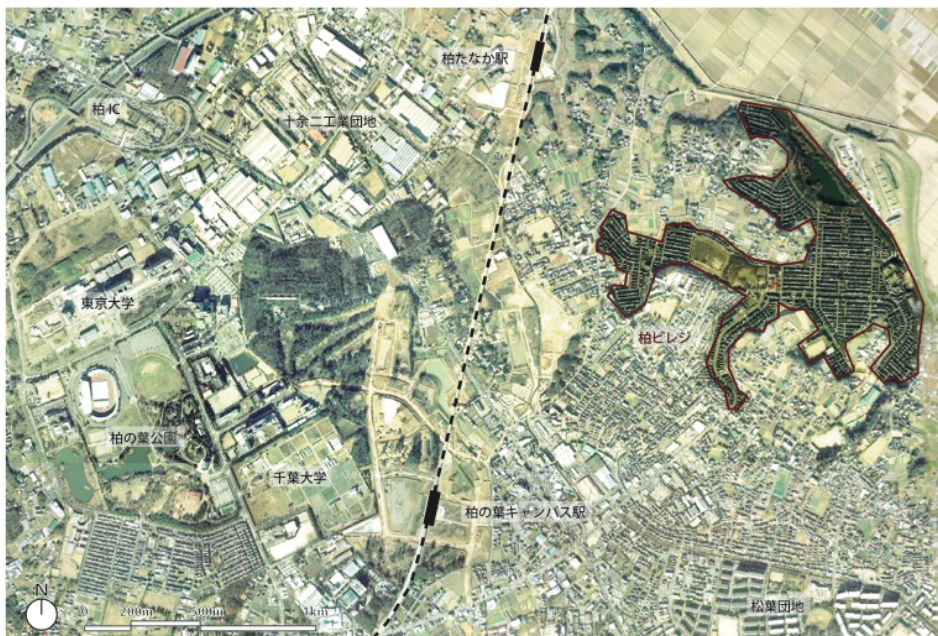


図4-1 柏ビレジと主要周辺施設 (出典：木口 2011)

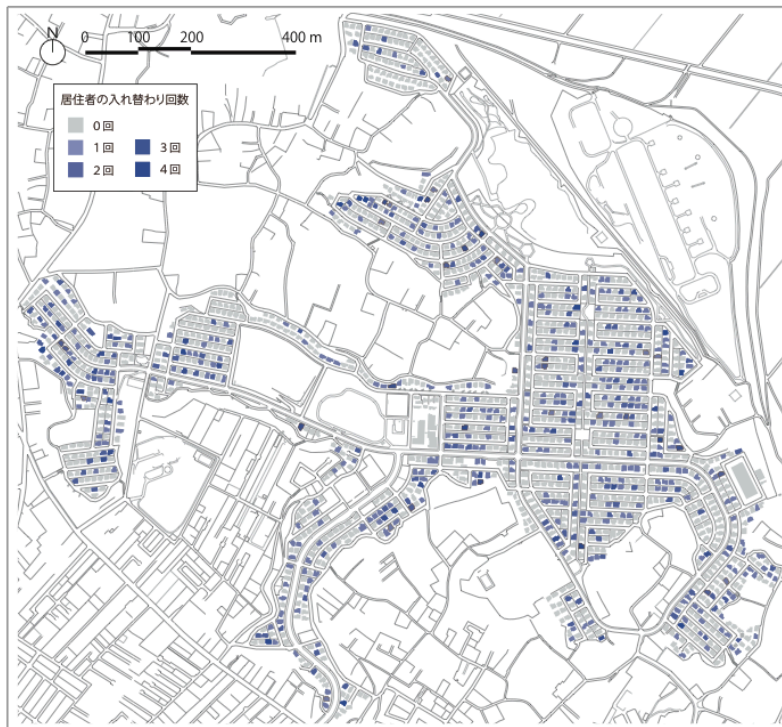


図4-2 居住者の入れ替わり回数 (出典：木口 2011)

現在は 1600 世帯、約 5000 人が住んでおり、年齢層としては 50 代から 60 代が最も多い。

また、柏ビレジの建築協定と緑化協定も特徴的である。こちらは当初街並みを造る際に守られた独自の約束事であるが、建築協定の方では専用住宅では店舗を出してはいけない等、第一種低層住居専用地域よりさらに厳しい規制が定められている。緑化協定の方ではすべての家にシンボルツリーを配置するなどといった取り決めがある。

最寄り駅はつくばエクスプレス線の柏の葉キャンパス駅と柏たなか駅であるが、車やバスで 10 分ほどの距離にある。住宅から徒歩でアクセスできる団地の中心的な位置に、東急ストアを中心とした 10 店舗ほどの商店街も一緒に計画された。しかし、一時期は賑わいを見せたが、やがて国道や県道沿いに造られた、より規模の大きいスーパーマーケットとの競争に負け、東急ストアは撤退を余儀なくされた。分譲初期に入居した住民によると、柏ビレジ住民の井戸端会議の場として機能していた商店街であったが、今は訪れる人が格段に減り、かつてのような活気はない。

このような状況を危惧して住民の間で構想が練られ、2006 年 3 月に「はなみずき」というコミュニティカフェが商店街の 1 店舗につくられた。東急ストアがなくなり、集客効果が落ちたとはいえ、商店街にはとどまって住民がコミュニケーションをとれるカフェのような場所が必要だと感じた人が多くいたからである。もともとゼロからコミュニティを作り上げてきた柏ビレジの住民はまちづくりに対して関心がある人が多く、地域の主婦 70 名ほどがはなみずきのボ

ランティアスタッフとして輪番で働いている。<sup>ii</sup>

柏ビレジには自治組織が柏ビレジ自治会をはじめ 7 団体あり、ホームページによると、コミュニティールームはなみずきやシニアクラブ新樹会等をはじめ、サークルのような任意加入の団体は 20 数団体存在する。<sup>iii</sup>

2011 年になって柏ビレジ活性化委員会という有志住民による団体も立ち上げられ、商店街の空き店舗を利用したサービス拠点をつくることができるように現在計画している。こちらは活性化委員会とともに東京大学も社会実験として取り組んでいる、進行中のプロジェクトである。しかし、商店街の衰退への関心が集まるさなか、2012 年夏に商店街の正面にあり、夜遅くまで明かりを灯していたコンビニチェーン店が撤退し、商店街はますます閑散とした。

柏ビレジ開発から現在までの主な出来事

| 年月      | 出来事  |
|---------|--|
| 1979    | 区画整理完了   |
| 1980    | 販売開始   |
| 1981    | 入居開始   |
| 1982.04 | 花野井小学校創立   |
| 1982    | アイビーモールオープン  |
| 1982.10 | 第一回緑の都市賞 佳作受賞 「アイビーとレンガ」に象徴された<br>タウンスケープの創造と、我が街・柏ビレジの緑化の方向 |
| 1988    | 新樹会発足  |
| 1995    | 追加造成(第二・第三地区)  |
| 1996    | 販売終了   |
| 2001.02 | 東急ストア撤退  |
| 2001.04 | コンビニ出店   |
| 2001.06 | 建築協定に顧問建築士を招聘  |
| 2002.03 | 緑道防犯灯の改修   |
| 2002.05 | 新緑地協定発足  |
| 2003.04 | 花の井保育園開園   |
| 2005.08 | TX 開業  |
| 2006.03 | はなみずき開設  |
| 2010.06 | 活性化プロジェクト発足  |
| 2011.02 | 柏市都市景観賞受賞  |
| 2012.04 | 東京大学社会実験開始   |
| 2012.08 | コンビニ退店   |

図 4-3 (出典：木口 2011 に筆者加筆)

#### 4-1-2 宮脇檀の外構計画

4-1-1 でも述べたが、柏ビレジに関する説明で追加しておきたいのが、建築家宮脇檀のまちづくりの思想をとりいれてつくられた特徴的な外構である。2 章の説明でもあったが、1980 年以降に計画された住宅地は街並み景観やコミュニティを意識して計画されたものが多い。このような住宅地の計画の第一人者である宮脇檀が住宅地の環境計画に関わったものの中で見れば初期作品であるとはいえ、彼の思想が大きく反映されている。

街並みをつくる外構計画、建築計画は、住宅が所属するグループの規模を分けてゾーニング

する「グルーピング」、それぞれの住宅の個性を活かすところと統一するところのデザインの枠組み、つまりフレームを決定する「フレーミング」に基づいて決定されている。「グルーピング」は同じグループの住宅が同じ種類のシンボルツリーを住宅に植える等、そこに所属する住宅がある程度デザインに一貫性があるようにすることによって、コミュニティを形成させることを目的としている。また、「フレーミング」はグループによってデザインを決定する枠が異なってくるので、グループ単体はまとまりを持ちつつも、グループごとに違う個性が出るようにする、という目的がある。また、完全にその枠を固めるのではなく、住戸壁面の色使いなど、部分的に住民の手に委ね、住宅それぞれが個性をもつように導いている。(宮脇檀建築研究室・1980)

これによって規定されるデザインコードは建築計画の手法にも反映されるのだが、ここでは外構の計画についてのみ述べる。

先程述べたように、同じ道路を挟んだ住宅は、同じシンボルツリーが植えられている。庭に生えている木を利用して、並木道を形成するためである。また、柏ビレジを歩いていると、ほぼすべての住宅に煉瓦の塀があり(改築時に煉瓦塀を撤去した住戸もある)、その塀の高さが場所によって同じではないことに気付く。これは、中心部では煉瓦の塀を強調した街並みになっているのに対し、周辺部は外周部に近づくに従って周囲の自然ととけ込むように塀が低く、緑が多くなるように計画されているためである。また、煉瓦の塀の前段部分に、奥行き小さい花壇があり、どの住宅もここにアイビーが植えられている。これは、各住宅の住民によって管理されていて、私有地の一部をまちのために利用して、住民が能動的に良い環境づくりをするようにした仕掛けとも受け取れる。

このように、周辺環境にさまざまな配慮があるデザインコードによる計画から、今でも煉瓦とアイビーの塀が連なり、印象的な門構えをもった住宅地となっており、多くの住民が景観に親しみと誇りを持って接している。

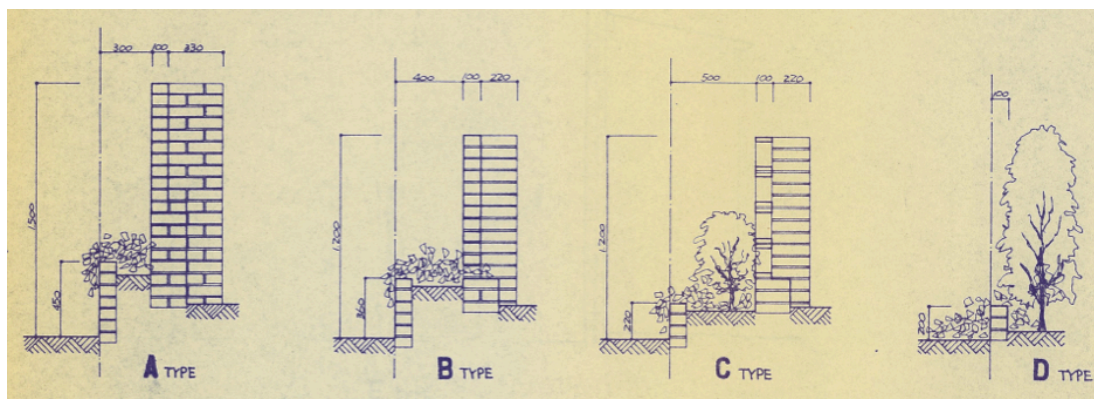


図4-4 煉瓦塀のタイプ別図面(断面)(出典:宮脇檀建築研究室1980)

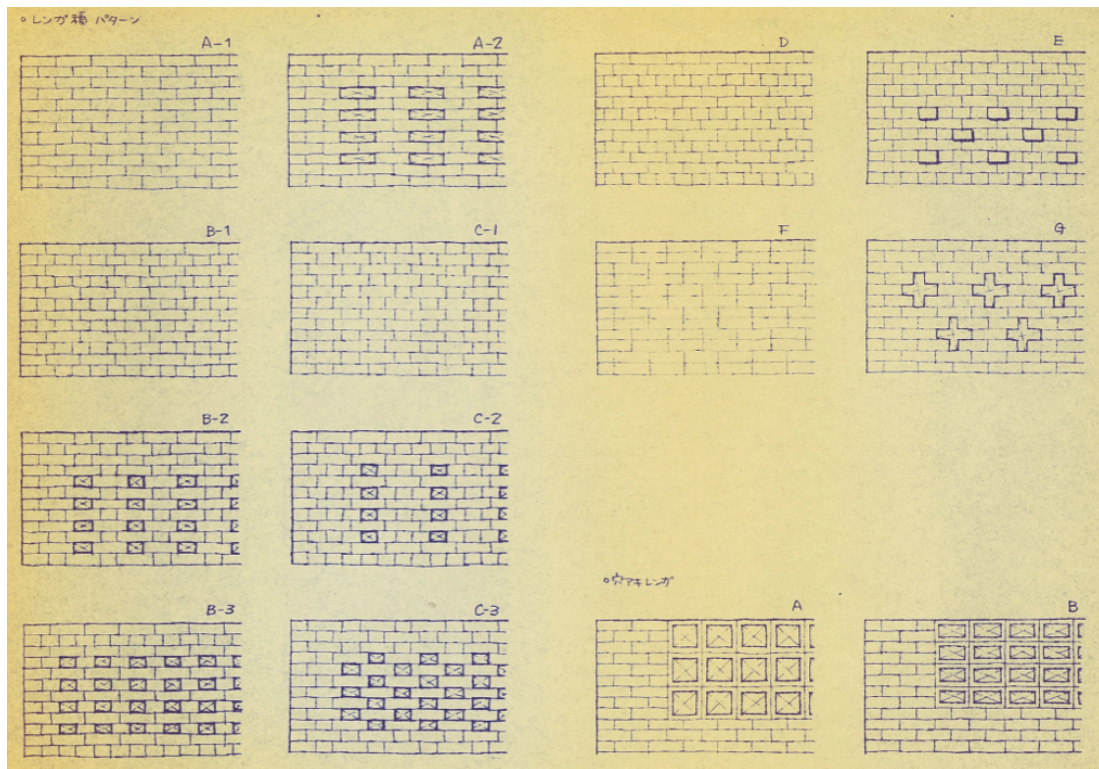


図 4-5 煉瓦塀のタイプ別図面（立面）（出典：宮脇檀建築研究室 1980）

#### 4-1-3 住宅地の街区単位

宮脇檀は「北柏ニュータウン（のちの柏ビレジ）の環境計画」の中でこのように述べている。

1500 戸という規模は非常に大きい。そして大きすぎる集団は人の住む単位としてふさわしくない。日常的には向う三軒両隣といった交際や、精々、通りや路地の範囲でコミュニティはつくられるが、逆に街としてのまとまりの限度は 100 戸程度が上限であろう。町内会班等の例で分かるように、住宅地は必ず細かいスケールでグルーピングされている。

北柏ではその地形、道路計画、規模、等の要因から平均 120 戸程度のグルーピングを提案し、そのグループの集合として全体を把握することを考える。

柏ビレジの世帯数は 1575 で、入居時期によって、10 の支部（地区）に分けられている。住民同士の会話でも、自分の住んでいるエリアを示す際に「～支部」と説明することから、「支部」というコミュニティの単位は定着していると考えられる。自治会の役員も支部ごとにだしている。宮脇が想定していたコミュニティの規模より一支部当たりの平均住戸数は多いが、だいたい宮脇が想定した区画と重なっており、このように分割されている。

また、中心商店街との距離が、直線距離で約 800m 離れている箇所もある。足腰の不自由な高

齢者にとっては、所属する支部の内部等、身近な場所で近隣とのコミュニケーションがとれることが望ましいと考えられる。

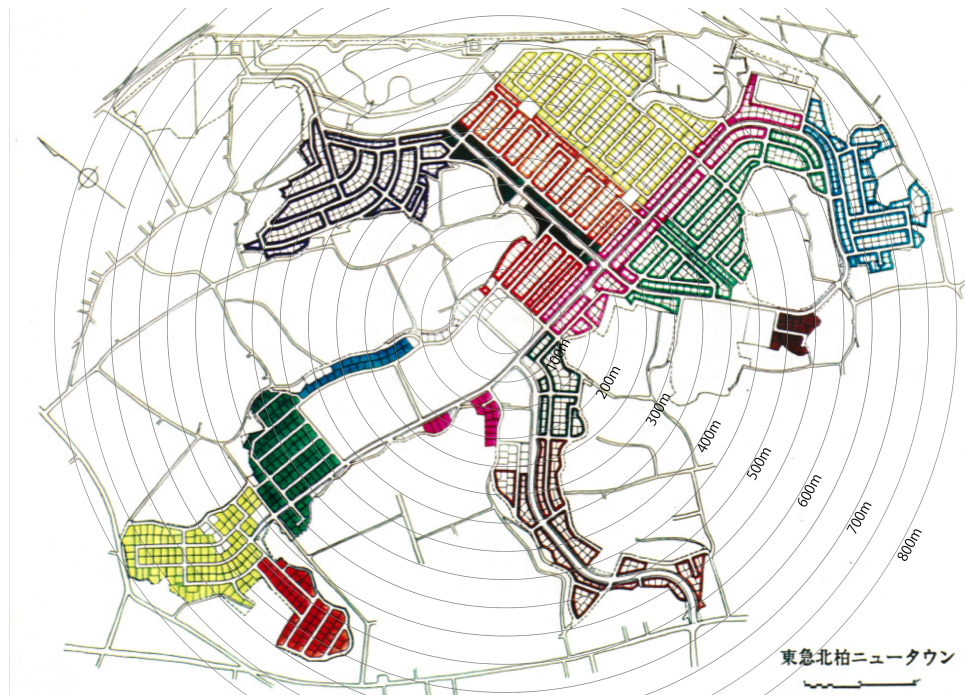


図4-6 宮脇のグルーピング図に筆者加筆（商店街からの距離）

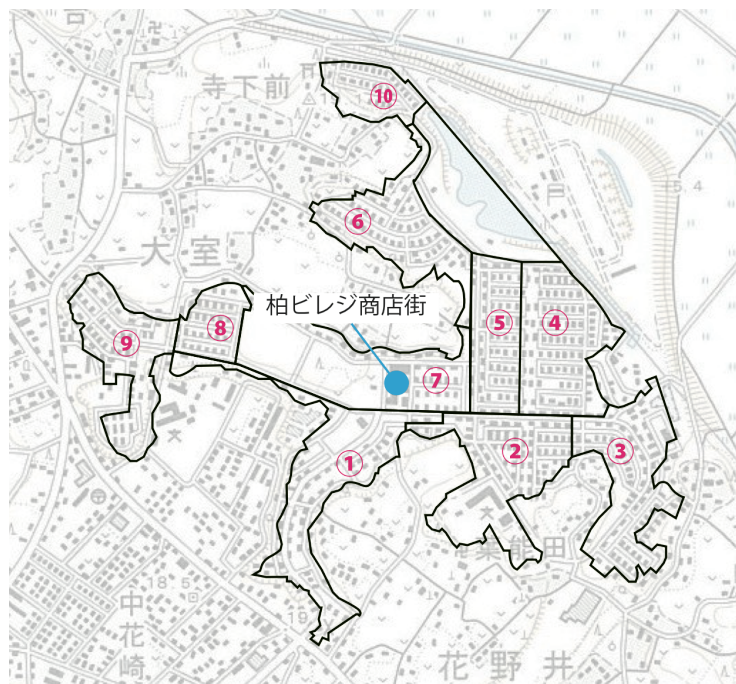


図4-7 現在の各支部の位置（出典：柏ビレジアンケート報告書）

#### 4-1-4 アンケート

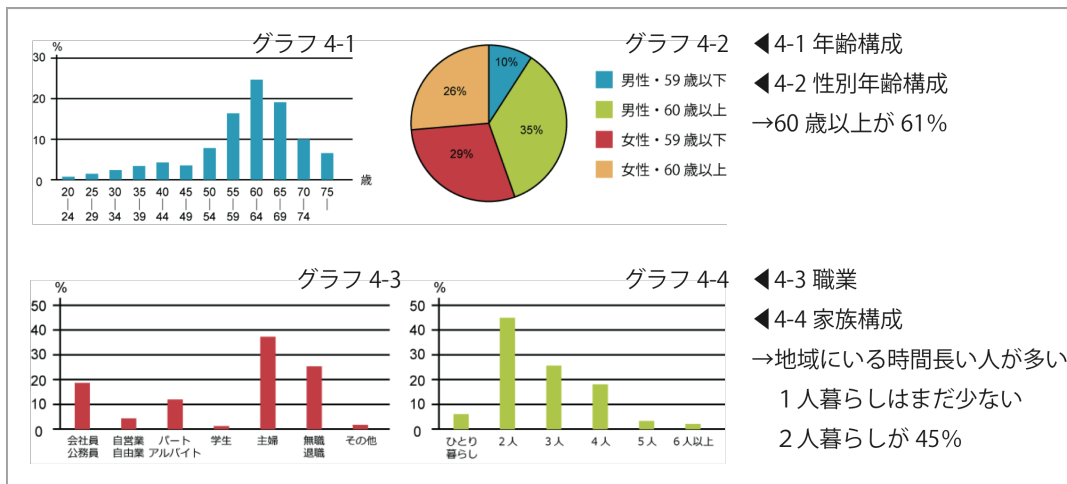
社会実験の事前調査として、柏ビレジの住民に対して、全戸配布でアンケートを行った。以下はそれについての分析である。

#### ■ 柏ビレジの住みよい街づくりに関するアンケート<sup>iv</sup>

- ・ 2011年12月実施（柏ビレジ活性化委員会＋東京大学）
- ・ 回収率 60.6% (955 世帯回答 / 1575 世帯配布)
- ・ 目的：
  - ① 柏ビレジに於ける生活実態の把握
  - ② 生活基盤としての「食」のあり方の検討
  - ③ 生活を支える「コミュニティの」あり方の検討

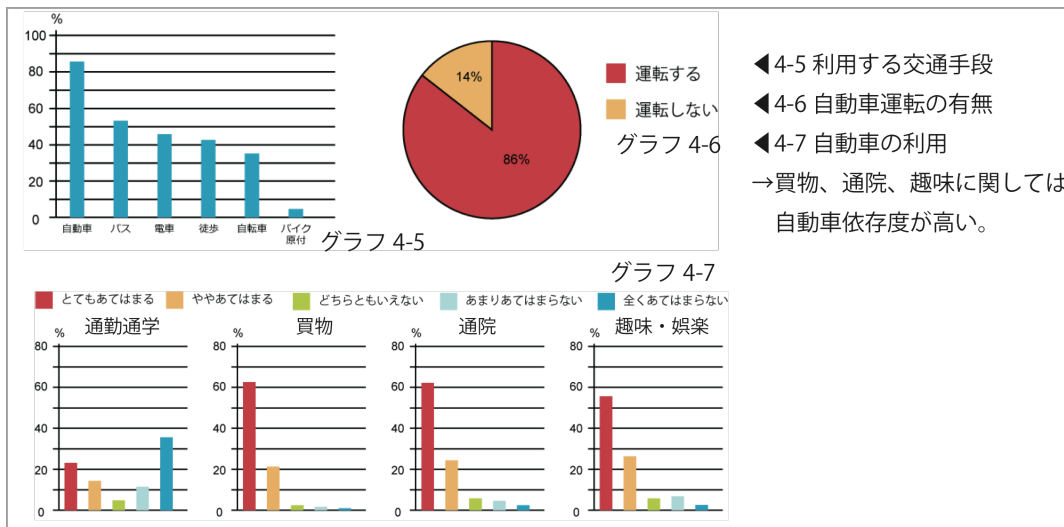
グラフ4-1、4-2より、住民の年齢は団塊の世代に集中しており、60歳以上の年齢は60%を超える。今後柏市の中でも局部的な高齢地域になることが予想される。

グラフ4-3、4-4より、地域で過ごす時間が長い人が多く、その中でも2人暮らしが多いことが分かる。今の時点では少ないものの、一人暮らしは高齢化に伴い、今後増加すると考えられる。

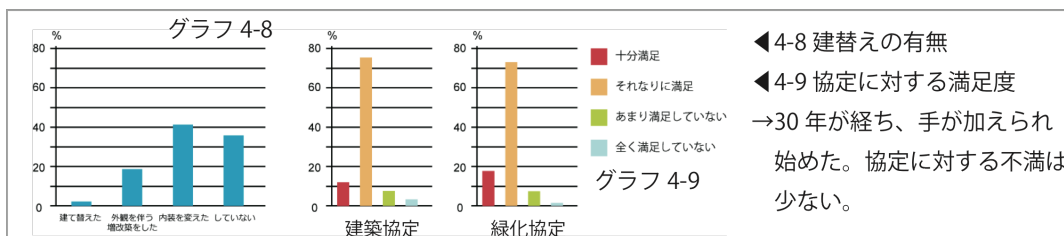


グラフ4-5、4-6、4-7からは自動車の依存度の高さが確認でき、住民が普段買い物する場所は車でアクセスするような場所にあるのだが、運転が出来なくなったときの買物の選択肢は相当減少すると考えられる。これより、将来的に生活に必要な食料品を手に入れるだけでも苦勞するようになることも予想される。(バスの本数は少なく、住民の利用が少ないため、廃線になった経路もある。)

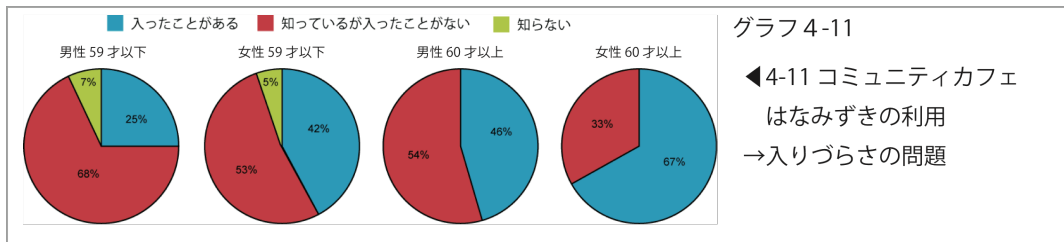




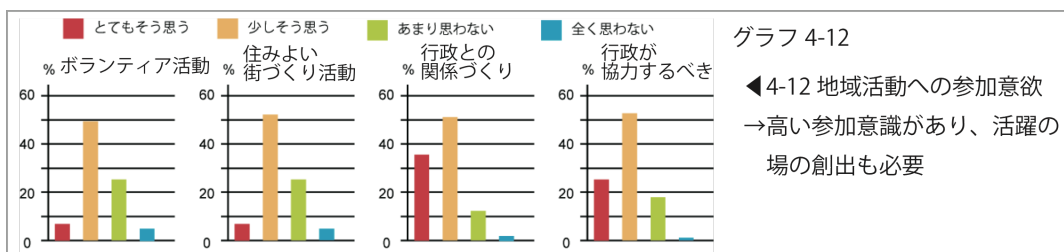
グラフ 4-8、4-9 からは 30 年が経過し、住宅によって手が加えられ始めたことがわかる。また、建築協定・緑化協定にはあまり不満がないことも分かる。グラフ 4-10 は、地域内で病気になったときに頼れる人がいない人が多いことを示している。高齢化が深刻化すると、重大な問題になることが予想できる。



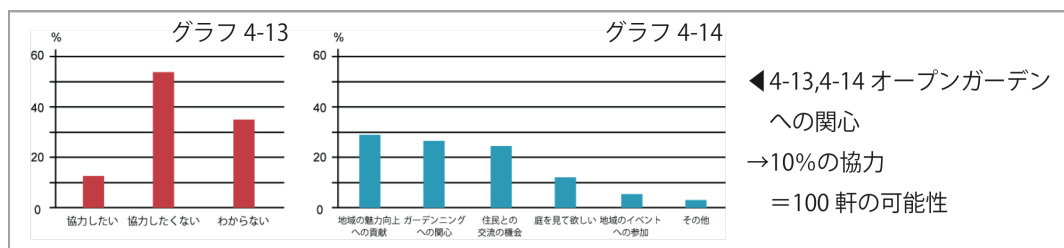
グラフ 4-11 は、地域の人々がコミュニケーションをとれる場としてつくられたコミュニティールームはなみずきには、特に男性や若い世代が入りづらいつ感じていることを示している。現地に行くと、実際にはなみずきを利用している人も多くいることも事実で、そこを居場所と感じている人もいることが分かる。しかし、地域の人になにかしらの地域コミュニティに所属するためには、より多くの受け皿が必要である。



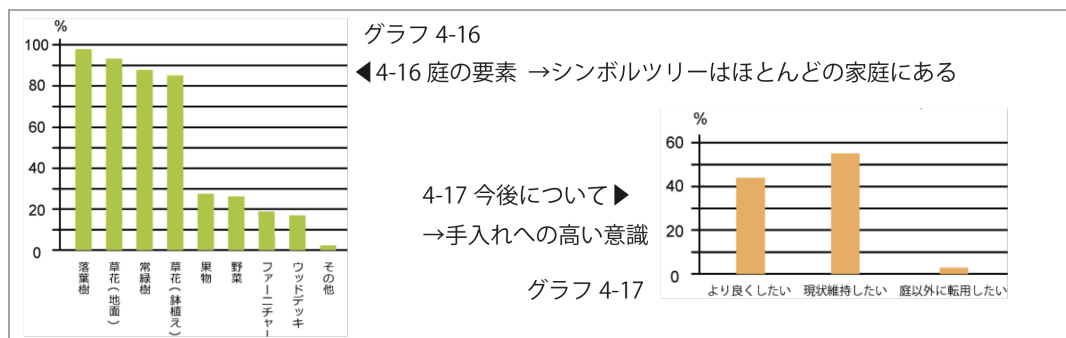
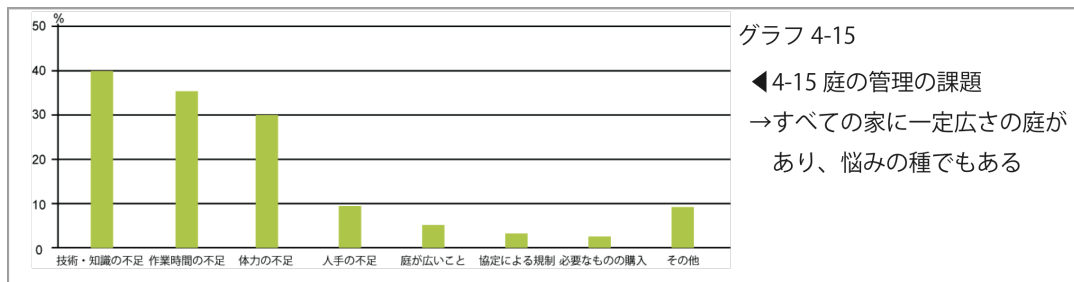
グラフ 4-1 2 からは地域活動への参加意識・関心の高さが伺える。このような人のための活躍の場の創出も期待されている。



グラフ 4-1 3、4-1 4 はオープンガーデンへの関心を示していて、今回回答があっただけでも約 100 世帯が協力しても良いと回答したことが分かった。



グラフ 4-1 5、4-1 6、4-1 7 からは庭の事情が分かり、いずれにせよ庭空間に対する柏ビレジ住民の関心は高いことが確認できた。地域活動に積極的に参加したいと考えている人が多く、オープンガーデンにも前向きな方がいる一方、全体的に庭空間に対する心理的ストレスは大きい。



#### 4-1-5 柏ビレジで実施することの意義

アンケートの結果を踏まえて、地域住民が安心して暮らせる環境を維持するためには、住民同士がよりつながる機会をつくることが重要であり、地域住民（柏ビレジ活性化委員会）と東京大学（「明るい低炭素社会の実現に向けた都市変革プログラム」都市計画グループ）との間でそのような場をつくっていくという方向性が共通の理解となった。清家清水サブグループは、他グループで研究・開発された技術が、柏ビレジにて「明るい低炭素社会」として実現されるための住民側の体制づくりに携わっている。社会実験のテーマとしても、地域住民の居場所や、交流の場をつくるという視点から、「拠点づくり」というキーワードが上げられた。

●地域の課題として明らかになったことを整理すると以下の通りである。

##### ① 近隣同士のより強いつながりをつくる必要性

本当に困ったときに助け合える、地域の人とのつながりを持っている人が少ない。しかし、この地域で暮らし続けるとしたら、このようなつながりは重要である。リタイア後世代のコミュニティへの参加の足がかりをつくることが課題である。また、地域活動に貢献したいと思う人の受け皿も重要である。

##### ② 買物の場の創出

高齢者のみの世帯が多く、自動車への依存度が高いので、将来的に運転できなくなった際に買物が困難になる可能性がある。

③ 住環境の管理が困難になる可能性

住環境の管理に関しても、高齢になって体が思うように動かなくなると、大変になってくる。現状でもストレスを抱えている人が多く、ストレスをできるだけ軽減しながら生活できるようにすることが重要である。

●これに対し、地域の強みとして考えられるのは以下の通りである。

① 地域への強い関心

全戸配布で行ったアンケートの回答数は、任意であったにもかかわらず 60%以上の回答率があった。住民の地域への意識が高いと考えられる。また、当初より街並みの良さにこだわって入居したためか、景観への関心がある人が多くおり、実際、塀の外に設けられた花壇で手入れされていないものを見つける方が難しい。

② 最多年齢層

入居している年齢層は 50~60 代が最も多く、まだまだ元気があり、今後活躍できる世代である。時間の余裕も生まれ、地域で過ごす時間も今後長くなる年齢層といえる。また、同世代の人が多いため、その中から気が合う人、理解しあえる人が見つけやすいとも予想できる。

③ 均質性

一度に販売し、同時期に住民が入居したニュータウンは、住宅の規模、経済的状況、買物場所、年齢など様々な面で共通する部分がある。よって、近隣の方の生活環境への理解も生まれやすいと考えられる。

1 章で挙げたような、多くの住宅地が持つ課題を内包しつつも、同時にそれを解決するにあたって効力を発揮する可能性のある条件もそろっていると考えられる。よって、柏ビレジで行う社会実験の取り組みに関しては、ここで何かしらの効果が見られなければ、他の住宅地で同様の内容を実施しても効果が出にくいという見方もできる。そのような意味で、この対象地での社会実験の実施は、重要性を持っているといえるだろう。

## 4-2 社会実験の目的

4-1で説明したように、社会実験のキーワードとして、「拠点づくり」が挙げられた。実際に拠点が機能するためのしくみとして、「大きな拠点」と「小さな拠点」をつくることが提案された。

まず、大きな拠点では、商店街の空き店舗を利用したコミュニティスペースの創出を行う。こちらには買物機会が減る高齢者の偏りがちな栄養バランスの改善というテーマと、地域全体から住民が自然と集まる場所の創出というテーマ、生活サービスの拠点づくりというテーマがある。具体的には惣菜販売や、商店街からの荷物の配達等の住民の要望を受付する場、また、談話スペース、貸しスペースなどとして運営していく計画である。

もう一方の小さな拠点では、移動が困難な人でも徒歩圏内で集まれる場を創出するというテーマと、出張サービスなどを行うというテーマがある。柏ビレジの各住戸に庭があるという特徴を生かして、小さな拠点では個人の庭を利用するオープンガーデンに着目して行われることになった。

アンケートを受けて、社会実験の計画は両方とも動き出し、組織のあり方の議論や、ワークショップ、勉強会などが始まっている。本論文では主に、小さな拠点づくりに着目する。組み合わせることによって補完しあう部分がある取り組みであるので、必要のある部分は大きな拠点についても記述する。

今回の社会実験で庭を利用する理由は、以下の通りである。

- ① 柏ビレジは庭に対して多くの人が愛着を持っている地域である。また、庭はすべての人が持っている空間である。通常時は庭主の観賞用であるが、普段より手をかけているこの空間を、近隣の人と楽しむために利用してみたいと考える人もいる。アンケートでも1割の人がオープンガーデンに協力したいと回答していた。このような住民側の協力の姿勢を取り入れて地域のために活かすことによって、住民側の将来的な主体性や持続性が期待できる。
- ② 庭は管理された私有地であり、公園などの公共的な場と比べ、親密な空間である。「見守り」という機能を期待する場合、このような空間を利用することによってより細やかな見守りが可能になる。また、公共空間と比べ、ベンチを置く等といった使い手の発意による整備が反映されやすい。さらに、公共の場よりも大切に利用しようという意識も働きやすい。
- ③ 将来的な庭の管理について、住民が考える必要がある。現在は問題がなくても、数年後は高齢化が進行し、管理が行き届かなくなる可能性がある。このような場合に関して、庭の利用を促進することによって、それぞれが考え、また、住民同士で問題意識を共有する機会になる可能性がある。

#### 4-3 社会実験の方法

住民に呼びかけて参加者を募り、ワークショップや勉強会を行いながら、地域に合った形のオープンガーデンの方法を考え、実施する。参加者を募るためのチラシづくりは東京大学と柏ビレジ活性化委員会で行った。ワークショップのコーディネート、ファシリテーションは、研究チームが行った。コーディネートを主に担当したのは筆者もメンバーの一員である、まちづくりを専門とした balloon という学生団体である。研究の背景でも述べたように balloon はこの研究グループに属しており、住民と細かく連絡を取り、大学、柏市と連携をとりながら進めた。

日本の庭の課題を2章、オープンガーデンの課題を3章で述べた。このような課題は実験を進める上で浮き彫りになり、住民とのワークショップ・話し合いを通して解決策を探りながら進めた。最後に、実験後の住民の反応を調べるためにヒアリング調査を行った。実験の分析とヒアリングに関しては5章で述べる。

#### 4-4 実験の概要

実証実験は下表のようなスケジュールで行った。途中から住民の意見を取り入れ、「オープンガーデン」から「ぶらっとガーデン」と呼ぶようになる。

| 日付   | 実証実験内容                    | 全戸周知 |
|------|---------------------------|------|
| 6/10 | ワークショップ「庭から始まるまちづくりを考えよう」 | ○    |
| 6/24 | 見学会「オープンガーデンを見に行こう」       | ○    |
| 6/30 | プレイベント企画ワークショップ           | -    |
| 7/29 | オープンガーデン・プレイベント           | -    |
| 9/9  | オープンガーデンイベント企画ワークショップ     | ○    |
| 9/23 | イベント「ぶらっとガーデン+リンクカフェ」     | ○    |

図4-8 スケジュール

まず、チラシの全戸配布<sup>v</sup>によって、6月10日、6月24日、6月30日の内容について周知した。

##### ① 6月10日

##### ●ワークショップ「庭から始まるまちづくりについて考えよう」

最初のワークショップでは、今後の社会実験についての説明、アンケートの内容の共有、そして、話題提供者によるオープンガーデンの説明を行った。その後、専門家と植物の病気につ

いて相談できるみどりの相談会、住民が自身の庭について自由に話し合うグループディスカッションを行った。

<話題提供>

- ・柏市都市部公園緑政課 「柏市のオープンガーデン登録制度について」
- ・カシニワ登録者 「オープンガーデンの魅力について」
- ・東京大学 自然環境形成学研究室 「セミパブリックなみどりを増やそう」
- ・質疑応答等

<みどりの相談会>東京大学 植物医科学研究室

<グループディスカッション>

天候が良くなかったこともあり、住民の参加は10名にとどまった。柏市からはカシニワ制度やオープンガーデンについての説明を行った。カシニワ登録者はオープンガーデンの様子や、自身の庭への思い出等について話をした。東京大学自然環境形成学研究室からは公共的に緑を活かした試みについて話をした。

みどりの相談会には「明るい低炭素社会の実現に向けた都市変革プログラム」の植物医科学グループから、植物医師が出向き、住民の植物病の悩みに耳を傾けた。庭の花や木についての様々な相談に一つ一つ丁寧に答えていき、「残念ながら、その木は手遅れです」といった診断等には、ときおり笑いが起こった。植物病について訓練中で、柏市内在住の「コミュニティ植物医師」も参加しており、先生の診断に熱心に聞き入っていた。

その後に行ったグループディスカッションでは住民が庭について自由に発言した。<sup>vi</sup>また、住民側から自宅の庭を提供できる、という発言も1名からあった。その他の人の多くは、オープンガーデンを行うことに関してはあまり積極的ではなく、あくまでオープンガーデンを訪れることが目的であることを強調していた。



図4-9、4-10

② 6月24日

●見学会「オープンガーデンを見に行こう」

オープンガーデンがどのように行われているかを勉強するという目的で、見学会を行った。訪問先は柏市のカシニワ公開に登録している庭、6軒が受け入れ先となった。しかし、各庭同士にかなりの距離があり、離れて点在しているため、バスでの移動が必要であった。柏市の協力の下、バスが手配され、定員を設けて参加者を募集した。スタッフを抜いて、住民の参加は18名で、最高齢の参加者は80代であった。柏市を南から北上する形で巡回した。

1) 森の小人と福猫が遊ぶナチュラルプチガーデン

住宅地の中の一軒で、道があまり広くないのでバスで訪れることは近隣に対してはあまり望ましくないと思われる場所であった。前庭の部分がもともと開放的な作りであり、家の中まで特別に公開し、陶芸作品を見せてくださった。



図4-11、4-12

2) 癒しの庭・元気のでる庭

こちらは、別々の場所にある2つの庭が登録されている。一つは住宅に付随する庭であり、バラや木彫りの作品がメインとなっていた。6月半ばでバラの最盛期は過ぎていたので、最盛期の写真も用意して下さっていた。もう一つは少し離れた場所にあり、様々な植物を育てている花畑であった。





図4-13、4-14

### 3) 苔庭のオープンガーデン、枯山水回遊式庭園

ウェルカムボードでの歓迎があった。イタリアン割烹に付属する日本庭園で、一部進入不可の部分があった。イタリアン割烹で食事をする人は正面から庭を眺めることができる。庭主の方が、親の死後一時期荒れてしまった庭を、その手でまた復元させたこと等を語って下さった。また、ヤマモモを味見させて頂いた。



図4-15、4-16

### 4) 木と花と野鳥が仲良く暮らす小さな庭

柏ビレジの住宅と同じ程度の規模の庭であり、小さな寄せ植えやエクステリア家具等を配置した庭で、庭主による草花のスケッチノートも見せて下さった。普段は外から見ることをのみを許可したオープンガーデンであるが、事前から準備して頂いて中まで入れて下さった。庭主からは、庭づくりに関して「(柏市による)流山のオープンガーデンの見学会で見たことを参考にした」という発言があった。柏ビレジの住民から花の種類を聞かれたり、褒められたりした際には挿し芽が出来るように切り分けて渡していた。



図4-17、4-18

5) 100本のバラの花と香りにつつまれてティータイムをどうぞ

菓子店によるバラに特化した庭の公開である。テーブル席付近にも様々な種類のバラが植えられており、ケーキを楽しむことができる。この菓子店ではカシニワのマスコットキャラクターの「ニワやん」のケーキも販売している。見学会参加者の全員にケーキをサービスして下さった。参加者からはケーキが好評であり、購入している人も多かった。



図4-19、4-20

6) 雑木の中のパステル

雑木の迷路のような庭であり、一巡するのも木をくぐったりかき分けたりしながら進む空間になっていた。庭主は植木業者で、さまざまな種類の木が植えられていたのも納得できる。



図4-2 1、4-2 2

参加住民の意見や感想などは用紙に記入をお願いし、まとめた。<sup>vii</sup>

参加者も一件目の庭は若干の戸惑いがあったのか、なかなか入ろうとしなかったが、後に行くにつれて庭主に対する質問が増えたり、住民同士の会話が弾んだり、打ち解けていく様子が見受けられた。庭好きが集まっただけあって、コメントからも分かるように刺激を受けていた。また、見学から何かしら得ている人が多いことが分かる。自分の庭にも応用したい部分をよく観察する等、学ぶことに意欲を見せる姿も見受けられた。

### ③ 6月30日

#### ●プレイベント企画ワークショップ

住民の様子を伺いながら、実際にオープンガーデンを柏ビレジで行うことを目的とし、企画を練るワークショップを行った。前回の見学会参加者のみを対象に呼びかけたところ、町内のイベント等と重なったこともあり、住民の参加者は3名であった。住民からはやってみたいという気持ちがある反面、近隣への迷惑がかからないか等の不安の声や、「自分の庭は見せるほどではない」といった声が聞かれ、まだ地域に公開するには心の準備が必要ということになった。そこで、身内で実験的に行う「プレイベント」を企画し、行うことになった。各庭の広さは30~40 m<sup>2</sup>ほどで大勢を収容できるほどは広くない。見るだけではすぐに終わってしまうことを考慮して、滞在できる工夫としてそれぞれの庭でちょっとしたイベントを行うことになった。日程はこのワークショップの参加者の都合のつく日に設定し、7月29日となった。ワークショップに来た2名の庭と、承諾をいただいたもう1軒で実施が決まった。当日の準備は庭の提供者と東京大学で行い、6月24日のワークショップ参加者のみに案内を出した。

④ 7月29日

「オープンガーデン・プレイベント」(13:00~16:00)

住民側参加人数は15名。飲食物の提供もあったので、会費制(500円)で実施した。ツアー形式で、1軒目でかき氷の提供、2軒目で写真の展示、3軒目でアフタヌーン・ティーの提供を行った。快晴、猛暑日であったこともあり、2軒目・3軒目の庭では庭提供者が自主的に家の中まで開き、参加者を招き入れた。オープンガーデンと言えば庭を見て楽しむことがメインであるが、庭にとくにとらわれすぎずに会話が弾み、楽しんでいた様子であった。しかし、庭と庭間の移動は徒歩であったため、24日に参加していた80代の女性の参加は猛暑のため参加を断念する形になった。

各庭のテーマにちなんで、どんなオープンガーデンを行ってみたいかというアイディア出しも行った。意見として出されたアイディアは表の通りである。

| 季節物・飲食   | ギャラリー・コレクション  | 出張サービス  |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランチ</li> <li>・持ち寄り</li> <li>・バーベキュー</li> <li>・豚汁／芋煮</li> <li>・アフタヌーンティー</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビレジ周辺の絵画</li> <li>・子供の絵画</li> <li>・柏ビレジの昔の写真</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・庭のハーブを使った料理教室</li> <li>・陶芸教室</li> <li>・そば職人</li> <li>・カメラ講座</li> <li>・ガーデニング講座</li> <li>・似顔絵</li> </ul> |

1) かき氷

一軒目ではかき氷を頂いた。あれこれいいながら、ひと涼みをした。庭でミストがでるようになっていたのでその話題で盛り上がっていた。



図4-23

## 2) 写真ギャラリー

公園を通り、階段の段差を利用し、柏の昔の写真を展示した、写真ギャラリーのお宅に到着した。庭主の方が冷えたおしぼりを用意して下さっていた。



図4-24、4-25

## 3) 茶菓子提供

オープンガーデンの見学会の際も好評であったパティスリーのケーキを頂いた。家の中まで入れて下さった。話も盛り上がり、しばらくティータイムを楽しんでいた。



図4-26、4-27

⑤ 9月9日

再びチラシの全戸配布で住民にオープンガーデンの実施と企画を周知した。今回は、9月23日に行われる商店街の空き店舗を利用した「大きな拠点」のプロジェクト（商店街の飲食物を空き店舗で提供する「リンクカフェ」）と連動して行うことが決定していた。企画ワークショップは子供3名も参加し、住民参加は9名であった。前回のオープンガーデンを実施した庭主や参加者から、「オープンガーデンはイギリスのものを連想させ、格式高いイメージ」であるので、別の名称にした方がいいとの意見がでた。また、今回のワークショップの提案を自分でもってくる等、不安ではなく積極的にやりたいという姿勢が見受けられた。子供は家のwi-fi環境を利用したDSゲーム対戦や、オセロの対戦などができる子供のための遊び場を提案した。今回は4軒の庭で実施し、また、負担が庭主1人に集中しないように、家族や近隣住民の方、ワークショップ参加者で支えながら実施する形に決定し、また、ツアーではなく、スタンプラリー形式で行うこととなった。



図4-28、4-29

⑥ 9月23日

● イベント「ぷらっとガーデン+リンクカフェ」

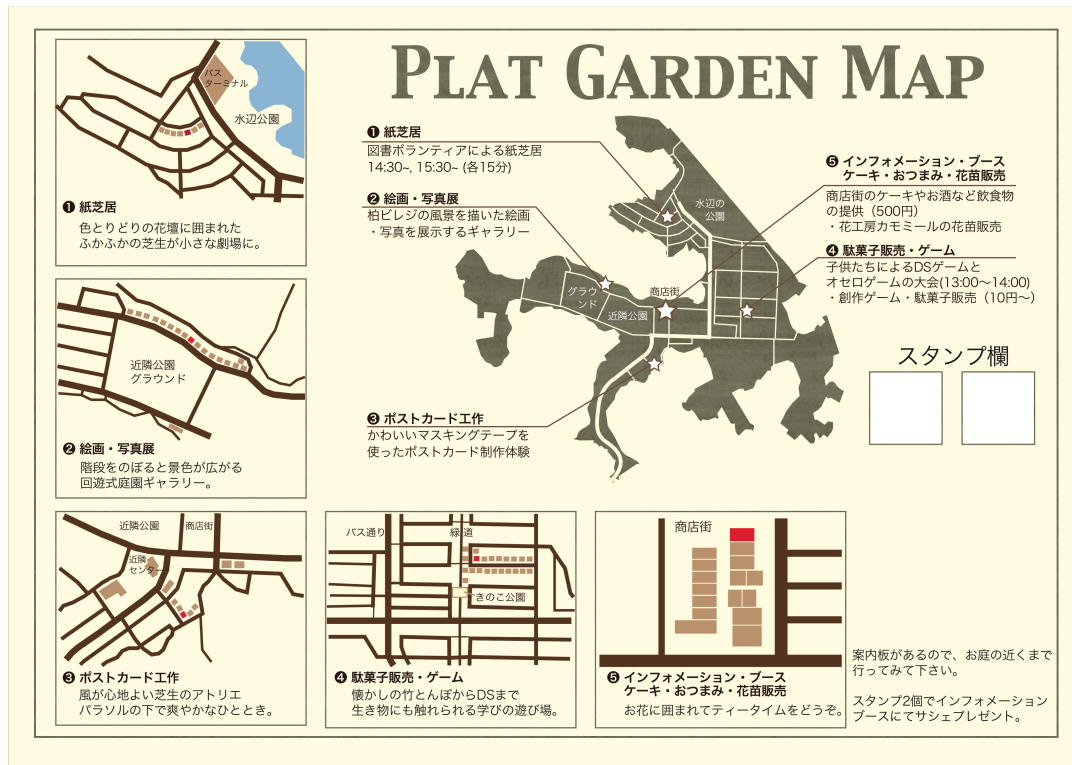


図4-30 当日配布した地図

オープンガーデンと呼んでいたイベントの名前をぷらっと訪れられる庭という意味で「ぷらっとガーデン」と改名し、スタンプラリー台紙付きのチラシ全戸配布により周知した。プレイイベントでは準備に主婦一人で取り組んでいた傾向があったが、チラシの効果もあって、前日準備の段階では家族や、近所の方や友人を交えて準備する様子が見受けられた。また、この為に庭の手入れや花の株を増やす等の工夫も行われていた。プログラムとしては、商店街の空き店舗を利用した「リンクカフェ」をインフォメーション・ブースとし、各庭にて手作り紙芝居・絵画写真展・マスキングテープによるはがき工作・子供のゲームを開催することになった。

9月23日当日、天気はあいにくの雨となった。イベントは住民の意向次第で実施するか、しないかの判断を任せることにした。結果、紙芝居と絵画写真展の2軒では開催が決まり、家の中まで開放することになった。参加者はスタンプが2つで商店街の空き店舗カフェ「リンクカフェ」でプレゼントがもらえる仕組みである。「リンクカフェ」で行ったケーキの販売は30セット用意があったが、完売した。天候が悪く、参加が少ないことを心配していたが、人が途切れることはなかった。お庭は庭主によって、家の中からみても楽しめるように、工夫がされていた。

7月の「オープンガーデン」はおそろおそろ行っていた住民も、9月は準備段階から数名でいきいきと準備に取り組む姿が見受けられ、自ら工夫してプログラムを増やしていた。9月の回から初めて参加した紙芝居の方は、夫婦で積極的に工夫して参加した上で、ご主人から「地域に参加する機会をくれてありがとう」と発言があった。紙芝居には子供が7、8名来ていた。天候が悪かったことは残念ではあったが、庭の提供者も、来訪者も地域の人と楽しめたことによって満足している様子は見受けられた。

#### 1) 押し花、ギャラリー、はがき製作

お隣のお宅のご主人が生前描かれた柏ビレジの風景画や、写真家の方の写真の展示を行った。また、庭主の方のお知り合いの押し花アートの先生がきて下さった。他の庭で行う予定であったはがき製作もこちらで開催させて頂く形になった。



図4-3 1、4-3 2、4-3 3



## 2) 紙芝居

子供数名と、子供を連れのお母さんや、ご近所の方も集まり、庭主の方が関わっている、図書ボランティアによる手描きの紙芝居を楽しむことが出来た。また、ご主人によって、庭の写真がテレビに映るように工夫されていた。



図4-34、4-35、4-36

## 3) 空き店舗活用

商店街では空き店舗が本部となり、商店街のパン屋さんのケーキ等を販売した。また、商店街で買物した方の荷物を運ぶサービスも、小型電気自動車コムスで行った。



図4-37、4-38、4-39

#### 4-5 小括

東急柏ビレジは東急不動産が1980年から分譲を始め、建築家宮脇檀のまちづくりの思想をとり入れ、整った街並みをもつ戸建て住宅団地である。かつてスーパーマーケットもあった中心商店街は、現在衰退傾向にあり、とくに車が運転できない住民にとっては不便な状況となっている。このためか、高齢居住者の転居等、居住者の入れ替わりも起きている。1章の冒頭で述べたのと同様の課題を抱えているといえる。

また、庭面積は広い訳ではないが、赤煉瓦塀、シンボルツリーの並木、住民が手入れするアイビーの「外花壇」などがあり、庭や景観に対する愛着が強い地域である。「庭をよりよくしたい」住民が40%以上、「現状を維持したい」が50%以上と、手入れへの高い意識が伺える。

今回の社会実験では住民の不安を聞き、見えてきた課題に対して対策をしていくことから、一般的な「オープンガーデン」の、柏ビレジにとって余分な部分を一度引き剥がす作業が行われたと見ることができる。社会実験の中で中心的な役割を果たした住民とともにテーマとして共有したのは、庭が近隣の方と楽しむ場になることであった。そのためには、「イギリス庭園のイメージ」も、「柏ビレジ外への公開」も、「かしこまったイメージの『オープンガーデン』という名称」も必要なかった。このことが分かりやすかったのは、9月9日のワークショップである。参加した小学生3人は庭の花には特に興味はないが、庭にDSゲームができるwi-fi環境があることや、庭で飼っているザリガニなどに興味を示し、その条件から友人を呼んでどのようなことをしてみたいか様々なアイデアを出していた。このように、むしろ「花に詳しくない人も楽しめる工夫」、「時間を共有できる工夫」、「ご近所の方と準備を楽しむ工夫」、「気軽な『ぷらっとガーデン』という名称」などが重要なテーマとなった。これらを加えて再構成したものが「ぷらっとガーデン」である。

ぷらっとガーデンの分析については次章で述べる。

---

<脚注>

i 住宅問題専門研究委員会（2003）

ii Tさんヒアリングより

iii 柏ビレジHP

iv 付録資料-2 参照

v 付録資料-3 参照

vi 付録資料-4 参照

vii 付録資料-4 参照

<参考文献>

- 1) 木口彩 (2011) 「住宅地の成熟化からみた宮脇檀の「景観計画」の再評価 -柏ビレジを対象として-」  
東京大学修士論文
- 2) 住宅問題専門研究委員会 (2003) 「東京の住宅地」 pp186-189
- 3) 宮脇檀建築研究室 1980 「北柏ニュータウンの環境計画」
- 4) 柏ビレジHP <http://www.ivy-town.com>
- 5) balloon (2011) 「柏ビレジアンケート報告書」
- 6) 東京大学(2012) 「柏ビレジの住みよい街づくりに関するアンケート」

## ■ 5章 実験の分析

### 5-1 実験の観察から

5-1-1 住民の反応より

5-1-2 諸条件より

### 5-2 ヒアリング調査

5-2-1 ヒアリングの目的

5-2-2 ヒアリングの方法

5-2-3 ヒアリングの内容

### 5-3 分析

5-3-1 <つながり>共通点としての「庭」

5-3-2 <きっかけ>踏み込みやすい中間領域

5-3-3 <支えあい>支えあう気持ちの拡大

5-3-4 <アメニティ>まちの機能と私有地

5-3-5 <ストレス>オープンガーデンによるストレス要素

### 5-4 小括

## ■ 5章 実験の分析

前章では社会実験の内容の全容を述べた。本章では実施の過程と実験の観察によって見えた課題、また、実際に参加した住民へのヒアリングから、観察だけでは見えてこなかった実験の効果を整理し、分析する。

### 5-1 実験の観察から

#### 5-1-1 住民の反応より

##### 1) ハードルを下げたことによる効果

- ・ 公開を行った庭主から、「オープンガーデン」という名称よりも「ぷらっとガーデン」の方が気軽に良いという発言があった。
- ・ プレイベントを行い、その後地域に公開するオープンガーデンイベントとしたことによって、後者に関しては自分から提案する等、不安よりも前向きな態度が見受けられた。
- ・ 子供の参加もあった。9月9日のワークショップと、9月23日のイベント当日はそれぞれ違う子供が参加していた。

##### 2) 住民の姿勢の変化

- ・ 6月30日のワークショップでは不安の声が大きかったものの、9月9日のワークショップではより楽しもうとする姿勢が見られた。
- ・ オープンガーデンには興味があるけど、公開するのはもうちょっと心の準備が必要、という参加者もいた。9月23日は、このような参加者が準備のサポートや当日運営のサポートを行い、主体的に参加していた。
- ・ 最初は初対面であった参加者同士も、このようなイベントを乗り越えることによって打ち解けていく様子が見られた。また、お互いの庭についても話している様子が見受けられた。

##### 3) 主体性、継続性

- ・ 各庭主が、自宅の庭の手入れをしていた。イベントに向けて、自主的に掃除や植えてある花を増やす等の準備をしていた。
- ・ 飲食物やおしぼりなどの提供をするなど、当初予定になかったものも、自主的に準備しており、参加者に振る舞っていた。
- ・ 当日の気温が高かったり、悪天候であったりしたため、庭主が気を利かせて家の中まで

公開された。

- ・ また次回のイベントを期待している様子が見受けられた。チラシをつくって地域内に宣伝することや、ワークショップ参加の声かけなどはまだ住民が自ら行うのは大変であるが、外部のサポートがあることに対して肯定的に捉えていることが分かる。
- ・ ロコミや住民同士のネットワークによって、参加人数が徐々にではあるが、増加した。
- ・ 公開を行った庭主は一時的に他の参加者に自宅を任せて、もう一方の公開を行っている家に訪問する場面があったが、それは一時的で、ほとんどは自宅で接客を行っていた。

#### 4) 商店街イベントとの連携

- ・ 9月23日は庭または商店街の空き店舗イベントを訪問することによって、スタンプが集まるスタンプラリー形式で行った。空き店舗でプレゼントと交換を行った。このプレゼントは月に2回商店街で花の販売を行っている方からの提供で、手作りで準備されたものであった。花に興味がある人が参加しているイベントであることもあり、ここで花を買っていく人も見受けられた。
- ・ 商店街からはケーキセットとビールセットの500円での提供があったが、気温が低かったため、ビールセットの用意は余ってしまった。しかし、30セットあったケーキセットは完売した。このような飲食物の提供が商店街であったため、庭の提供者も「だったらうちはとくに用意しないでもいいわね」、とある程度気楽に臨めた部分がある。
- ・ コムスという一人乗り電気自動車による宅配サービスも同時に開催された。一人乗りで小回りが利くことと、二酸化炭素を排出しないので、高齢社会にとって優しい乗り物として開発されている。同研究活動のモビリティグループによる実証実験である。これには街の人も興味津々であった。「ぷらっとガーデン」では高齢の方も参加していたが、商店街で買物した荷物はコムスに依頼して自宅まで運搬してもらい、実験に協力した。

### 5-1-2 諸条件より

#### 1) 天候

- ・ 7月29日のイベントでは晴れであったが、気温が高温であったので1軒目のかき氷以外は暑くて外を十分に楽しめない部分があった。また、高齢の方が参加を断念する形になった。夏らしいといえそうであるが、夕涼みの出来る時間帯にする等の工夫が必要であった。庭間の移動は木陰のある公園を通り抜けたが、それについては「絵になって良い」と好評であった。
- ・ 9月23日は7月の反省を活かしてある程度涼しくなる時期を選んだのだが、雨天のため庭の公開は2軒になり縮小開催という形になった。とくに空き店舗活用イベントの方

では参加人数が予想を下回った。予備日を用意することが出来なかったため、晴れの日で開催することについてはまだ実験できていない状態であり、今後の検討課題である。

## 2) 距離

- ・ 7月29日イベントでは各庭間で200m～350m程度の距離があった。これはすべて徒歩で移動した。
- ・ 9月23日のぷらっとガーデンでは商店街からの距離が700mほどある庭で開催を行ったので、雨もあってほとんどの移動が自動車になった。

## 3) 人数

- ・ ワークショップもイベントも、日付が後のもの程参加人数は増えている。
- ・ チラシの全戸配布によって集まった人、口コミや友人同士のネットワーク両方が作用して、当日の来訪者も増えた。天候のいい日であればより参加人数は多く、もっとせわしない開催になる可能性もある。



## 5-2 ヒアリング調査

### 5-2-1 ヒアリングの目的

実験の観察のみでは、普段から考えていることや、参加の動機、細かい感想等は伺うことができなかった。ヒアリングではこのような点を明らかにし、社会実験の効果についてより理解を深めた上で分析をすることを目的とする。

### 5-2-2 ヒアリングの方法

9月23日の社会実験終了後、参加者に報告書を配布した。ヒアリングは、オープンガーデンの参加者を対象に、自宅に訪問し5件行った。時間は1時間から2時間程度で実施した。実際に庭を公開した方を「公開」、公開はしなかったが参加した人を「参加」として記述すると、以下のようなになる。

- ① Aさん 60代女性 7月29日公開
- ② Bさん 50代女性 7月29日公開、9月23日参加
- ③ Cさん 60代女性 7月29日、9月23日両日公開
- ④ Dさん（夫妻）50代女性、60代男性 9月23日公開
- ⑤ Eさん 50代女性 7月29日、9月23日両日参加

### 5-2-3 ヒアリングの内容

主な内容は、庭に関わったきっかけ、庭に対する思い、街に対する思い、実験への反応、庭のストレス等である。それ以外に関してはヒアリング対象者によって話題が提供された内容である。以下は、筆者がトピックごとにまとめた話題の内容である。

#### 1) 庭に関わったきっかけ

(Aさん)

- ・ 最初は和風の庭で柿の木等もあったのだが、それがいやではじめた。一時期はかなり凝っていたが、いまは少しいじる程度。当時はガーデニング雑誌（BISES）の写真コンテストに応募したくてがんばった。今は和室で昼寝をしたり、リビングダイニングルームにいたりするときに見える庭がきれいだと、落ち着くので手入れしている。

(Bさん)

- ・庭があったから。ガーデニングというほどではないが、バラとかの花を育てたかった。

(Cさん)

- ・後悔すると思いつつも、つくばいなどもある日本庭園を全部変えて、デッキ等もつくり、木や花を植えた。日本庭園だと手入れが楽でいいのだが、花を植えると変になるので全面的に改装した。(Cさん)

(Dさん)

- ・夫：(一旦退職し、再就職した後の) 第二の人生になってから、時間に余裕ができて庭をいじったりできる時間と気持ちの余裕ができた。もともと芝生の上で趣味のゴルフの素振りをして楽しむことが多かったが、肩を壊したためガーデニングをしてみようと思った。以前より、ウッドデッキをつくる等、ゴールデンウィーク等まとまった時間があるときに日曜大工を行っていた。そこで自分が自分の手でつくることが好きだということが分かった。
- ・妻：自分も50才まで銀行で、パートタイムで働いていた。共働きで、子育てもあったので、それまで余裕はなかった。ガーデニングを始めたのは仕事をやめて余裕ができたから。

(Eさん)

- ・中古7年の物件を購入し(後ろの崖もいれて70坪くらい)、柏ビレジに引っ越してきた。子供が既に大きかったので、ご近所との繋がりをつくるのが難しかった。その前は常盤平のマンションに住んでいた。花をプランターで育てる程度で、あまり最初はガーデニングに関する知識はなかった。お庭があるので庭いじりができるなーと思って家を購入した。デッキは主人がDIYでつくった。木も植えた。

#### <小括>

ガーデニングに関しては、それぞれ最初は知識がない状態で始めている。手入れをしていくうちに、その世界に引き込まれていった。また、子育てや仕事等、忙しい時期が一段落してから熱心に打ち込むようになっている。ヒアリング対象者全員が、入居後庭に手を加えてリフォームしている。

## 2) 庭に対する思い

(Aさん)

- ・ いったん庭に出ると1時間くらいは手入れに使ってしまう。週の半分以上は手入れをする。

(Bさん)

- ・ ビレジに引っ越してきた理由は、自分も含め、「景観が気に入ったから」という人が多い。なので、ご近所さんもみんな最初は庭に手をかけていた。みんな不慣れながら木を植えてみたりして、それぞれに工夫していた。ご近所の方も庭に出てしょっちゅう掃除をしていた。
- ・ タイルを敷くことにしたのは4年ほど前。理由は使える庭にしたかったから。最初はすべて業者にやってもらおうと考えていたが、とても高額だったので、自分で色々調べてタイルを購入した。灰色のタイルにしたのは、テラコッタはよく見るが、よそと少し違うデザインにしたかったため。図面などは出来るだけ自分で雑誌の見よう見まねでつくって、知り合いの業者に施工をお願いした。本当は一面タイルにしようと思ったのだが、夏の照り返しがひどくなると諭されてあきらめた。その業者の方が器用だったので、BBQ用の煉瓦釜もつくってくれた。庭に手を入れたことによって、実際に庭で過ごす時間は長くなった。天気がよくて気候も過ごしやすいつきは庭のテーブルで朝ご飯を食べたりする。
- ・ 自分は使える庭にしたいと思って、タイルを貼るということをした。見るだけではもったいないと思ったから。バラも植えているが、手入れが難しい。もっと年をとったら違う形の庭になるのはあり得そうだ。

(Cさん)

- ・ 自分は畑も持っている。実を言うとそこまで土いじりが好きな訳ではない。なので、楽なものだけ育てている。大根とイモ類が収穫できる。農作業が大変になってきたおばあちゃんが、一畝3000円程度で貸してくれている。このように、耕作放棄地にしないようにすることは大事なことだと思う。何より、収穫を誰かに行うのは楽しい。畑も、庭も土を通じたつながりをつくれる場所だと思う。

(Dさん)

- ・ 妻：はじめは色々植えてみる程度でバラは植えてなかった。しかし、近所にバラ園でボランティアしたり、雑誌に出たり、等バラの育て方に詳しい方が住んでおり、その方と

一緒に（支部の）役員になったことがあって、バラの育て方等を教えてもらうことができた。バラの苗は高いけれど、手をかければ30年以上楽しめて、長いスパンでその成長をコントロールしながら楽しめるので、結果的にそんなに高い買物ではないのよ、というアドバイスを彼女から受けて、やってみようと思った。

(Eさん)

- ・ カントリー風のインテリアも好き。雑誌もいっぱい持っている。春先に、バラとか花がきれいに咲いたときは誰かに見てほしいと思ったりもする。(Eさん)
- ・ 玄関の寄せ植え、見た？かわいかったでしょ。最近は寄せ植えの教室に通っている。東大の並びに、お花屋さんがある。月に一回通っている。しかし、寄せ植えは1回5000円と、お金がかかる。

### <小括>

庭に対する関心は、花を咲かせることに関して持っている人、つくり出す空間に対して持っている人、実用性に対して持っている人、など、人によって様々であった。よって、つくり出される空間も、テラスが広い庭であったり、植物が多い庭であったりと異なっている。

### 3) 街に対する思い

(Bさん)

- ・ 自分は最初、ビレジの西寄りの方に住んでいたが、途中で引っ越していったんビレジを離れた。10年ほど前に戻ってきて今の家を中古で手に入れた。以前は高齢の男性が住んでいたのだが、不便になって別のところに引っ越したそう。
- ・ 前向きそうに見えるが、言いたいことだけ言って、実際は自分で行動に移せない人が多いと思う。
- ・ (柏ビレジは) 個々はすごくいい人、面白い人、才能のある人の集まりだと思う。ただし、個性が強い分、まとまりがないのが事実。自分自身は気が合う人が多くて暮らしやすいと感じている。共通の趣味があったり、自分の知らない分野に詳しくたりするので、近所のお友達と会って話すことが楽しい。だから、個々の能力をそれぞれの人が発揮できる場になればいいと思う。
- ・ ぶらっとガーデンもまだ一部の人しか実態が分かっていない。チラシの配布をしているが、大変かもしれない、等と身構えて興味があっても二の足を踏んでいる人もいると思

う。

- ・最近友達とも年取ったらどうする、ということをお話するようになった。いまは柏ビレジの人間関係が居心地よく、もっと便利な都内に実家はあるが、年を取って色々不便になってきても柏ビレジに住みたいと思う。友達も、今更マンションとかに引っ越したとしてもきっと孤独だよ、と話している。便利かもしれないけど、新しい人間関係をつくっていくのはこの年になると大変。元気なうちは出来るだけビレジで暮らしたい。

(Cさん)

- ・目の前の公園で花火大会があるときは道を歩いている人に声をかけられて、上から一緒に見ましよう、と庭に招くこともある。柏ビレジはあまりこういうことは行われていない。住民のプライバシー意識が強い。しかし、「プライバシー」という名の無関心だと感じることもある。(中略) 実は、もう少し年を取ったら主人ともう少し便利なところに引っ越そうと考えていた。高台なので道まで階段があるし、日用品の買物も不便だし。でも、田舎の方にいくともっと不便なところに暮らしている人は大勢いる。本当は、不便でも孤独でさえなければ暮らしていけると思っている。
- ・年に1、2回は行くのだが、富山では、高齢者にとっても交通手段が本当に便利になっている。節電の為に公共施設や一軒の家に数人が集まって日中過ごしていたりする。「バスを待っている間は中でどうぞ」と公共施設に張り紙がしてあったので感心した。そのような文化に憧れる。
- ・自分が今後集合住宅を造るとしたら(グループホーム?)すべての玄関が中庭に向いている家をつくりたい。中庭で日常的に自然なコミュニケーションが生まれたらいいと思う。日本の昔の長屋みたいなおせっかいがないといけない世の中になってきていると思う。そのためには「プライバシー」を少しあきらめなくてはいけない部分があるのではないだろうか。

(Dさん)

- ・妻: 地域にはいろんな人がいる。高齢な人と若い人は好きなものが違うだろうし、庭を見せたい人もいるし、すごくすてきにしているのに見せたくない人もいる。
- ・夫: いろんな活動があって、いろんな活動を始めのきっかけがあるといいと思う。なので、情報提供のための手段があるといいと思う。ぷらっとガーデンは男の人にとっては入りづらいと思うが、情報提供はしていくべき。先日、ビレジリンクに関わっている人に一緒にやらないかと声をかけられた。定年後に地域の為に働くというのはいいことだと思った。ビレジリンクがこのような情報発信の役割を担う組織になっていくといいと思う。(ビレジリンクは生活サービスのコミュニティービジネスを始めようと動き出し

ている、柏ビレジ住民主体の組織である)

- ・ 夫：現在は（商店街の）スーパーもなくなってしまった。不安なのは70,80才になったときに暮らしていけるか。車に乗れなくなったら食品ですら手に入れるのが難しくなってしまう。本当は最後までここで暮らしたいと思っている。生協（生活クラブ）が何か始めるらしいと聞いている。移動販売がお豆腐屋さんみたいに來るなら、便利だと思う人はたくさんいると思う。
- ・ 妻：（コミュニティカフェ）はなみずきも最近浸透してきたように感じる。初めて來る人も増えていて、最近はいつ手伝いに行っても混んでいて、わりと忙しい日が多い。
- ・ 夫：柏ビレジで一生を終えようとする、結局人間関係が大事だと感じる。
- ・ 最近若い人が増えてきた。今まで住んでいた夫婦の地方の親が高齡化して、その世話をするために地方に帰っていたりして、今度は子供世代が帰って來て柏ビレジに住みはじめていたりするので、昔見た顔が増えている。なので、今はいろんな変化が起こる時期なのかもしれないと思う。

(Eさん)

- ・ 今、ご近所との関わりが薄い。もっと近所の方と仲良くしたいというのが正直なところ。後から入居したことや、平日働いていること、子供同士の繋がりがあまりないことなどがあり、地域内で仲のいい人をつくるのがむずかしいと感じている。
- ・ 以前、犬を飼っていた。その頃は近所を散歩して、犬仲間がいっぱいいた。庭を覗いて「これ何という花？」などと声をかけると、お花を分けてくれたりした。去年飼った犬が亡くなってしまったので、最近は散歩もあまりしなくなった。ご近所の同世代のわんちゃんたちも最近どんどん亡くなっていて、その飼い主さんたちも見なくなった。その代わりに、新しく犬を飼いだめた知らない人が散歩しているのを見るようになった。世代交代が起こっている。
- ・ 常盤平に住んでいて、子供が小さかった頃は「金妻」みたいに、近所のお友達と旦那も交えて夜まで飲んだり食べたりして、とても楽しかった。主人が帰って來て、「また金妻やっているのか！」などと笑われたりした。次第に子供も大きくなってあまりそういうことはしなくなった。奥さんたちだけでお茶等はしていたが。
- ・ この前Bさんにスーパーで会った。世間話をした。庭のバラの手入れの話になって、今度分けてくれると言ってくれた。最初の集まりでBさんが以前近所に住んでいたということを知って、親近感を持った。同世代で、趣味の仲間の繋がりが増えて、楽しかった。今度AさんやBさんとお茶でもしたいと思う。
- ・ このケーキは商店街のパン屋さんで買った。クリーニング屋さんは定期的に使うから、帰りにパン屋さんで買ったりする。光フルーツさんもけっこういいものがある。最近コ

コンビニもなくなっちゃったでしょ？近所に安いお店もあって、みんな車でそっち行っちゃうのだけど、商店街に何もなくなっちゃったら寂しいから、できるだけここで買うようにしている。

- ・前は東急ストアもあって、日曜なんかは結構賑わっていた。テーブルも並んでいて、そこで公園で運動した帰りにビールを飲んでいるおじさんとかもいていい雰囲気だった。共働きだったので、20時までお店がやっているのは助かった。

#### <小括>

今回のヒアリングで最も多くのコメントがあったのが街に対する思いであり、関心がそれだけ大きいことが分かる。長くこの地域で暮らし、観察しているので、地域に住む人に対する理解も深いものになっている。年数が立つごとに、変化していく住環境をそれぞれが敏感に感じ取っていて、不安に感じている部分がある。それでも、多く挙げられた「住み続けたい」という発言から、地域に対する愛着が読み取れる。また、地域の人が活躍できる場、地域の人がつながることができる場の需要も読み取れる。途中から入居した E さんは、子供の母親同士のつながり、犬の飼い主同士のつながり以外の近隣とのつながりを見つけるのを難しく感じていた。C さんや E さんの発言から、自分の住環境を良くするために、より地域の人と結びつこう、地域のために貢献しようという意思の働きが分かる。

#### 4) 実験への反応

(A さん)

- ・年に1、2回だったら全く構わない。全く負担ではない。人を家に呼ぶことは、家の中や庭をきれいにしようというモチベーションになるので、いいことだと思う。

(B さん)

- ・ぶらっとガーデンは面白い試みだったと思う。かき氷も特に負担とは思わなかった。年を取ると、色々おっくうになってしまうものだが、やってみないとわからないこともあると思って、勢いで飛び込んでみた。やってみて思ったことは、もっと多くの人に参加したらいいのということ。柏ビレジの人は結構身構えてしまう。一人一人はいい人なのだけど、集団になると責任を取りたくないのと面倒くさいことに巻き込まれたら嫌だと二の足を踏んでいるように感じる。

(Cさん)

- ・ ということを通じて、何かの取り掛かりになればと思って取り組んだ。全く負担ではなかった。強いて言うならば、雨が降って、家にきた方がつまらない思いをして帰っていくのではないかという不安があった。しかし、マスキングテープの工作や、押し花等を皆さんが楽しんでいたのがよかった。プログラムによって滞在時間が変わることが分かった。最初は「オープンガーデン」と呼んでいたものを、「ぷらっとガーデン」と呼び方を変えたことによってだいぶ気持ちが楽になった。他の人は自分の庭を「見せるほどの庭ではない」と謙遜するので、気にかかっていた。その点、「ぷらっとガーデン」だと、花がたとえ一つしかなくて、他は何もなくても、気持ちさえあればぷらっとガーデンと呼べる気がする。こんなことを言っているが、参加したきっかけは、結局は自分のため。自分が地域の一員として何か出来ることから始めたいと思ったからである。

(Dさん)

- ・ 夫妻：(ぷらっとガーデンで負担を感じたり、大変だったりは) 特になかった。
- ・ 夫：強いて言うならば、家の中に招くように決めるまでは少し抵抗があった。ここは男性と女性は意見が分かれるところかもしれないが、妻の方は初め抵抗があった。でも結果的に楽しかった。自分も最初はどうなることかと思ったが、やってみたら楽しかった。図書ボランティアの活動も浸透してきているのではないかと思う。
- ・ 妻：主人が家の中まで入れるというのを最初に言い出した。自分は少し抵抗があったが、家を開放することにした。すると、主人はお客さんがせっかく来てくれるので、撮り溜めた庭の写真でスライドショーを作成したり、家具を動かしたり等、色々と動いてくれた。自分は前の日に庭も気になって色々と準備でばたばたしたのと、別件の踊りの稽古の方で疲れがたまって一週間ほど腰を痛めてしまった。
- ・ 妻：実際にやってみたら楽しかった。小さい子供も意外と何人も来てくれて、嬉しかった。こんなに人が来るとは思ってなかった。(ご近所の子どもに声は)一切かけていない。来てくれた子供の中の3人はよく図書館で見かけるので、図書ボランティアという言葉に反応してくれてくれたのではないかと思う。他は特に接点のない人が来てくれていた。自分たちの活動が地域に浸透してきたのかもしれない。
- ・ 妻：思ったのは、ビレジのほとんどの敷地はだいたい60坪程度で、庭がまとまって広い面積でとれる訳ではない。特に入居が後の方になってくると、分譲の土地が狭いのに住宅の方を広くとって建てている場合が多い。庭好きな人ほど色々植えていて、歩くスペースも少ないという場合もあると思う。なので、(必ずしも今回の実験のように) うまく行く訳ではないと感じた。
- ・ 妻：花だけ見せるとかだったら割と楽だと思った。近所の方が自分でオープンガーデン



を企画して行ったときは庭の花殻を拾ったり色々準備したりするのに朝の4時に起きて準備したと言っていた。本格的にやろうとするとこのように大変。まだ、色々関わっていることがあるので、自分はちょっと忙しい。10年前は働いていたから、もっと忙しかった。追いかけている感じだった。いまは落ち着いてきて追いつこうとしている。もう少し立って、落ち着いたらもっと余裕ができてくると思う。そうしたときになったら出来ると思う。

- ・ 妻：とにもかくにも、今回の試みは楽しかった！実際にやってみる人は多くないかもしれない。でもやってみたら楽しいということが分かった。

(Eさん)

- ・ 「オープンガーデン」という名前だったので行ってみたいと思った。「ぷらっとガーデン」だと行かなかったかもしれない。他のお宅を見たら、立派だったので、この2回では尻込みしてしまった。
- ・ 前は雨が降ってしまって残念だった。でも楽しかった。春にやるとしたらいつも同じお宅にお世話になっていて申し訳ないので自分もやろうと思う。それまでに片付けておきたい。

### <小括>

最初は不安もあったが、やってみたら楽しかったという感想が多かった。特に大きな負担は感じていない様子が見取れる。Bさん、Cさん、Eさんは負担を楽しさが上回り、次もやってみたいというモチベーションにつながっている。また、Eさんは2回の参加経験を経て、自分もやってみようという意識が生まれた。Dさんからはもっと余裕ができたときの方がいいという発言もあった。3)の街に対する思いで、Bさんが「地域の人が能力を発揮できる場があるといい」と発言しているが、ぷらっとガーデンを行ったことによって、Dさんの自宅が図書ボランティアの紙芝居を披露出来る会場となった。庭に興味がある主婦だけでなく、チラシを見て来場した子供の参加もあり、このような企画が参加者の層を広げたと見ることができる。

Cさんは「花がたとえ一つしかなくて、他は何もなくても、気持ちさえあればぷらっとガーデンと呼べる気がする。」と発言している。気持ちさえあればどんな空間であっても、人をもてなし、ともに楽しめる空間になり得る、という認識が住民に芽生えたと考えられる。

## 5) 庭のストレス

(Aさん)

- ・ (植物医師に) バラのことを相談した。消毒をせずに虫がつかない方法が知りたかった。近所で消毒に対してすごく敏感な家があるので、いい方法が知りたかった。しかし、消毒をしたくないのなら、バラを植えなければいいと言われてしまった。それは違うと思う。あちら(植物医師)の意見では庭で繁殖した虫や菌が近隣の農作物に飛び火して農作物までダメになるということを言われたが、それではガーデニングを楽しむなことなのか。学者先生は新しい菌を見つけて喜んだりしているのかもしれないが、ガーデニングをしている人の気持ちに寄り沿っていない。周囲に害にならない方法で花を楽しみたいので、消毒を使う以外の方法が知りたかった。不愉快だった。なので、人を呼んでくるのだとしたら、住民の感覚と近い人を呼んできてもらえるとありがたい。もしまたイベントをやるとして、ガーデニングの先生が来るとしたら、参加したい。

(Bさん)

- ・ 前の家では色々植えたりしていたが、ゴミ袋がいくつもいっぱいになるくらい雑草が生えてきていたので、次の庭では手入れが楽なものかと考えていた。中古で手に入れた物件は和風の木がたくさんあり、庭の隅に桜の木が植えてあって、巨木化していたため、毛虫と蚊がひどかった。手入れがとても大変だったのですべて抜くことにした。お隣さんもその機会にすべて抜いて、芝生の庭にした。これで手入れがだいぶ楽になった。

(Eさん)

- ・ 雑草抜きが大変。次から次へと生えてくる。夏場はプランターの水がすぐ枯れるので、あまり長く家を離れられない。でも年を取ったら一番大変なのは土の移動だと思う。力仕事なので、最近はできなくなったという話を良く聞く。体力の低下も感じる。昔は一日庭の手入れをしていられたが、今同じようにしようとする、ヘトヘトになる。
- ・ あとは隣の家の木が大きくなって、はみ出してきて大変。隣の方は全然気にしない人で、はみ出したら切っちゃっていいわよと言われるのだが、さすがに何も言わずに勝手に処理することもできない。

### <小括>

植物医師への相談会は多くの住民からの反応もよく、好評であったが、中には不快に感じている参加者もいたことがヒアリングによってはじめて分かった。消毒は近隣に迷惑をかけないように行わなくてはいけない。隣家との境界からはみ出てくる植物はトラ

ブルの元になりやすい。また、雑草拔きの疲労を伴う作業や、水やり、虫、庭木の巨木化、土の移動等の重労働などは、ストレスになりがちである。

## 6) 他の庭への興味

(Aさん)

- ・ 自分あまり他のおうちにお邪魔することはない。人を自宅に呼ぶのは好きなので何かの教室をやるときにうちを使ったりする。人を家に呼ぶことは、家の中や庭をきれいにしようというモチベーションになるので、いいことだと思う。クリスマスにも人を呼んで何かやろうと思っているので、こんな風にお菓子を用意している。他の家に行くことはあまりないので、参考にするということはない。参考にしているのはガーデニング雑誌など。インテリア雑誌を見るのも好きで、通販で注文したりする。近所でそういう話をする人はあまりいないので、自己流で行っている。

(Bさん)

- ・ 今思うと、庭に手をかけるかかけないかは、その人が子育て時にどのように庭に接したかによると思う。子育てが忙しくなってそれでも続けた人は今でも手をかけているし、それをきっかけに手をかけるのをやめた人もいると思う。それが分かれ目だったように感じる。いまは若い人は共働きなのだけど、私のときは専業主婦が多かった。だから手をかけられたというのものもあるかもしれない。共働きだったら庭どころではないと思う。自分の娘も、働いているのだが、不便なので絶対に柏ビレジには住みたくないといっている。庭の作業は楽なものではないので、時間だけでなく、心の余裕と体力もないと続かないと思う。

最近近所に若い世帯もいるが、ほとんど共働きである。庭に時間をかけないスタイルに変わってきているのだと思う。世代交代が起こってきている。原発事故のこともあるので一概には言えないが、子供を育てる環境としてはわりとよいので、子育て世代も入ってきた。高齢の方はもっと便利なところを探していたり、施設に入ったりで、出て行く人も多い。

(Cさん)

- ・ 流山のオープンガーデンは毎年いくつか見るポイントを決めていっている。オープンガーデンがきれいなだけあって、クリスマスのイルミネーションもきれい。柏ビレジも子供がいた頃は盛んだったが、今はあまり行われていない。

(Dさん)

- ・妻：(バラに詳しいMさんという方がいて)、その方から、6支部ではバラを育てる方がどんどん増えていった。だからと言って、みんながその人に従っている訳ではなく、他にもバラに詳しい方もいて、育て方にも別の意見があったりする。派閥のようなものがあると思う。
- ・妻：主人は庭づくりやものづくりに喜びを感じていて、良かった。褒めたらその気になって、本当に上達した。この近所は本当にご主人が何も出来ない人が多い。会社の重役、銀行の社長などだった人が多く、退職して時間があるけれども、すべてお金で解決できるので、だいたい業者にやらせている。うちはよそが業者にやらせてもらうところで、お金をあまりかけたくないから自力でやってみたところ、意外とうまくいったので気に入って、楽しんでいる。夫：近所のご主人たちと実際に話してみても、どうでもいい他愛ない会話を続けられない人が多いと感じる。気楽な会話に慣れていないのだろうとおもう。
- ・夫・妻：マップをつくって柏ビレジで公開したことがあった。こっちの制作はTさんが行った。それぞれの庭にあるバラの種類を聞いて、マップ上に落とし込んでいた。かなり好評だった。ただし、お庭の公開をした訳ではなく、どこに何があるか示しただけの地図なので、人が庭の中にまで入ってくるということはなかった。この家もマップに載っていた。
- ・Mさんが独自でオープンガーデンを行ったこともあった。これはMさんのお庭で開催されて、ケーキも提供した。他にも、Mさんがよそのお庭で庭の手入れを行っていたこともあった。しかし、金銭の授受があった等で、助かっていた人もいた一方、陰口を叩く人もいた。

(Eさん)

- ・近所に庭好きの人はあまりいない。近所の人には庭いじりをしていると「大変ねー」「よくやるわねー」等と声をかけられる。庭の手入れは業者にやらせている場合が多く、あまり自分で手入れは行っていない様子である。(街に)昔はもうちょっと子供もいたのだけど、最近人はあまり歩いていない。みんな何をしているのかなー、なんて思う。私は庭とか、キルトとか趣味があって良かった。趣味がないと大変だと思う。

#### <小括>

他人の庭環境への興味の度合いは人によって異なる。また、主婦の観察眼の鋭さが読み取れる。観察によると若い世代や働いている人は時間がないので、庭にかけられる時

間も少ない。時間があってもお金の余裕があれば、業者に依頼し庭を手入れすることによりあまり時間をかけない家が多い。また、所属する支部によって、庭に対する関心も異なる。Dさんの所属する支部は関心が大きく、バラが見事であるという評判もある。Eさんの所属する支部は関心をあまり表に出していないことが分かる。

#### 7) 外部のサポートに求めること

(Aさん)

- ・ UDCK でつくられているようなつながりを活かして、ガーデニングの先生等呼んできてくれるといい。あとは花屋さん（ビレジに出入りしているのは1軒）があるのがありがたいのだが、いつも同じところだと飽きてしまう。自分の庭だと寄せ植えがあまり映えない。大ぶりのパンジーの方がきれいに見える。他の花屋さんが来てくれると嬉しい。昔商店街にあった花屋さんは好きだった。花の植えかえ時期に安くしてもらえるとなお助かる。

(Dさん)

- ・ 夫：きっかけがつくってもらえて良かった。これから大事になってくるのはこういうきっかけづくりだと思う。

(Eさん)

- ・ 見捨てないで、今後も継続してもらいたいと思う。

#### <小括>

外部のサポートに求めること具体例を挙げるのは今の時期は難しいかもしれない。しかし、Aさんの発言からもみられるように、住民側も柏市と大学と民間企業（公民学）で連携しているUDCK（アーバンデザインセンター柏）というキーワードと結びつける等、多角的な視野をもった主体の協力に対して肯定的な見方がある。地域参加のきっかけが出来たことに対しても肯定的な姿勢が読み取れる。また、現状では住民側の組織化まで至っておらず、社会実験も外部に頼る形になったことから、今後もかかわっていて欲しいと考えていることも読み取れる。

## 8) その他

(A さん)

- ・ 交流の場として、知らない人や子供が来るなど、庭がいわば公園のようになってしまうと困る。自分が外出している間に勝手に入られていたりすると困る。カシニワのインターネットで公開だと、年中身構えていないといけないので、そのようにはしたくない。(夫に先立たれて) 独り身なのでそれは負担になる。
- ・ カシニワに参加している人同士の集まりを行うとしたら、参加しないと思う。素人同士の集まりだと時間の無駄、とってしまう。専門性がある人が来るならまでも。

(C さん)

- ・ 撮影があったので少しきれいにした。息子の趣味が寄せ植えをつくることなので、つくりすぎた植木鉢をもらったりしている。
- ・ カシニワ公開については、今のご時世、名前と住所両方公開するのはあまり受け入れられないと思う。

### <小括>

人から見られることが、自分の周辺の環境を整えるモチベーションにつながることは、6) の A さんの発言や、8) の C さんの発言から分かる。カシニワについての理解はしっかりされているかは分からないが、インターネットで公開ということに対して警戒をしている様子が見受けられる。常にオープンガーデンの看板を下げているとはいけないことは、ストレスに感じることを読み取れる。また、防犯面での不安も読み取れる。

C さんは、ヒアリングを行った日ではない日に、「人の視線をつくることによって、見守りが働き、防犯になると思う」と発言していた。オープンガーデンを行うことによって地域の関心を集めるのはよいが、インターネットの公開は不特定多数への公開となるので警戒心が働いていると考えられる。

### 5-3 分析

住民が何を住むまちに求め、どんな庭を持ちたいと思っているのか。また、住宅地の庭にどのような価値が見受けられるのか。社会実験を行ったことによって、現代の庭の使い道に見えた可能性・オープンガーデンに見えた可能性とは何なのか。2章、3章の内容も含めて考える。

住民ヒアリングから住みたい街に対する思いを抽出して分類した。それぞれが口々に慣れ親しんだ住宅地に出来るだけ「住み続けたい」という意思を表明している。どのようなまちに住み続けたいのか分類したところ、「つながり」があるまち、「きっかけ」があるまち、「支えあい」があるまち、「アメニティ」があるまちの4つに大きく分けることができた。

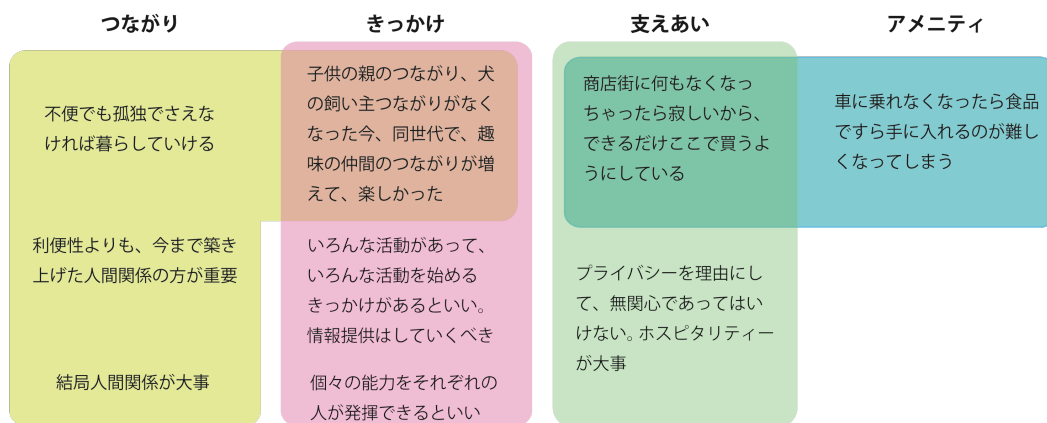


図5-1 「住み続ける」の4分類

また、この4つの項目について、実験によって住宅地の課題を解決するにあたってそれぞれどのような可能性が見え、どのような課題が見えたのかを、次の表に整理する。加えて、庭の公開は庭のストレスを人によっては軽減する可能性も見えたが、庭の公開自体もストレスになり得る。同様にどのようなストレスの可能性が見え、課題が見えたのか整理する。

|       | 出来たこと・見えてきた可能性  | 課題   |
|-------|---|--|
| つながり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ住宅地であれば規模は同等であり、共通の話題である</li> <li>・「犬」仲間や「子供」のママ友のように、つながりを作りやすい</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信、きっかけづくり</li> </ul>                            |
| きっかけ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活躍の舞台となり得る</li> <li>・意識を共有できる場、サロンの役割も期待できる</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加しやすい風土づくり</li> <li>・意識を共有できる工夫の用意</li> </ul>     |
| 支えあい  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内での支えあいの萌芽</li> <li>・外部主体のサポートによる意欲の発見</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民組織を作るまでは時間が必要</li> <li>・住民側の意欲の継続</li> </ul>     |
| アメニティ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・庭空間、私有空間のより有効な活用</li> <li>・不足した機能の補足が出来る可能性</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの提供者による地域への浸透</li> <li>・生活を支えるものの導入</li> </ul> |
| ストレス  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開の限定によって予測できない事態の回避ができる可能性</li> <li>・名称を変える等、ハードルを下げる</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・方法の検討</li> </ul>                                   |

以上の項目、「つながり」、「きっかけ」、「支えあい」、「アメニティ」、「ストレス」いう5つのトピックに分けてそれぞれ記述する。

### 5-3-1 <つながり> 共通点としての「庭」

「庭」は「犬」の飼い主同士のつながり、「子供」の母親同士のつながりと同じように、住宅地において庭を持つ人同士を結びつける共通点である。同じ地域の人であれば同質な庭を持つので共感できる部分が多い。ヒアリングのEさんのように子供の自立や飼い犬の死去後は、近隣とのつながりが途絶え、次のつながりを模索する訳であるが、「庭」が新たなつながりの手段になる可能性が見えた。また、半永久的にその役割を果たし続けてくれる場でもある。さらに、Dさんが住んでいる地区のように、お互いを意識しながらバラをきれいに咲かせるための努力を行っている場所もある。仲間を作ること、良い緊張関係を作ることなどにおいて庭は有効



な役割を果たしている。

柏市のカシニワ登録者を含め、全国のオープンガーデンの団体の多くでも団体内の交流や、会員が参加するツアーが行われている。ただし、このようなつながりは、主に庭に思い入れがある人に限られている。地域内には色々な人がいるので、庭を利用して地域のつながりを作る際には広い視点が必要である。

### 5-3-2 <きっかけ> 踏み込みやすい中間領域

5-3-1で述べたように、庭は共感が生まれやすい場であり、さらに、家と道の間、つまり私有空間と公共空間の中間に位置する中間領域であるので、住民側からも意思表示を行いやすい空間である。近年は外構がよりオープンになってきているので、その傾向も大きい。

社会実験で公開を行った人や参加者は主に交流が好きで、ホスピタリティがある人であることもヒアリングから読み取れる。このようなことは、一度訪問してみて初めて分かる、というものでもある。Eさんの「今度お茶でもしようと思う」という発言から分かるように、家を訪問したことによって、参加者に対する親しみが生まれている。いまさら地域内に新しい人間関係を作るのは難しい、と感じる定年世代が増える中、このような場へ訪問することをきっかけに近隣住民への親しみが増したり、新しい仲間と出会えたりという可能性もある。また、Dさんにとっては、紙芝居を披露するきっかけとなり、活躍の場にもなった。

さらに、参加者からは見られることによる緊張感を肯定的に捉えている発言もあった。2-3-1のアメリカの芝生の庭についての説明でも挙げたが、見られることを意識することによって、緊張感や社会性が生まれ、いつもより手入れに力をいれるきっかけになるということである。オープンガーデン時は、住民によって花が増やされていた。よって、近隣住民に見られることは庭などの住空間の管理への意欲向上や都市空間の美化にもつながるといえる。

### 5-3-3 <支えあい> 支えあう気持ちの拡大

社会実験で知り合った住民同士が親しくなり、楽しみながら運営準備に取り組んでいたことから、共同意識の萌芽は見られた。また、自分が出来ることを探して、公開を行う住民を助けようという姿勢も見られた。しかし、住民組織による運営はまだ難しいのが現状である。地域からどのような反応がかえってくるか、一回の実施ではまだ分からない部分が多々ある。このような心配を抱え、自分たちのみで運営するのはまだリスクも不安も大きい。

今回、支えあう気持ちが住民にあることが確認できた。住民側に組織がつけられれば、もっ

ときめ細やかに地域のニーズを拾い、よりすばやい対応ができる可能性はあるが、このようになるまでは時間が必要である。

#### 5-3-4 <アメニティ> まちの機能と私有地

社会実験では「ギャラリー」や「紙芝居」などといった機能が住宅地のなかに生まれた。これによって言えることは、庭や個人の私有地の一部が、都市のアメニティとして機能し得るということである。現代の住宅地の庭の課題として挙げられるのは、利用する人数が少なくなっていることであり、このような空間は多くの場合、利用頻度が少ない空間、もしくはただそこにあるだけの空間になってしまっている。結果、住宅地は閑散とした印象になり、ヒアリングからも「昔は子供が多かった」など、かつての賑やかさを惜しむような発言も聞かれた。しかしこのような空間を積極的に地域住民のための場として使用することによって、近隣の住民から見ると、徒歩圏内でアクセスでき、近隣の人との交流のチャンスとなる、アメニティの空間が生まれる。庭空間の意味を「固定化させない」ことによって、多様な利用方法が考えられる。

また、庭は私空間であるので人を迎え入れる・共に楽しむための設えは個人の自由で用意でき、公共空間より公共的利用において融通が利く部分があるといえる。5-3-2で述べたように、庭の公開によって顔の見える関係がつくられるので、安心感のある空間をつくり出すことが出来る。つながり、きっかけ、支えあい、といった要素が集まって、将来的に生活に必要なアメニティまでここに持ち込むことができる可能性がある。

#### 5-3-5 <ストレス> オープンガーデンによるストレス要素

庭自体が持つストレスと、オープンガーデンによって生まれるストレスは別々のものである。まず、庭自体が持つストレスは、水やりなどの日々の手入れ、土運びなどの肉體労働、虫の発生や植物病、近隣との意識のズレ、などである。庭をきれいにしたいという意識がある一方、それには日々の大変な作業がつきまとう。

また、既往研究でも指摘されているように、来場者にほめられ、楽しんでもらうことによって、ストレスを上回るモチベーションにつながることも分かった。社会実験の参加者からも、二度目のオープンガーデンを初夏に行いたいという声が多く聞かれた。人が来ることによって、楽しみを共有でき、自分の家もきれいにしようというモチベーションになるからである。上に述べたような、「つながり」、「きっかけ」、「支えあい」、「アメニティ」のような庭主、来場者に

双方にとって有益な要素が、この気持ちを後押ししているのだと考えられる。

それでは、オープンガーデンに対するストレス要素はどのようなものが見受けられるのか。まずは不特定多数が見ることができるインターネットに個人情報載せることに対する不安である。また、「見せるほどの庭ではない」と近隣や来場者からどう思われるかということに対する不安がある。さらに、オープンガーデンであることを示す看板が常にあることは、常に誰かが入ってくることにに対して気を張っていかなくてはいけない、という不安の声もあった。

このような不安に対して、最初は出来るだけ低いハードルで実験したことによって、ストレス要素を軽減できたといえる。また、地域内の公開であれば問題ない人もおり、用意された制度だけでは拾いきれないニーズも見つけることができた。

5-1-2で述べたように、オープンガーデン開催中、庭主はほとんど自宅から離れずに、接客に徹していた。また、庭に招くことが決定してからは、自宅の内部に招き入れることに対してはあまり抵抗がなかった。このことから、庭は公開者にとってもプライベートな空間であることが分かる。これに配慮しながら行ったことによって、庭や住宅の一部を公共的に利用することができた。

#### 5-4 小括

社会実験から、庭の使い方に工夫を加えることによって、地域の「つながり」、「きっかけ」、「支えあい」、「アメニティ」に働きかけられる可能性があることが確認できた。また、参加した住民にとっての利益が、地域の利益と共存していた。オープンガーデン自体がもたらす「ストレス」や、実際どこまで出来るか、という点で課題は色々あるが、このような取り組みによって、住民が望む「住み続けられる住宅地」が実現出来る可能性がある。



## ■ 6章 提案

～コミュニケーションツールとしての庭の利用について～

6-1 <つながり> 「庭」以外のキーワードと掛け合わせる

6-2 <きっかけ> 参加理由の提供・共通課題解決への糸

6-3 <支えあい> 地域の自立の手段としての「外部」からのサポート

6-4 <アメニティ> 機能を置く場としての私有地

6-5 <ストレス> 公開地域の規模・公開の段階性

## ■ 6章 提案

### ～コミュニケーションツールとしての庭の利用について～

前章では庭の公開を社会実験として行ったことの効果の分析を行った。分析のテーマの 5 項目に対応し、以下の提案をする。

#### 6-1 <つながり> 「庭」以外のキーワードと掛け合わせる

前章では「庭」が共通点であり、つながりを示すキーワードであることを述べた。しかし、「オープンガーデン」という単語自体は庭好きの人の心には響くかもしれないが、それ以外の人の関心と呼ぶことは難しい。地域内部では、様々な関心がある。社会実験では紙芝居の読み聞かせを行ったことによって、小学生も数人遊びにきた。このように、「紙芝居」などといった他のキーワードと掛け合わせることによって、新たなつながり、新たな関心が生まれる可能性が見えた。

一般的なオープンガーデンの多くは、庭やガーデニングに対して関心がある層をターゲットにしている。ガーデニングは多くの人の関心を集められる分野なので<sup>i</sup>、広域からの来場者を想定していれば、このようなテーマ設定で良いと考えられる。しかし、住宅地の課題に対する解決のために、地域内という小さいエリアで行うこと、つながりのきっかけ、地域内のアメニティの充実という役割を想定した場合は、もう少し広い分野の関心を拾う必要がある。

庭はさまざまな活動を許容出来る、屋外空間でもある。よって、他のキーワードと掛け合わせることもある程度の自由が許される。このように、新たなキーワードと組み合わせることによって、より多くのきっかけ、より広いつながりを作ることができる可能性がある。

#### 6-2 <きっかけ> 参加理由の提供・共通課題解決への糸口

オープンガーデンは地域の住宅の庭に訪問するきっかけを提供してくれる。しかし、そのようなきっかけがあっても、庭はプライベート性の強い空間であるので、参加理由がないと入ることを躊躇する可能性もある。また、日本の住宅地の庭はたいがいの場合あまり広くなく、見るだけであれば、すぐに見終わってしまい、交流も生まれにくい。

このようなきっかけを有効に活用できるようにするには、来場者に参加理由をあたえる公開方法や滞在の工夫があることが重要である。社会実験では、押し花のしおりづくりや、はがきの製作ワークショップなどがこのような参加理由や滞在の工夫となった。また、共通の課題を

解決するという構成も、関心が生まれやすく、参加理由になると考えられる。

具体的な提案になるが、例えば、地域内の緑を管理するための資金集めをオープンガーデンへの募金という形で行うなどといったことである。イギリスとは違い、規模も小さいのでチャリティによって集まる金額も限られるだろうが、目に見える形で住宅地に還元することができる。市等の自治体レベルで緑への基金を集め、市内に還元する取り組みは行われているが、住民にとっては自分が住む住宅地で還元されるスタイルが分かりやすいのではないかと憶測する。対象地の柏ビレジでも、地域内の高齢者をサポートするための生活サービスの拠点や、商店街の活性化を、定年世代を中心とした住民によって行おうという動きがでていいる。地域内の居場所を探していたり、地域の課題解決に関心を持ち始めたりした人がこのような活動を知る機会となる。このように、地域内での循環に対して関心があることが分かる。6-4で述べるアメニティに関しても、同じように参加理由の提供、共通課題への解決をという要素もある。

### 6-3 <支えあい> 地域の自立の手段としての「外部」からのサポート

オープンガーデンでは公開を行うことに抵抗を感じる人でも、公開を行う人のサポートを行うことができる。このような住民同士の支えあいは社会実験中に見受けられたが、住民主体によるオープンガーデンの開催を行うほどの組織化は行われなかった。今回の社会実験は、大学の研究チームがリードして実施した。オープンガーデンを担当したのはまちづくりを専門としたballoonという学生団体で、住民と細かく連絡を取り、大学、柏市と連携をとりながら進めていた。柏市では広域に公開するオープンガーデンを行う人を募集しているのに対し、balloonでは柏ビレジという地域に限定して関わっていたので、小規模なオープンとなった。地域内への公開を行うことには肯定的でも、柏市のオープンガーデンには登録はしないと断言する人もいた。常に緊張感を持っていないといけないと感じることや、近隣との兼ね合いなどの負担、個人情報公開が登録への阻害要因になっている。

このような外部の主体によってサポートし、実験を行ったことによって、このように制度のみでは拾いきれないニーズや課題があることも分かった。また、この制度への登録者を増やし、より広がりのある活動にしていくことを目指す場合は、公開の範囲の限定や、公開期間の限定などのハードルを下げる要素も制度の運営に盛り込むことが一つの解決手段になり得る。さらに踏み込んで指摘すると、看板があることによって通りすがりの人の視線を集めることはでき、このような視線を励みにオープンガーデン登録者によって庭の手入れが行われているが、近隣住民同士が顔を合わせる交流の場という役割を持たせるとすると、時間を限定することが重要になり、これによって遭遇のチャンスをつくり出すことができるということも言える。<sup>ii</sup>

今後、オープンガーデンの公開を行っていくことを考えると、核となる住民組織が創出され

ることによって、住民同士支えあいながら継続的な開催が出来ると考えられる。まだ住民側の体制が整っていないうちは時間をかけて外部からのサポートを行い、オープンガーデンの導入と同じようにハードルを一つずつ乗り越えていくことが重要である。

#### 6-4 <アメニティ> 機能を置く場としての私有地

社会実験では、このような現代の一般的な住宅の庭空間に、住宅地に不足していると思われる機能を入れられる可能性が見えた。このような機能は、地域内に点在することによって徒歩圏内でアクセスできるサービスや交流の場となり得る。社会実験の中で地域に点在させるこのような役割をもった空間を「小さな拠点」と呼んでいるが、このような小さな拠点の庭での実現可能性がみえた。実際に生活に必要な機能を入れるのは簡単なことではないが、近年、社会の様々なサービスが高齢社会に対応させて作られてきている。例えば、柏ビレジではスーパーもコンビニもなくなってしまったため、商店街の一角に生活クラブという惣菜等を取り扱っている生協の移動販売車が停車し、販売を行うようになった。ただし、商店街から離れたところに住んでいる人等、すべての人が恩恵を受けられている訳ではない。

そこで、「小さな拠点」である。一軒一軒の家に訪問販売を行うよりも、決められた拠点に人が集まり、そこで販売を行うことの方が効率的でもあるし、買物等の機能に加え、さらに交流の場としての効果も期待できる。また、利用者がある程度限定されるので、住民の健康状態等の変化に細かく気付くことができる見守りの場ともなり得る。

現実的には、このようなサービスを受け入れる側の姿勢も重要である。しかし、私有地であれば住民側の意向次第で様々な可能性があり、高い効果が期待できる。実際に6-2で述べたように地域内での生活サービスの拠点づくりも住民の間で議論されており、このような団体との連携によってより高い効果が望める。また、上に述べた balloon 自体の活動理念は、(移動販売のような)動く機能を利用してこのような小さな拠点(「ぷらっと」と呼んでいる)をつくることを目指しているのであるが、来年度は「緑地」に対する視点をもった柏市との協働事業となるので、より複合的な視点で住宅地に関わっていくことが出来るはずである。

#### 6-5 <ストレス> 公開の規模・公開の段階性

オープンガーデンには、庭主がストレスや負担と感じる部分があると考えられ、このようなことが重くのしかかると、庭の利用は難しくなってくる。社会実験では出来るだけ負担とならないように注意して行ったところ、住民側からは「負担ではなかった」という回答が



得られた。

今回の社会実験は住宅地のみでの公開であったので、インターネットでの情報公開ではなく、柏ビレジ内部のみに対して、チラシ配布で行った。また、公開の期間を決めておこなった。このようなことから、住民の不安を押さえることができた。また、一度プレイベントで公開をおこなったことによって、経験者は次の公開に対して心の準備も出来ていた。公開の規模や時間を限定したこと、公開の規模を段階的に大きくしたことによって最小限のストレスで行うことができたと考えられる。

オープンガーデンの課題として、ある程度の庭のレベルがないと行うことが難しいと思われる傾向があること、近隣への迷惑や常に見られることなどの不安要素があること、登録される庭の数が思うように伸びないことなどがあげられる。実際は、柏市のオープンガーデン制度に登録した人に関して述べると、公開によって庭を見た人からの賞賛や、登録者同士の集まりを楽しんでいる様子が見受けられる。一方、柏ビレジでは、まだ「市」への公開を行うつもりがある人があられていない。しかし、今までに述べたように「住宅地」の中での公開にも大きな重要性があり、オープンガーデンにも「市」レベルの公開、「住宅地」レベルの公開、一日公開、通年公開など、様々な関わり方があってもいいのではないかとと思われる。

空間の領域の設定は、個人差がある。実際に登録者がどの程度なら大丈夫と選択的に選べるメニューを用意することによって、色々なレベルの公開が地域にあっても良いのではないだろうか。様々な選択肢を用意することによって、より広がりのある活動になる可能性がある。

---

i 2-2-6 参照

ii balloon が山間部にある島根県津和野町でおこなった調査の例をあげると、買物困難者のニーズがあるため移動販売が行われており、販売業者は毎週大体同じ時間で決められたルートを巡回している。この中に、買い物客が数名で集まって移動販売を待っている地点もある。ここでは買物だけでなく、近隣住民同士の井戸端会議も行われており、つかの間ではあるが、毎週社交場と化している。



## ■ 7章 結論

7-1 成果

7-2 課題

7-3 まとめ

## ■ 7章 結論

### 7-1 成果

2章では庭がどのような空間であるかの考察を行った。3章ではオープンガーデンがどのような活動であり、どのような課題があるのかを述べた。4章と5章では社会実験の説明とその分析を行った。6章では住宅地の庭をコミュニケーションツールとして使用するための提案を行った。以下、3つのテーマによって、本論をまとめたい。

#### テーマ1：現代の庭が持つ価値

日本の庭は、かつては塀や生垣等で囲まれた空間であった。大邸宅では多くの人を招いて利用することもあっただろうが、一般的な家庭では家の住人が自然を感じ、愛でるための場として作られた。住宅地で塀や門が省略され、オープンな外構が好まれるようになったのは近年からである。このころから、住宅地の街並みに対する意識も生まれた。また、90年代ごろから普及した自己表現の手段としての空間づくりを行う「ガーデニング」という考え方は、植物を栽培すること自体を楽しむ「園芸」にはなかった価値観であり、住宅地への姿勢を示す新たなコミュニケーションの手段となった。私的な庭から、徐々に地域に対して開かれた性格を持ってきたと考えることができる。

ただし、庭の中で行われていることは基本的に住人による利用に限られており、見る、見られるための庭の手入れ以外の利用頻度は少ない。不動産の住宅の物件情報を見ても住居の間取りの図面が載っていても敷地が載っていないことも多く、軽視されやすい空間であると言わざるを得ない。しかし、定年後の趣味の空間として多くの高齢者が自宅の庭で園芸やガーデニングを楽しんでいるということも分かってきており、改めてその価値を見直さなくてはいけない。

今回の社会実験によって、住民の言葉を借りると、庭は「気持ちさえあれば」住民同士の交流の場として、運転が出来ない近隣住民にとってアクセシブルな機能を置く場として、また、地域内の見守りの場として使用できることが分かった。

#### テーマ2：オープンガーデンとは

オープンガーデンによる庭や花好き同士の交流や、庭主のモチベーションを上げる効果は全国各地のオープンガーデンの開催で多く実証されている。しかし、実際にはいわゆる住宅地の庭であると広さがあまりなく、すぐに見終わってしまうので、長い滞在や交流は生まれづらい。

オープンガーデンをしてみたくても躊躇している人もいる。住民ヒアリングからも、花がきれいに咲いたから、見てもらいたいと思うときもある、という発言もあった。そのような人でも、今回のようなワークショップに参加し、実際に関わってみることによって、様々なきっかけを見つけることができた。そして、大好きな花のある空間を使って、ゆっくりと気心の知れた近所の友人とお話しできる、などといった、大規模なオープンガーデンでは難しくなっている庭利用の良さに改めて気付かされる部分があったのではないだろうか。

また、カシワの登録者、柏ビレジでの庭の開催者双方とも、見られることによるモチベーションの向上を実感しているが、柏ビレジの方では常に見られることを気にしていないといけないうのはストレスだと感じるという声が多く聞かれた。出来るだけ多くの人が活躍できる場を設けるのだとしたら、限定的な公開ということが一つの解として挙げられる。庭を公開するということの良さを、「オープンガーデン」という単語にとらわれずに、本質的なところで捉えていく必要がある。

### テーマ3：住み続ける＝「つながり」「きっかけ」「支えあい」「アメニティ」

住民は住み慣れた地域に住み続けることを望んでいる。ヒアリングからどのようなまちに住み続けたいのか分析したところ、住み続けるにあたって必要だと考えていることを4つに分類することができた。「つながり」「きっかけ」「支えあい」「アメニティ」である。

これらは住民の努力によって手に入れられる部分もあれば、外部からのサポートを受けて自立を目指す必要がある部分もある。今回の社会実験では、これらを手に入れるにあたり、住民が地域に自宅の庭を提供するオープンガーデンが一助になることが確認できた。ここでいうオープンガーデンは、一般的なオープンガーデンの効果である、視線を集め管理の意欲向上や庭主同士の交流の促進等の役割に加え、拠点としての効果があるように再構成したものである。

まず、庭は住宅地ではどの家にもある共通点であり、共有できる話題である。この特性を生かし、地域住民同士の「つながり」を作ることができる。また、オープンガーデンはそこに来る人同士が知り合う「きっかけ」を提供する。地域の人が共有する課題が関連するテーマのものであれば、より多くの人々の関心を集めることができる。さらに、オープンガーデンの準備には住民同士の「支えあい」が見られ、そのような気持ちが住民側にあることは確認できた。しかし、住民が組織化し、自分たちの手で開催するまでは、複合的な視点を持った外部のサポーターが必要である。最後に、社会実験では「紙芝居」や「ギャラリー」がそれにあたるのであるが、まちの機能「アメニティ」を置く場として庭が使用できることが確認できた。私有地である庭だからこそ、身軽にそのような設えにすることが出来る。また、買物等のサービスを取り込み、地域にこのような拠点が点在できれば、地域内の交流が生まれるとともに、運転が出

来なくてもサービスにアクセスすることができる空間となる。

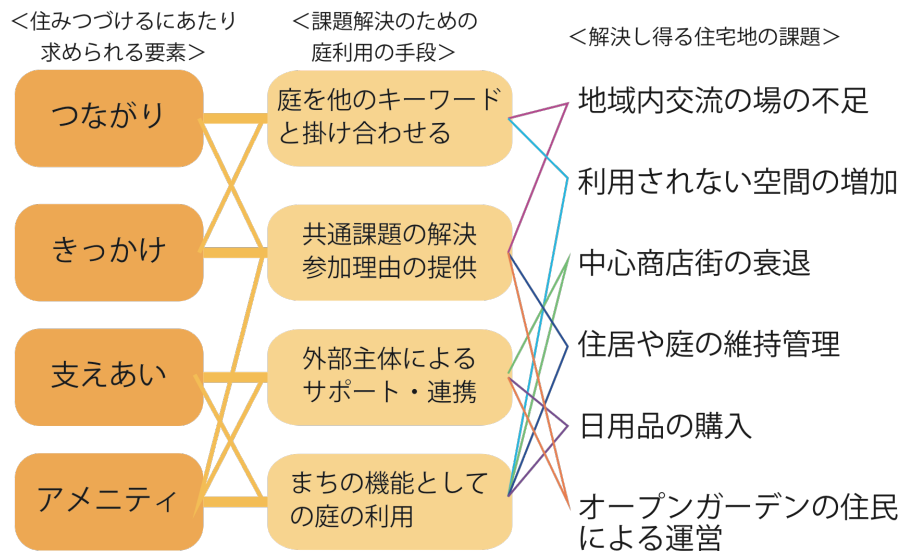


図7-2 ダイアグラム

## 7-2 課題

今回の社会実験では、まちにとって有益な機能を庭に入れられる可能性や、住民の支えあいの意識の萌芽が確認できたが、期間が短かったため、実際に生活に必要なサービスを入れることや、住民組織を作るところまでは至らなかった。来年度も引き続き2つのモデル地区、柏ビレジやと手賀の杜でオープンガーデンの試みは行われるので、今後の課題である。手賀の杜に関してはここ10年程で開発が進められている新興住宅地であるので、オープンな外構と若い世代という、また違う傾向をもった住宅地であり、今回とはまた違った対応が必要になると考えられる。

### 7-3 まとめ

庭という、完全な「私」でも完全な「公」でもない、曖昧な空間とも受け取れる場所に着目して、議論を行った。庭の利用価値は様々であり、「オープンガーデン」というのは一つの利用価値でしかないが、このような利用によって住宅地の課題を解決出来る部分も見えた。

庭は住宅地において「誰でも持っているもの」なので、「共通点」であるという重要性がある。もちろん、庭の大小や地域性によって庭の捉え方が違うということはあるだろうが、地域の人との接点や共通の話題であることには変わらない。よって、庭は地域をより良くするための材料となり得る住宅地の資源であり、少しでも活用したり、手を加えたりして暮らしやすいまちになる可能性があるのであれば、まずは試してみることが重要である。

今回の実験の対象地では、住民から近隣との繋がりを求める声が聞かれた。住民にとって「つながる」こと、その「きっかけ」があること、つながった仲間と「支えあう」こと、そして暮らしを支える「アメニティ」があることは「住み続ける」ことと近い関係にあることもヒアリングより分かった。また、戸建て住宅地の庭の様々な効果や可能性も確認できた。

このような庭の利用を行っていくことにはまだ課題はあるが、意義がある。その方法や支える仕組みは、今後とも熟考していくことが重要である。

## ■あしがき (謝辞)

論文執筆にあたって、多くの方に支えて頂き、ご協力いただきましたことを、ここで陳謝いたします。

まずは柏ビレジでオープンガーデンに関わって下さった皆様、イベントを盛り上げて下さりましてありがとうございました。私自身の学生生活は終わりますが、またオープンガーデンを一緒に行うこと、楽しみにしています。また、ヒアリングにご協力して下さった皆様には、私のために貴重なお時間を割いて頂きました。お話しできたこと自体がとても楽しく、柏ビレジのことを身近に感じるきっかけになりました。はなみずきのスタッフの皆様は、いつも快く手を差し伸べて下さり、様々な面でお世話になりました。また、活性化委員会の皆様が真剣にまちの将来について考え、空き店舗活性化について議論されている姿からは、まちづくりの大変さや楽しさを勉強させて頂きました。住民の皆様へ、感謝申し上げます。

2年間ご指導下さいました清水先生は私に柏ビレジという題材を与えて下さり、様々なヒントを出して頂きました。どれくらいのヒントを私自身が拾えているかは分かりませんが、文章を書くことに対して苦手意識を持っている私にとっては、大きな励みになりました。清水先生と清家先生には柏ビレジのみならず、田村のプロジェクトでもお世話になり、私たち学生が活動している姿を暖かく見守って頂きました。副指導の大野先生は鋭い指摘をして下さり、テーマの根本的な部分についても考えるきっかけを与えて下さいました。また、建築が好きだったんだ、ということ思い出すきっかけにもなりました。和田さんには「大きな拠点」と「小さな拠点」の橋渡しで色々とお世話になりました。また、雨宮先生と寺田先生は何度も柏ビレジに足を運び、社会実験のスムーズな執行をサポートして下さいました。先生方、ありがとうございました。

清水研究室の皆さんにも2年間お世話になったこと、お礼申し上げます。同期の大原君、八坂君、山根君は良きライバルであると同時に、信頼できる相談相手でした。また、先輩の宝田さん、任さん、高浦さんからは論文の書き方等様々な面でご指導頂き、お世話になりました。後輩の小笠原さんと原田さんからも指摘や細かいチェックという面でサポートして頂きました。文系院生室の皆様にも様々な面でお世話になりました。皆様のお力添えのもとで楽しい学生生活を送ることができました。

そして、代表の鈴木さんと同期の吉村君はじめ、balloonの皆さん、ありがとうございました。皆様とは柏ビレジのみならず、様々なプロジェクトで一緒に、視野を拓ける機会を頂きまし



た。鈴木さんには社会実験の計画から論文執筆まで、感謝しきれないほどお世話になりました。柏市の公園緑政課の阿藤さん、古橋さんは balloon と、週末であっても一緒に行動して下さり、暖かいサポートをして下さいました。来年度からの協働事業が楽しみです。

最後に、庭について深く考えるきっかけをくれた、おばあちゃんに感謝いたします。まえがきを記述したときには体が弱っていながらも久々の退院生活を楽しんでいたのですが、昨年急に倒れ、2012年12月9日にこの世を去りました。

おばあちゃんはおじいちゃんが亡くなったあと、ガーデニングに打ち込むようになり、近所の公園の花壇に花を植えるなど稲毛台町のレインボーの会の一員として町内を自転車で走り回り、まちの人たちを半ば感心させ、半ば呆れさせてきました。「土を通じた人とのつながり」を私の身近な人でもっとも体現している人でした。しかし、公園の美化に取り組むあまり、家の庭が公園の花の苗を育てる畑のようになってたり、堆肥が臭ったりして、私が小言を言うこともありました。それでもめげずに続けていたのは、レインボーの会の皆様と共に過ごす時間が楽しかったからだと思います。

先日、研究の履歴を書くために2012年の自分の手帳をパラパラと振り返っていると、研究や就活の予定の合間に、おばあちゃんの入退院の日程や、自分がお見舞いに行ける日に印がついていて、おばあちゃんも私もよくがんばったなあと、涙がでてきてしまいました。自分で言うのも変ですが、よい供養になったのではないかと思います。

直接は関係ないですが、思えば一緒に住んでいる四歳下の妹にもたまには助けられたこともあったし、母も数回おばあちゃんの看病のためにベトナムから帰国して、私のわがままを聞いてくれました。その間は、父は十歳下の妹の面倒を見てくれました。十歳下の妹は可愛さで癒してくれました。親戚の皆さんもいつも気にかけて下さっていました。家族は心の支えでした。ありがとう。

それにしても、おばあちゃんの遺した試練はまだあります。わが家の庭です。正直、ガーデニング知識が乏しい私から見ると、広く感じます。でも、おばあちゃんが楽しみにしていたことなので、卒業後になるとは思いますが、修士設計&施工&アフターケア付きということはどうにかしたいと思います。おばあちゃんが今の私に与えてくれた、若さ、体力、そして、少々の遺産金で、すてきなお庭が創れる気がします。おばあちゃん、楽しみにして下さい。

2013年1月28日

河野すみれ



# 戸建て住宅地の庭の活用に関する研究 ーオープンガーデンの社会実験からの考察ー

Study on the Effective Use of Yards in Detached Housing Estates  
Analysis Considering the Demonstration Test of an Open Garden Event

学籍番号 47-116734  
氏名 河野 すみれ (Kono, Sumire)  
指導教員 清水亮 准教授

## ■1章 背景と目的

高度経済成長・それ以降に建てられた郊外戸建て住宅地において、日用品の購入や地域内交流のために計画された中心商店街の衰退、体力の低下による維持管理の困難、利用されない空間の増加などの要因によって住環境の質や魅力が低下してきている。これにより、長年暮らしてきた住宅地に住み続けることに対し生活の困難や、将来への不安が生じており、これらの課題への対策が求められている。

さて、戸建て住宅のほとんどには庭があるが、私的な空間と見なされ、現状では主な利用者はその住民のみで、利用のされ方も限られている。そのような中で、近年個人の庭を公開するオープンガーデンという取り組みが全国各地で行われており、地域住民間の関係の構築や、庭管理の意欲向上などの役割を果たしている。このことから、戸建て住宅地の庭のこのような利用は、上述の住宅地の課題に対し、新しい設備投資の必要も少なく、一助になる部分があるのではないかと考えた。

ただし、庭やオープンガーデン自体が持つ課題もあるので、まずはそれらを整理する。そして、同等の課題を抱える住宅地で実施したオープンガーデンの社会実験について、その効果を評価し、分析を行う。

## ■2章 戸建て住宅の庭に関する考察

### 庭付き戸建て住宅の誕生

第二次世界大戦後、職住分離がすすみ、多くのサラリーマンが核家族が住むことに特化した住宅を手に入れた。これには、持家政策によって庭付きの戸建て住宅を持つことが一種のステータスとされていたことが影響している。このような需要に応え、戸建ての住宅団地も多く建設された。当初はプライバシーを守る高い囲いのあるものが多かった。

70年代以降、車庫が庭に追加されて開口ができたことや、囲いが低くなってきたことから、庭は空間的に地域と干渉しあう性格を持ち始め、景観に対する意識も芽生えた。また、現在販売されている住宅は、囲いがない場合も多く、オープンな外構で計画されている。このように、古いものほど私空間的な性格をもち、オープンになってきたのは近年になってからである。

また、植物の栽培に関心をおく園芸は70年代、洋風の空間づくりに関心をおくガーデニングは90年代にブームを迎えた。近年、高齢者の趣味・娯楽として園芸・庭いじり・ガーデニングが上位に挙げられる。しかし、体力が低下した高齢者や、庭に手をかける時間が少ない共働きの若い世代にとっては、庭の手入れはストレスとなり、敬遠される傾向がある。

### ■ 3章 オープンガーデンに関する考察

オープンガーデンは庭主が手をかけてつくり上げた庭を公開することであり、来訪者が美しい緑をみて楽しむことができ、庭主もそれによって喜びを得るといように、双方にとって利益があることが注目され、住民による同好会や行政・観光協会等が主体となって開催されている。

日本においては緑の景観づくりや、手をかけて育てられた花や空間を見ることや見せることに参加者の関心がおかれている。一方、このようなことに庭公開者の関心が向き、技術の向上などに特化するあまり、外から見ると、ある程度の庭のレベルがないと入ることが難しいと思われる傾向があるため、それによって生まれる交流は限定的であると考えられる。その他にも、近隣への迷惑や常に見られることへの不安などがあり、登録される庭の数が思うように伸びないという課題がある。社会実験の対象地が位置する千葉県柏市も、カシニワ制度というオープンガーデン登録制度があるが、あてはまる。

### ■ 4章 社会実験

#### 対象地

東急柏ビレジは東急不動産が1980年から分譲を始め、建築家宮脇檀のまちづくりの思想をとり入れ、整った街並みをもつ戸建て住宅団地である。現在約1600世帯に約5000人が住んでおり、最多年齢層は50代から60代である。鉄道駅から距離があり、自動車移動をベースに計画されている。

かつてスーパーマーケットもあった中心商店街は、現在衰退傾向にあり、とくに車が運転できない住民にとっては不便な状況となっている。このためか、高齢居住者の転居等、居住者の入れ替わりも起きている。また、住民の意識調査を研究グループで行ったところ、運転が出来なくなったときの行動として、約90%の人が通院、

買物、社交が不便になると感じている。1章の冒頭で述べたのと同様の課題を抱えているといえる。

また、庭面積は広い訳ではないが、赤煉瓦塀、シンボルツリーの並木、住民が手入れするアイビーの「外花壇」などがあり、庭や景観に対する愛着が強い地域である。「庭をよりよくしたい」住民が40%以上、「現状を維持したい」が50%以上と、手入れへの高い意識が伺えた。

#### 社会実験

今回の社会実験では、地域の住民同士が庭を共に利用することの効果을明らかにするために、オープンガーデンが持つ課題に対して一つずつ対策していき、一般的なオープンガーデンを地域に合わせて、再構成する作業を行った。

社会実験は<表2>のような日程で行った。

| 日付   | 実証実験内容                    | 全戸周知 |
|------|---------------------------|------|
| 6/10 | ワークショップ「庭から始まるまちづくりを考えよう」 | ○    |
| 6/24 | 見学会「オープンガーデンを見に行こう」       | ○    |
| 6/30 | プレイベント企画ワークショップ           | -    |
| 7/29 | オープンガーデン・プレイベント           | -    |
| 9/9  | オープンガーデンイベント企画ワークショップ     | ○    |
| 9/23 | イベント「ぶらっとガーデン+リンクカフェ」     | ○    |

#### ・プレイベント企画ワークショップ

実際にオープンガーデンを柏ビレジで行うことを目的に、企画ワークショップを住民で行った。近隣への迷惑等の心配や、「自分の庭は見せるほどではない」といった声が聞かれ、まず身内で実験的に行うことになった。滞在ができるような工夫も取り入れ、3軒で実施が決まった。

#### ・オープンガーデン・プレイベント

ツアー形式で、1軒目でかき氷の提供、2軒目で写真展示、3軒目でアフタヌーン・ティーを行った。快晴、猛暑日であったこともあり、2・3軒目の庭では庭提供者が自主的に家の中まで開き、参加者を招き入れ、交流を楽しんでいた。移動は徒歩であったため、80歳以上の参加は難しかった。

・企画ワークショップ

前回のオープンガーデンを実施した庭主や参加者から、「オープンガーデンはイギリスのものを連想させ、大袈裟なイメージ」であるので、別の名称を求める意見がでた。また、イベントの提案を用意してくる等、積極的にやりたいという姿勢を見せた。4軒の庭で実施すること、負担が庭主1人に集中しないように、参加者で支えながら実施する形に決定した。

・ぶらっとガーデン+リンクカフェ

イベントの名前を気軽に訪れられる庭という意味で「ぶらっとガーデン」とし、スタンプラリー台紙付きチラシ・地図配布により周知した。イベントでは準備に主婦一人で取り組んでいたが、前日準備の段階では共同で準備する様子が見受けられた。また、この為庭の手入れや花の株を増やす等の工夫も行われていた。

当日は雨天となったが、2軒では決行し、家の中まで参加者を招き入れて、「ギャラリー」「紙芝居」等のプログラムを行った。悪天候だったが、30名以上の参加があり人が途切れることはなかった。家の中からみても庭が楽しめるように工夫されていた。

■5章 分析

4章の社会実験の参加者へのヒアリングから、実験の効果（庭活用の効果）を分析した。社会実験参加者から、街に対する思いや実験に対する反応について、ヒアリングをおこなった。

| つながり  | きっかけ  | 支えあい  | アメニティ   |
|---|---|---|---|
| 不便でも孤独でさえなければ暮らしていける<br>利便性よりも、今まで築き上げた人間関係の方が重要<br>結局人間関係が大事 | 子供の親のつながり、犬の飼い主つながりがなくなった今、同世代で、趣味の仲間のつながりが増えて、楽しかった<br>いろんな活動があって、いろんな活動始めるきっかけがあるといい、情報提供はしていくべき<br>個々の能力をそれぞれの人が発揮できるといい | 商店街に何もなくなっちゃったら寂しいからできるだけここで買うようにしている<br>プライベートを理由にして、無関心であってはいけない、ホスピタリティが大事 | 車に乗れなくなったら食品ですら手を入れるのが難しくなってしまう<br>自分が住む街に求めるもの |

街に対する思いについては「孤独でさえなければ不便でも生きていける気がする」「いろんな活動を始めるきっかけがあるといい」「車を運転

できなくなると買物も困る」等という発言があり、街に求めるものを4項目、「つながり」、「きっかけ」「支えあい」、「アメニティ」に分けられた。これらについてはオープンガーデンによって実現できる部分やその実現のための課題が見えた。実験で行ったオープンガーデンは「家をきれいにするきっかけになる」「楽しかった」などと肯定的に捉えられたが、行うまでは不安等、オープンガーデンに対する「ストレス」もあった。以上より、5点の指摘を行う。

①<つながり> 共通点としての「庭」

同じ地域の人であれば同質な庭を持つので共感できる部分が多い。「庭」は「犬」の飼い主同士のつながり、「子供」の母親同士のつながりと同じように、住宅地において庭を持つ人同士を結びつける共通点である。

②<きっかけ> 踏み込みやすい中間領域

庭は家と道の間、つまり私有空間と公共空間の中間に位置する中間領域であるので、住民側から意思表示を行いやすい空間である。社会実験では庭への訪問をきっかけに、参加者同士が親しくなっていた。また、近隣住民に見られることは庭などの住空間の管理への意欲向上や都市空間の美化にもつながる。

③<支えあい> 支えあう気持ちの拡大

社会実験では住民同士が共に運営準備に取り組み、共同意識の萌芽は見られた。住民側に組織がつくられれば、きめ細やかに地域のニーズを拾い、よりすばやい対応ができる可能性もある。しかし、住民組織による運営はまだ難しい。

④<アメニティ> まちの機能と私有地

社会実験では「ギャラリー」や「紙芝居」などといった機能が住宅地のなかに生まれた。ここから、庭や個人の私有地の一部が、都市のアメニティとして機能し得ると言える。また、庭は私空間であるので人を迎え入れる・共に楽しむための設えは個人の自由で用意でき、公共空

間より公共の利用において融通が利く部分があるといえる。

### ⑤<ストレス>不安要素への対策

個人情報載せることに対する不安、近隣や来場者からどう思われるかということに対する不安、常に誰かが入ってくることに對して気を張ってはいけなくてはいけないという不安の声もあった。このような不安に対して、最初は出来るだけ低いハードルで実験したことによって、ストレス要素を軽減できた。また、地域内の公開であれば問題ない人もおり、制度だけでは拾いきれないニーズも見つけることができた。

## ■ 6章 提案

6章では、5章の分析から、どのように庭を利用することが効果的か、5つの提案をする。

### ①「庭」以外のキーワードを掛け合わせる

社会実験では「写真」「紙芝居」などといった別のキーワードと組み合わせることによって子供の参加もあり、新しい交流が生まれた。このように、庭の利用によって、庭好き以外の人とながりを作る場となり得る。

### ②共通課題解決への糸口・参加理由の提供

地域コミュニティは、初めての人にとっては入りにくい場所である。そのような人の為に、共有の問題意識などをテーマに設定することによって、関心や参加するきっかけが生まれ、地域の課題解決への一歩となる。

### ③外部主体によるサポート

社会実験では実験チームによるサポートがあり、住民の意欲が持続するためには、また住民組織が立ち上げられるまでは、外部主体によるサポートも重要であることが見えた。

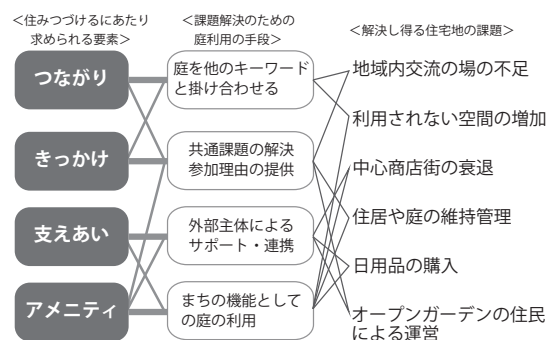
### ④機能を置く場としての私有地

このような場に商店街が果たしていた買物の場としての機能や、交流の場としての機能といった、不足しているアメニティとしての利用価値が、近隣住民の徒歩圏内に

生まれる。また、住民の健康状態等の変化を細かく見守ることの出来る場ともなり得る。

### ⑤公開の規模・公開の段階性

公開に積極的な人、限定的に可能な人、と様々な価値観がある。公開範囲や時間を限定的にするなど、さまざまな公開のメニューを増やすことによって、層を上げられる可能性がある。



## ■ 7章 結論

### 現代の住宅地における庭の価値

庭は、緑地や室内の延長としてのみでなく、庭を持つ人同士のコミュニケーションツールとしての価値があることが分かった。

### 「住み続ける」ための庭の活用について

オープンガーデンの工夫により、戸建て住宅地に住み続けるための一助となる「つながり」「きっかけ」「支えあい」「アメニティ」を、既存の庭を用いて住宅地に提供することができる可能性が見えた。

### 課題

まちの機能を庭に入れられる可能性や、住民の支えあいの意識の萌芽が確認できたが、実際に生活に必要なサービスを入れることや、住民組織を作ることは今後の課題である。

### 参考文献

- ・東京大学 2012 「柏ビレジの住みよい街づくりに関するアンケート」 (955 世帯回答 /1575 世帯配布)
- ・ミサワホーム総合研究所 2006 「創園 庭を考える」
- ・総務省統計局 「平成 18 年度社会生活基本調査」
- ・野中 勝利 2002 「長野県小布施町におけるオープンガーデンの特徴と課題」 J.JILA65(5)
- ・木口彩 2012 「住宅地の成熟化からみた宮脇檀の「景観計画」の再評価 —柏ビレジを対象として—」 東京大学修士論文

付録資料－ 1

カシニワ関係ヒアリング





## 1. カシニワ制度の概要と実態

柏市 都市部 公園緑政課 2012年4月19日 10:00- @柏市役所

カシニワ制度：柏市内で市民団体等が手入れをおこないながら主体的に利用しているオープンスペース（樹林地や草地等）並びにオープンガーデンを「カシニワ＝かしの庭・地域の庭」と位置づけ、カシニワの創出・保全・維持に対して市がバックアップを行う制度。情報の収集、提供によって活動の円滑化を図る。

### 1-1 カシニワが目指すものと現状

#### ●狙い：

- ・造成されたにもかかわらず使われていない土地の有効活用
- ・高齢化によって管理できなくなる土地の増加への対策
- ・公園の不足の解消
- ・公有地ではできないこと（バーベキュー等）の私有地での実現
- ・近所付き合いの希薄化への対策
- ・地域貢献活動の場として

☆ 自主的な取り組みを大事にしている。→地域力を高めていく新しい共有空間

☆ 公園緑政課として気をつけていること：

- ・明文化（人によって対応が変わらないように）
- ・お役所っぽくならない（申請主義×）
- ・多くの市民参加を促すようにする（敷居を低く、デザイン性に富む形、センスよく。）
- ・柔軟な対応ができる（走りながら考えて改善）
- ・人の手を使うが極力コストをかけない（委託に頼らない）

#### ●実施状況：

- ・情報バンク（土地所有者・市民団体間でマッチングが図れた場合、協定を締結する）団体情報 15 件、土地情報 21 件、支援情報 6 件、オープンガーデン（一般公開可能な庭）27 件、地域の庭（市民団体等が土地を借りて手入れを行っている場所）9 件 2012.4.19 現在
- ・4 種類の助成金あり（資格取得費、基盤整備費等、活動費、固定資産税相当額）→活動費（12 件）以外はあまり利用されていない。
- ・市で実施していること：団体設立支援、会議室の提供、土地所有者との調整、ゴミ収集依頼、ゴミ袋配布、現場活動（花苗植え・里山管理）、大学との連携、園芸講習サポート、里山ボランティア入門講座、勉強会、多部署との調整
- ・直近9ヶ月の協議件数 632 件、新聞、雑誌、テレビなど掲載多数。
- ・現在ここまで登録件数が増えたのは、G-1 イタリアン割烹の小関哲哉さんがスカウトしてきたから
- ・今までお客さんが大勢来て困ったとか、不法侵入の苦情等という話はない。流山のオープンガーデンは公開日には数百人来訪者がいる所もある。
- ・里山ボランティアから始まった制度なので、所属団体は里山関係が多い。オープンガー

デン登録者はお店を営んでいる人が多い。(宣伝にもなる。オリジナルグッズ販売もある。)

- ・「地域の庭」が町会任意の避難場所に設定されるケースもある。

## 1-2 カシニワの効果と課題

### ●効果

- ・新若柴町会「自由の広場」市の未利用地を町会に貸し出し、町会が管理。広場の町会による管理、避難場所指定。お祭り、草刈り、花畑、菜園、遊び場など、地域の人の活動の場になっている。
- ・かしはな(花壇)
- ・手賀沼里山クラブ(里山管理)観察会、樹林地管理、園芸講習、団体間交流等が行われている。
- ・個人の庭の一般公開
- ・被災地の応援。育てたチューリップの球根を被災地に送った。

### ●問題点

- ・農地法：任意のボランティア団体への農地の貸し出しができない。
- ・建築基準法：原則、仮設を認めない(簡易トイレや簡易倉が設置できない)
- ・都市計画法：市街化調整区域での倉庫建設等ができない(林の中とか)
- ・土地税法：更地にすると固定資産税が上がるため、空き家のままの利用が進まない
- ・運営上：普及活動(まああまり知られていない)、制度の継続性(市の予算500万)、カシニワ活動地の質の向上(市民は造園のプロではないため)
- ・小関さんの紹介に頼っている

## 2. カシニワ制度の概要と実態

柏市 都市部 公園緑政課 2012年12月12日 16:00- @喫茶店

### ① カシニワ制度立ち上げの経緯

何故、里山と「オープンガーデン」が一緒に掲げられたのか

平成18年から市では里山の保全に興味がある人をつのって、里山の管理を行っている。このような団体による「活動地を見つけてほしい」という要望と、「団体に管理してほしい土地」のマッチングを行える仕組みがあったら円滑に紹介できる、という発想が先駆けとなった。

緑の基本計画が平成21年9月につくられ、84項目のなかの5つを選んでカシニワ制度がつくられた。その中のひとつにオープンガーデンという項目があった。

### ② 今行っている広報活動

広報の主な手段はチラシ、ホームページ、Twitterである。あとは各カシニワに掲げてある看板である。突発的に広報かしわにのせてもらうこともある。そのほかはラジオやテレビ、雑誌などの取材が来る。最近はこの取り組みが表彰されたのでそれも認知度があがるきっかけになった。今後柏レイソルの自動販売機のようにカシニワのパッケージの自動販売機も設置予定である。この自販機の売上の一部は緑の基金に寄付される仕組みである。

### ③ カシニワ制度を立ち上げる過程で参考にした事例、

もしあれば現在参考にしている事例等

オープンガーデンに関しては小布施を参考にした。実際に流山には視察に行った。未利用地のマッチングにかんしては横須賀の空家バンクの仕組みを参考にした。また、助成金に関しては札幌の事例を参考にした。

カシニワは複合的な制度で、このようなことを行っている自治体は他になく、ひとつひとつの項目に対して別々の事例を参考にしている。

### ④ 「カシニワ」の普及が進まないこと以外に、困っていることなど

この制度は住民の色々な要望に応えられるように、できるだけ柔軟につくられているし、公園緑政課としてもできるだけ柔軟に対応したいと思っている。しかし、柔軟であることから万能であると思われてしまう節がある。助成金の制度もあるので、いいようにとられてしまう。なので、他課や議員さんから色々関係ない仕事まで振られてしまうこともある。

カシニワ情報バンクの方では、バンクに提供できる土地情報があまりない点も課題である。

### ⑤ これまでに発生したトラブルなど

オープンガーデンのほうでは特に問題はない。

土地を貸すことに関してはいくつかトラブルは起きている。借りている団体が近隣の人への配慮が足りなかったり、大量の雑草の処分に手間取ったりなど。

### ⑥ オープンガーデン登録者から挙げられている要望等

マップが欲しいという意見が出ている。

松戸オープンフォレストのようなイベントをやったらどうだという意見も出ている。

あとは、流山みたいに日程をあわせるといいのではといわれている。

助成率をあげてほしいという声もある。

被災地復興支援の取り組みをもっとやりたいといっている人もいる。

#### ⑦ balloon との協働事業で期待すること

登録への壁を下げられたらいいと思う。

「協働」であることの良さを出していきたいと思う。公園緑政課としても、団体側が「やろう」というと動きやすくなる。これは制度を変える場合も同じで、そもそも不完全な状態でスタートさせた制度であるので、一緒に改良していきたい。

あとは、カシニワの認知度をあげられるように、ツールができればいいと思っている。パネルや冊子等をつくって、説明資料を増やしていくことと、チラシやグッズ等も増やしていけたらいいと思っている。若い職員の教育にも、市民団体との協働は非常にいい機会だと思う。

### 3. カシニワ制度の概要と実態

登録者ヒアリング 2012年12月22日 14:00- @登録者自邸

#### ①登録しようと思ったきっかけ

登録しようと思ったのは、褒められると嬉しいから。カシニワはカシニワの最初の登録者の尾関さんに声をかけられ、知ることになった。それで、自分から柏市に連絡して、登録した。自分はプランターで花を咲かせるのが好きで、できるだけいつも満開にしたいと思っている。今も百種類くらいの植物を庭に育てている。このように花を育てるのは、手賀の森に引っ越す前から、だいたい20年ほど前から、続けている。引っ越す前はマンションの1階に住んでいた。猫を飼うのと、花を育てるのが好きで、写真もたくさん撮ってある。

年を取ると、何かに追っかけられていないと、何もしなくなってしまいそうなので、体が動くうちはできるだけ忙しくするようにしている。登録をしているということが、庭の手入れをするうえで励みになっている。

#### ②登録後の周囲（近隣住民の方）の反応

この限界で登録している家は自分だけだが、近所に住んでいる人でも花や庭に興味がある人はカシニワについて知っている。でもホームページをみて誰かが来るということはないし、特にトラブルも発生していない。家族も最初は驚いたようだが、始めてみて特に問題になることはない。

たくさんの植物を育てているので、株分けしたり、庭に植えきれずに余ったりするものも出てくる。もったいないので、前から近所の人にもらって欲しいと思っていた。でも自分から人にあげにいくと、かえって枯らしてはいけないというプレッシャーになって、申し訳ない。最近はいい方法を思いついて、庭の前に「自由に持って行って下さい」という箱を置き、その中に苗等を入れている。そうしたら、欲しい人だけが持って行ってきて、プレッシャーを与えることなく余った苗を分けることができるようになった。

#### ③登録したことのメリット・デメリット（効果）を感じるか

褒めてもらえることにメリットを感じる。また、（カシニワのホームページで公開されている支援情報）サギソウの球根をわけてもらえたことなどはありがたく感じている。これだけ花を植えるとお金がかかるので助かる。昔はタバコを吸っていたが、ちょっと考えてみたら、一箱でいくつかが花が買えるということに気付き、タバコをやめ、花の方にお金をかけるようになった。デメリットは特に感じていない。

#### ④「カシニワ」でもっとこんなことができたらいのに、等の要望はあるか

特に要望はないが、もっと見てもらって、もっと褒めてもらえたら、やる気が出る。お花屋さんと提携して情報がもらえたり、自分の庭の情報を公開してもらえたり、割引などのサービスがあったりしたらうれしいと思う。

⑤ 自分が住んでいる住宅地に対して、気に入っている点、もっとこうしたいなど、変えていきたい点

この住宅地を選んだ理由は、自分は千葉県で生まれ育ったので、新しい住まいも東京ではなく千葉と決めていたこと、前まで住んでいた我孫子から近いところであること、新興住宅地なので同じ時期に入居する人が多いこと、である。もう既に出来上がったコミュニティに入り込んでいるのは大変なので、同じ時期に入居して、みんな同じスタートラインであることに對して魅力を感じた。

問題だと感じているのは、手賀の杜の住宅地は建売で、住宅の庭に売り出しのときから植えてあった木が多いことである。木もいろいろあって、年数が立つと手入れが大変になるものもある。経験のある人を見るとなんでこれを植えてしまったの？とあきれするような木も植えてあったりする。本来ならば間引きをすることによって良い環境を保つことができるのだが、普通の住民はそれを知らない。講習会とかがあるといいのかもしれない。もっとも、今行っても植えてある本人たちがまだ危機感を持っていないので、参加しない可能性が高いが。

まわりは若い人が多いが、彼らには子供の学校つながりがある。もっと年が上だと、犬の散歩をしている人たちのコミュニティがある。自分は普段は働いているので、グリーンボランティアをすることはできない。でも年を取って、ご近所との付き合いは何かするのが一番だと思っている。今は忙しく過ごしていて、特に不満はない。

付録資料ー2

柏ビレジアンケート





# 柏ビレジの住みよい街づくりに関するアンケート

平成 23 年 12 月

実 施：東京大学・柏ビレジ活性化委員会



## 【記入にあたって】

- ・設問には、世帯の成人の方おひとりがお答えください（どなたでも結構です）。
- ・最初から1問ずつ、該当する全部の質問にお答え下さい。
- ・お答えは、あてはまる番号に○をつけて下さい。
- ・各質問において、「その他」を選ばれた場合は、() 内にその内容を具体的に記入して下さい。
- ・各質問に、回答を「ひとつ」「いくつでも」などと指定しています。その範囲内でお答え下さい。
- ・調査の結果は統計的に処理されてまとめられます。あなたのお答えが個人的に取り上げられて、分析されることはありません。
- ・ご記入後は、同封の返信用封筒に入れ、12月31日(土)までにポストに投函して下さい。

**最初に、このアンケートにお答えいただく方についておたずねします。**

**質問 1.** あなたの性別をお答えください。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

|       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

**質問 2.** あなたの年齢をお答えください（ひとつに○）。

|            |             |             |            |
|------------|-------------|-------------|------------|
| 1. 20～24 歳 | 2. 25～29 歳  | 3. 30～34 歳  | 4. 35～39 歳 |
| 5. 40～44 歳 | 6. 45～49 歳  | 7. 50～54 歳  | 8. 55～59 歳 |
| 9. 60～64 歳 | 10. 65～69 歳 | 11. 70～74 歳 | 12. 75 歳以上 |

質問3. あなたの職業は次のどれですか（ひとつに○）。

- |                       |                                |
|-----------------------|--------------------------------|
| 1. 会社員・公務員などの常勤の雇用者   | 5. 主婦                          |
| 2. 自営業・自由業            | 6. 無職・退職                       |
| 3. パート・アルバイトなど非常勤の雇用者 | 7. その他（                      ） |
| 4. 学生                 |                                |

質問4. あなたを含め、同居のご家族は何人ですか（ひとつに○）。

- |           |       |       |       |       |         |
|-----------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 1. ひとり暮らし | 2. 2人 | 3. 3人 | 4. 4人 | 5. 5人 | 6. 6人以上 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|---------|

質問5. あなたの同居しているご家族に、以下のような人はおられますか。  
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（あなたご自身は含めないでください）

- |             |             |              |                 |
|-------------|-------------|--------------|-----------------|
| 1. 未就学児     | 2. 小学生      | 3. 中学生～19歳の方 | 4. 20～39歳の方     |
| 5. 40～64歳の方 | 6. 65～74歳の方 | 7. 75歳以上の方   | 8. 同居している家族はいない |

質問6. あなたが所属する「支部」をお答え下さい（数字を記入）。

第  支部

質問7. あなたは、お住まいの地区に住んで何年くらいですか（ひとつに○）。

- |         |         |          |           |           |          |
|---------|---------|----------|-----------|-----------|----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～5年 | 3. 6～10年 | 4. 11～15年 | 5. 16～20年 | 6. 21年以上 |
|---------|---------|----------|-----------|-----------|----------|

質問8. あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか（ひとつに○）。

- |             |             |         |                        |
|-------------|-------------|---------|------------------------|
| 1. 一戸建て（持家） | 2. 一戸建て（賃貸） | 3. 集合住宅 | 4. その他（              ） |
|-------------|-------------|---------|------------------------|

質問8-1. 「1. 一戸建て（持家）」と答えた方 建替えや増改築をしたことはありますか？

- |         |                |           |          |
|---------|----------------|-----------|----------|
| 1. 建替えた | 2. 外観を伴う増改築をした | 3. 内装を変えた | 4. していない |
|---------|----------------|-----------|----------|

質問9. あなたはふだん、どのような交通手段を使うことが多いですか。  
あてはまる番号すべてに○をつけてください（いくつでも）。

- |       |        |           |        |       |       |
|-------|--------|-----------|--------|-------|-------|
| 1. 徒歩 | 2. 自動車 | 3. バイク・原付 | 4. 自転車 | 5. バス | 6. 電車 |
|-------|--------|-----------|--------|-------|-------|

質問10. あなたの現在の健康状態はいかがですか（ひとつに○）。

- |       |         |        |            |         |
|-------|---------|--------|------------|---------|
| 1. よい | 2. まあよい | 3. ふつう | 4. あまりよくない | 5. よくない |
|-------|---------|--------|------------|---------|

**ビレジについておたずねします。**

**質問 1 1.** あなたのビレジに対するイメージをおたずねします。  
ア) ~キ) のそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

|             |            |             |            |
|-------------|------------|-------------|------------|
| 1           | 2          | 3           | 4          |
| とても<br>そう思う | 少し<br>そう思う | あまり<br>思わない | 全く<br>思わない |

- 回答例) ビレジに愛着を感じている ----- 1 ——— 2  ——— 3 ——— 4
- ア) ビレジに愛着を感じている ----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- イ) ビレジだからこそ住んでいたい ----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- ウ) ビレジにはたくさんの思い出がある ----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- エ) ビレジの住民とのつながりを感じる ----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- オ) ビレジは居心地がよい ----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- カ) もし引っ越すことになったらつらい思いをするだろう ----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- キ) 人からビレジの悪口を言われたら、自分の悪口を言われたような気になる ----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

**質問 1 2.** ビレジには、良好な環境を維持するため定められた**建築協定**があります。あなたは、ビレジの**建築協定**をご存知ですか (ひとつに○)。

1. 内容まで知っている    2. 内容は知らないが存在は知っている    3. 存在も知らない

**質問 1 2-1.** (「1. 内容まで知っている」と答えた方) その内容に対してどうお感じですか？

1. 十分満足    2. それなりに満足    3. あまり満足していない    4. 全く満足していない

**質問 1 3.** あなたのご自宅は、ビレジの**建築協定**に加入していますか (ひとつに○)。

1. はい    2. いいえ    3. わからない

**質問 1 4.** ビレジには、緑の管理について定められた**緑化協定**があります。あなたは、ビレジの**緑化協定**をご存知ですか (ひとつに○)。

1. 内容まで知っている    2. 内容は知らないが存在は知っている    3. 存在も知らない

**質問 1 4-1.** (「1. 内容まで知っている」と答えた方) その内容についてどうお感じですか？

1. 十分満足    2. それなりに満足    3. あまり満足していない    4. 全く満足していない

**質問 1 5.** あなたのご自宅は、ビレジの**緑化協定**に加入していますか (ひとつに○)。

1. はい    2. いいえ    3. わからない

**質問 1 6.** ビレジの公共のみどりの問題点について、あなたのお考えをお聞かせください。街路樹・公園・緑道のそれぞれについて、ア)～ウ)のそれぞれについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください(いくつでも)。

| ア) 街路樹について    | イ) 公園について         | ウ) 緑道について         |
|---------------|-------------------|-------------------|
| 1. 景観が美しくない   | 1. 景観が美しくない       | 1. 景観が美しくない       |
| 2. 樹木の管理が不十分  | 2. 樹木の管理が不十分      | 2. 樹木の管理が不十分      |
| 3. 樹木の形状が悪い   | 3. ゴミや落書きが多い      | 3. ゴミや落書きが多い      |
| 4. 落ち葉が多い     | 4. 利用者が少ない        | 4. 利用者が少ない        |
| 5. 道路に枝が落ちて危険 | 5. 利用時に犯罪への不安を感じる | 5. 利用時に犯罪への不安を感じる |
| 6. その他 ( )    | 6. その他 ( )        | 6. その他 ( )        |

**質問 1 7.** あなたは、次のようなビレジ内での活動に、どの程度参加していますか。ア)～オ)のそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

| 1<br>必ず<br>している | 2<br>できるだけ<br>している | 3<br>あまり<br>していない | 4<br>して<br>いない |
|-----------------|--------------------|-------------------|----------------|
|-----------------|--------------------|-------------------|----------------|

- ア) 自治会などの会合----- 1 — 2 — 3 — 4
- イ) クリーンディ(公園や道路の清掃や草とり) ----- 1 — 2 — 3 — 4
- ウ) 子どもや高齢者のためのボランティア活動----- 1 — 2 — 3 — 4
- エ) 柏ビレジ自治会が主催するイベント----- 1 — 2 — 3 — 4
- オ) 大学やNPOがビレジで企画したイベント----- 1 — 2 — 3 — 4

**質問 1 8.** ビレジ内には、親せきの方をのぞいて、次のような方はそれぞれ何人くらいいますか。ア)～ク)のそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

| 1<br>いない | 2<br>1人<br>いる | 3<br>2～3<br>人いる | 4<br>4～5<br>人いる | 5<br>6人以<br>上いる |
|----------|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|
|----------|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|

- ア) 道で会えば、あいさつをする人----- 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- イ) 立ち話をする人----- 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- ウ) ものを貸してくれたり、届けものをしてくれたりする人----- 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- エ) 病気で寝ていたら世話をしに来てくれる人----- 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- オ) 家を訪問してつきあう関係の人----- 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- カ) 心配や悩みごとを相談できる人----- 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- キ) 用事などで不在の間、留守を頼める人----- 1 — 2 — 3 — 4 — 5
- ク) 一緒に外出して遊ぶような人----- 1 — 2 — 3 — 4 — 5



**質問 2 3.** 柏ビレジ商店街には、地域の皆様に開かれた場所として、ボランティアと自治会の協力によって運営されているコミュニティルーム「はなみずき」があります (2006 年開設)。あなたは、「はなみずき」のことを知っていましたか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

- 1. 入ったことがある  
(→質問 2 3-1、2 3-2に進む)
- 2. 見たこと、聞いたことはあるが入ったことはない  
(→質問 2 3-3に進む)
- 3. 知らなかった (今回初めて知った)  
(→質問 2 4に進む)



**質問 2 3-1** (「1. 入ったことがある」と答えた方) 利用頻度はどのくらいでしょうか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

- 1. 1週間に1回以上    2. 月2~3回程度    3. 月1回程度    4. 月1回未満

**質問 2 3-2** (「1. 入ったことがある」と答えた方) どのような時に行きますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください (いくつでも)。

- 1. サークル活動などの帰り    2. 友達と会う時    3. イベントをやっている時
- 4. 飲食をしたい時    5. その他 ( )

**質問 2 3-3** (「2. 見たこと、聞いたことはあるが入ったことはない」と答えた方) その理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください (いくつでも)。

- 1. 行く用事がないから    4. メニューが少ないから
- 2. 遠いから    5. 営業時間が短いから
- 3. 雰囲気が入りにくいから    6. その他 ( )

**質問 2 4.** 「はなみずき」は、住民の方が気軽に交流できる場所になることをめざしています。あなたは、ビレジ内でのこうした場所についてどう思いますか。あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

- 1. 「はなみずき」のほかにもあると良い
- 2. 「はなみずき」だけで十分だと思う
- 3. わからない

(「1. 「はなみずき」のほかにもあると良い」と答えた方) 具体的にはどのような場所があると良いと思いますか。ご自由にお書きください。

[ ]

ビレジでは、住民の家の「庭」を中心に美しいみどりが守られています。  
ここからは皆様のご自宅の「庭」についておたずねします。

**質問 2 5.** ご自宅の庭にあるものすべてに○をつけてください（いくつでも）。

|             |                   |                |
|-------------|-------------------|----------------|
| 1. 葉が落ちる樹木  | 4. 鉢やプランタに植えた草花   | 7. 果物          |
| 2. 葉が落ちない樹木 | 5. ファニチャー（テーブルなど） | 8. ウッドデッキなど自作物 |
| 3. 地面に植えた草花 | 6. 野菜             | 9. その他（ ）      |

**質問 2 6.** ご自宅の庭の管理状況について、おうかがいします。  
ア)～キ) のそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

|                      |                        |                         |                       |
|----------------------|------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 1<br>よく<br>されて<br>いる | 2<br>ときどき<br>されて<br>いる | 3<br>ほとんど<br>されて<br>いない | 4<br>全く<br>されて<br>いない |
|----------------------|------------------------|-------------------------|-----------------------|

- ア) 除草（草とり） ..... 1 — 2 — 3 — 4  
 イ) 樹木の枝の剪定 ..... 1 — 2 — 3 — 4  
 ウ) 植物への水やり ..... 1 — 2 — 3 — 4  
 エ) 植物の植え替え ..... 1 — 2 — 3 — 4  
 オ) 施肥（肥料を与える） ..... 1 — 2 — 3 — 4  
 カ) 害虫の駆除 ..... 1 — 2 — 3 — 4  
 キ) 落ち葉やゴミのそうじ ..... 1 — 2 — 3 — 4

**質問 2 7.** 現在、ご自宅の庭の管理をされている主な方はどなたですか。  
ア)～キ) のそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

|                |          |           |                 |                 |
|----------------|----------|-----------|-----------------|-----------------|
| 1<br>自分や<br>家族 | 2<br>親せき | 3<br>造園業者 | 4<br>ボラン<br>ティア | 5<br>やって<br>いない |
|----------------|----------|-----------|-----------------|-----------------|

- ア) 除草（草とり） ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 イ) 樹木の枝の剪定 ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 ウ) 植物への水やり ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 エ) 植物の植え替え ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 オ) 施肥（肥料を与える） ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 カ) 害虫の駆除 ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
 キ) 落ち葉やゴミのそうじ ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5

**質問 2 8.** あなたは、庭を今後どのようにしていきたいですか（あてはまるものひとつに○）。

|            |               |                       |
|------------|---------------|-----------------------|
| 1. より良くしたい | 2. 現状のまま維持したい | 3. 庭以外の用途に転用したい（物置など） |
|------------|---------------|-----------------------|







**質問3 6.** あなたは、次のような方法で食料を入手することがどれくらいありますか。

ア) ～カ) のそれぞれについて、あてはまる番号  
ひとつに○をつけてください。

| 1<br>週1回<br>以上 | 2<br>月2～<br>3回 | 3<br>月1回<br>以下 | 4<br>まった<br>くない |
|----------------|----------------|----------------|-----------------|
|----------------|----------------|----------------|-----------------|

- ア) スーパーなどで買う----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- イ) 生協やインターネット通販などの宅配サービスを利用する ----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- ウ) 直売所などで農家から買う----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- エ) 自分や家族でつくる----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- オ) 親せきや、同居していない家族にもらう----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4
- カ) 親せきや家族以外の、知り合いからもらう----- 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4

**質問3 7.** 仮に、ビレジ内で、下記のような取り組みを行うとしたら、あなたは興味がありますか。

ア) ～ケ) の中から、興味のあるもの**3つ**に○をつけてください。

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p>ア) 地域の人が集まる月1回程度の食事会</p>                         | <p>イ) 住宅の駐車スペースや庭を利用した出張カフェ</p>                             | <p>ウ) 水辺の公園など公共の公園を利用した屋外のカフェやバーベキュー</p>            |
| <p>エ) 子どもと高齢者の交流イベント</p>                           | <p>オ) 地域の人がになうパーティ</p>                                     | <p>カ) コミュニティガーデン<br/>空き地を利用して、地域で共同で利用できる農園。</p>   |
| <p>キ) 地域の人によるお総菜屋<br/>おかずを買って帰れる（または届けてくれる）お店</p>  | <p>ク) 御用聞き<br/>日常生活で困っていること（電球の交換やゴミ出し、買い物など）を頼めるサービス</p>  | <p>ケ) 買い物代行サービス<br/>必要なものを何でも買いそろえて届けてくれるサービス</p>  |

## 自動車の運転についておたずねします。

**質問 38.** あなたは普通運転免許を持っていますか (ひとつに○)。

- |          |                       |                 |
|----------|-----------------------|-----------------|
| 1. 持っている | 2. 持っていたが返納等で今は持っていない | 3. 一度も取得したことがない |
|----------|-----------------------|-----------------|

**質問 39.** あなたはふだん自動車を運転しますか (ひとつに○)。

- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 運転する (質問 39-1 ~ 39-3 に進む) | 2. 運転しない (→ 質問 40 に進む) |
|------------------------------|------------------------|

**質問 39-1.** (質問 39 で「1. 運転する」と答えた方) あなたの運転する自動車は、自分専用ですか、ご家族と共用ですか (ひとつに○)。

- |         |          |                                 |
|---------|----------|---------------------------------|
| 1. 自分専用 | 2. 家族と共用 | 3. 世帯で自動車を保有していない (会社の車などを運転する) |
|---------|----------|---------------------------------|

**質問 39-2.** (質問 39 で「1. 運転する」と答えた方) ビレジの交通環境に関して、次のように感じるがありますか。ア) ~ オ) のそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

|      |      |        |
|------|------|--------|
| 1    | 2    | 3      |
| よくある | 時々ある | ほとんどない |

- ア) 運転していて他の自動車を危険に感じることもある ..... 1 ——— 2 ——— 3
- イ) 運転していて歩行者を危険に感じることもある ..... 1 ——— 2 ——— 3
- ウ) 運転していて自転車を危険に感じることもある ..... 1 ——— 2 ——— 3
- エ) 道路標識が見にくいと感じることがある ..... 1 ——— 2 ——— 3
- オ) 道路が狭くて走りにくいと感じることがある ..... 1 ——— 2 ——— 3

**質問 39-3.** (質問 39 で「1. 運転する」と答えた方) 仮に今、自動車の運転をやめるとしたら、つぎのようなことはどの程度あてはまりますか。ア) ~ エ) のそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○をつけてください。

|          |         |               |            |           |
|----------|---------|---------------|------------|-----------|
| 1        | 2       | 3             | 4          | 5         |
| とてもあてはまる | ややあてはまる | どちらともいえ<br>ない | あまりあてはまらない | 全くあてはまらない |

- ア) 通勤・通学が困難になる ..... 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- イ) 買物にでかけるのが困難になる ..... 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- ウ) 病院に通院するのが困難になる ..... 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5
- エ) 趣味・社交・娯楽での外出が困難になる ..... 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

最後に、ビレジに対する想いをお聞かせください。

質問 4 0. ビレジを元気にするイベント等の取り組みがあればお聞かせください。

質問 4 1. ビレジは、今後どんなまちになってほしいと思いますか。

質問 4 2. ビレジのために、自分はどんなことなら貢献できる（貢献したい）と考えますか。

質問は以上です。お忙しいところ、ご協力いただき、まことにありがとうございました。  
記入もれがないかご確認のうえ、同封の封筒に入れて、ご返送ください。

# 1 研究テーマ

## theme

明るい低炭素社会 = 持続的な社会 における高齢者の暮らし

# アンケート調査結果から見た 柏ビレジの暮らしの現状と課題

東京大学大学院・新領域創成科学研究科・准教授  
清家剛

高齢者を取り巻く環境  
○交通弱者

▷ 高齢化による自動車運転への不安  
公共交通の不足

○買い物弱者

▷ 交通の不便から生じる生活における困難

○コミュニティへの参加

▷ リタイア後の地域での生活の充実

▶ 柏ビレジにおいても十分に当てはまる問題

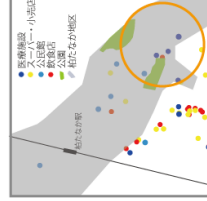
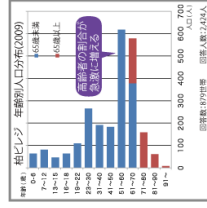
全国的に30~40年前に開発された住宅団地では顕著

# 2 研究対象

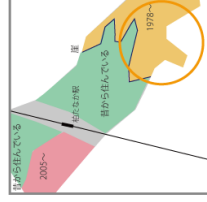
## field

研究対象としての柏ビレジ

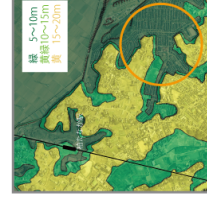
- 一気に高齢化を迎える郊外型大規模住宅団地
- 中心に位置する商店街の衰退（約10年前にスーパーが撤退）
- 坂に囲まれた低地に位置しており、どこにいくにも坂を上る
- 坂の上は農地が広がる昔からある地域



②施設の不均衡



③開発時期の異なる地区



④地形による地域の分断

# 3 視点

## viewpoint

生活を支える ▷ 高齢者でも安心して暮らせる  
持続力を養う ▷ 住民参加による地域に合ったシステム

○ 高齢者の暮らしを支える「食」

地域内の商店が衰退（生鮮食品店の不足）

駅・地域外商店へのアクセスが困難（バスの路線・本数）

単身高齢者の食事への不安（自炊の負担、栄養バランス）

▶ 地域内での「食」を提供する場所・サービスの重要性

○ これからの地域に必要な「コミュニティ」

地域での助け合い

地域での生き甲斐・楽しみ

若い世代とのつながり

▶ 住民参加によって地域の魅力を創出（若い世代にとっても）

## 4 調査

### survey

柏ビレジの住みよい街づくりに関するアンケート

○2011年12月実施（柏ビレジ活性化委員会、東京大学）  
回収率：60.6%（955世帯／全1575世帯）

○目的

①柏ビレジにおける生活実態の把握

- ▶ 回答者の属性／性別、年齢、家族構成、職業、居住地区、居住年数、居住形態、交通手段、まちへの意識／愛着、建築協定、緑化協定、緑の管理、自治活動、交流・コミュニティの場、自動車の運転／免許の有無、自家用車の有無、交通環境、問題点、食／食事のリズム、場所、要望、食に関するイベントへの関心

庭の管理／庭の管理状況、管理主体、管理の問題点、オープンガーデンへの関心

②生活の基盤としての「食」のあり方の検討

③生活を支える「コミュニティ」のあり方の検討

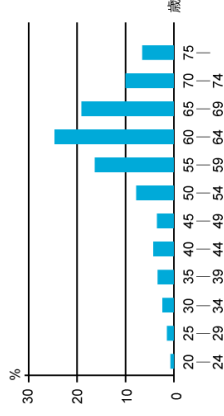
## 4 調査

### survey

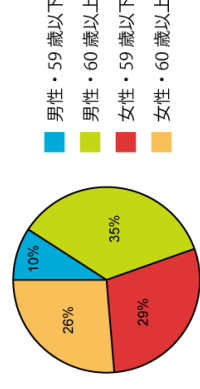
○実態把握

①属性

一気に迎える高齢化 ▷ 地域で過ごすリタイア世代の増加



年齢構成



性別年齢構成

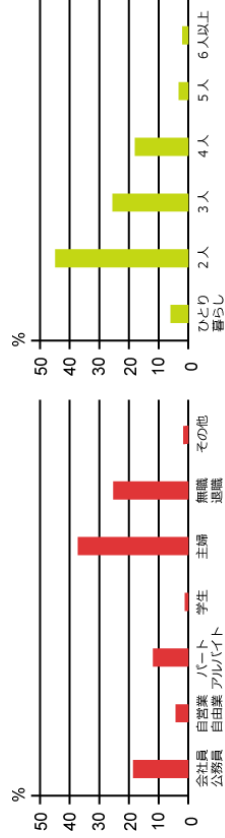
## 4 調査

### survey

○実態把握

①属性

地域で過ごす住民 ▷ 地域活動の担い手としてのポテンシャル  
まだ少ない単身者 ▷ 今後高齢化の問題がより顕著に



職業

家族構成

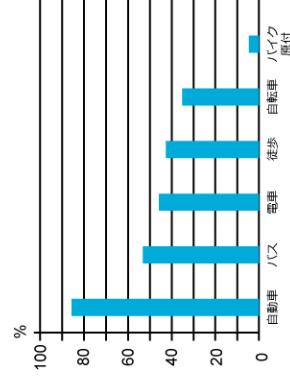
## 4 調査

### survey

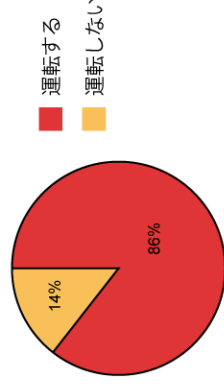
○実態把握

②交通

自動車への依存 ▷ 商店街衰退の背景（地域外への流出）



利用する交通手段



自動車運転の有無

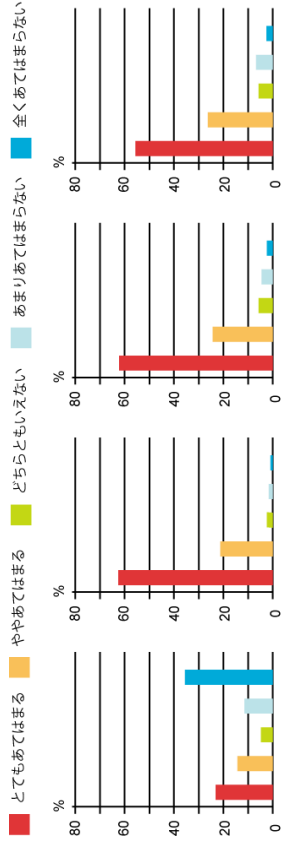
## 4 調査

## survey

### ○実態把握

#### ②交通

自動車依存への不安／運転できなくなつた時の困難



## 4 調査

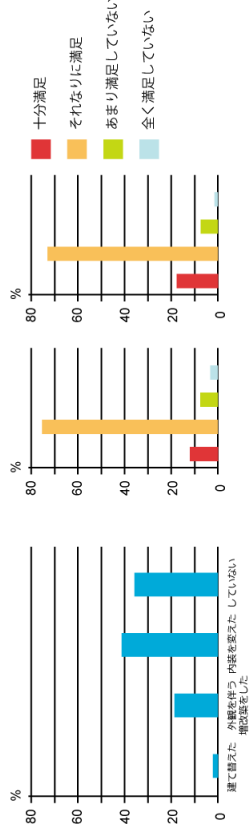
## survey

### ○実態把握

#### ③居住環境

30年が経ち手が加えられ始める

- △ 環境が変わる可能性
- △ 高齢化に伴い建築協定・緑化協定の持つ意味が変わる



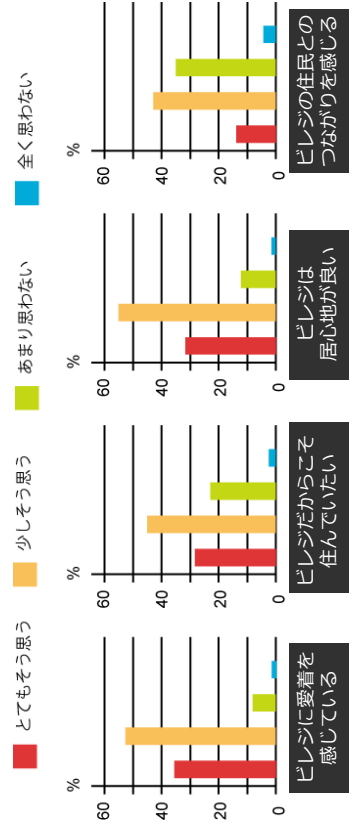
## 4 調査

## survey

### ○実態把握

#### ④まちへの愛着

愛着は強い一方、住民同士のつながりをより強めていく必要がある



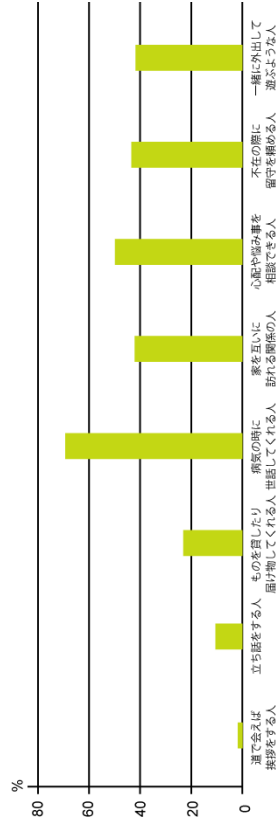
## 4 調査

## survey

### ○実態把握

#### ⑤近所付き合い

高齢化を迎えるこれから、どういった関係が必要となるか？



「地域に1人もない」と答えた人の割合

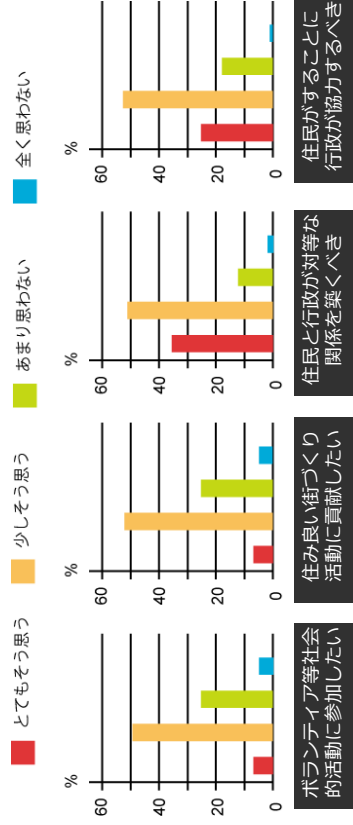
## 4 調査

## survey

### ○ 実態把握

#### ⑥ 地域活動への参加意識

高い参加意識 ▷ 活躍の場の創出



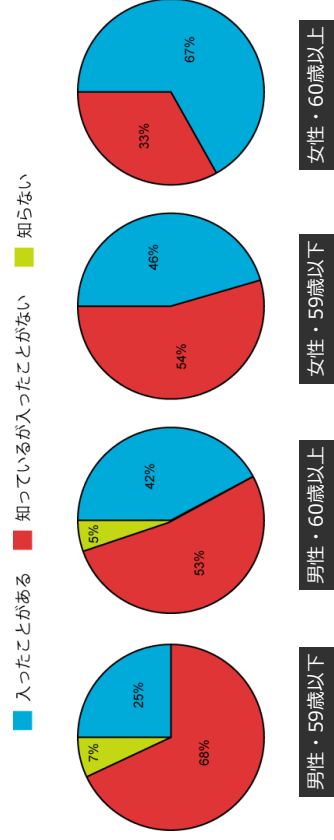
## 4 調査

## survey

### ○ 食

#### ① 既存のコミュニティ・カフェ(はなみずき)の現状

来店者：女性中心の場 ▷ 男性は入りにくい



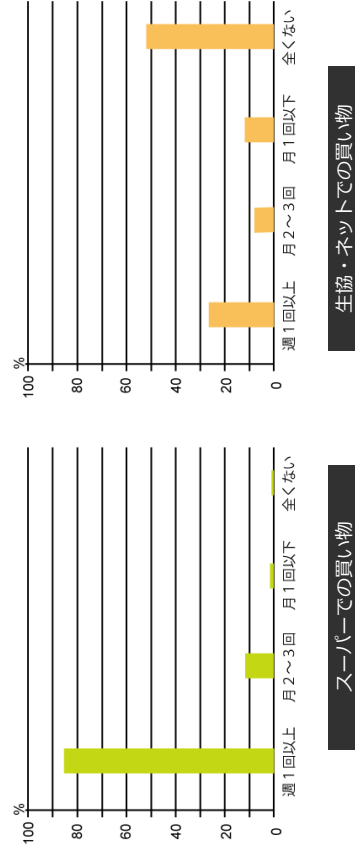
## 4 調査

## survey

### ○ 食

#### ② 買い物の現状

スーパー中心の買い物 ▷ 商店の必要性



## 4 調査

## survey

### ○ 食

#### ③ 家庭での食事

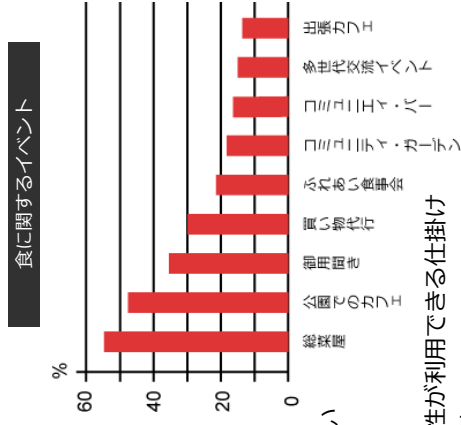
約70%が自炊  
3食家で食べる人が多い

#### ④ 食に関するイベント

日常での食事への需要

▷ 家事の負担の軽減

コミュニティへの意識は低い



▶ 定年退職後に地域で過ごす男性が利用できる仕掛け

日常の食を支える役割への期待





### 地域活性化のための拠点づくり

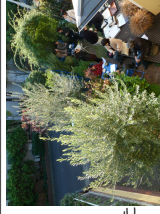
- 大きな拠点
    - 商店街内の空き店舗を利用したコミュニティ・スペースの創出
      - ▷ 偏りがちな栄養バランスの改善／食
      - ▷ 地域内に住民が自然と集まる場所の創出／コミュニティ
    - ▲ 背景：商店街活性化のために動き出している活性化委員会
- 
- 関連事項 地区中央の商店街までのアクセスが困難
    - ▶ 地域内でのコミュニティの必要性
    - ▷ 新たな交通手段の可能性
      - 既存バスの見直し、コミュニティ・バス、
      - 先端モビリティ（一人乗り小型自動車etc）

### 地域活性化のための拠点づくり

- 小さな拠点
    - 各支部(全10支部)におけるコミュニティ・スペースの創出
      - ▷ 徒歩圏内で集まれる場を創出／コミュニティ
      - ▷ 商店街との連携による出張カフェ・レストラン／食
    - ▲ 背景：地域資源としての庭の活用（手入れが行き届いている）  
住民参加による景観の維持への意識
- 
- 関連事項 カシニワオープンガーデン  
(柏市によるオープンガーデンの取り組み)
    - ▷ 制度の活用&地域への効果の検証
    - ▶ ビレジの庭への適用の可能性

### 拠点づくりに向けたイベント

- ①小さな拠点づくり  
オープン・ガーデンの実施
  - ▷ コミュニティ形成を狙った出張カフェ・レストランのイベント  
支部、時間、プログラムを変えて10回程度実施
    - ▷ 各回を比較し、効果的な条件を探る
  - ▶ 持続的なオープン・ガーデンを担保するシステムの検討
    - 市の制度 ▷ カシニワ
    - 運営主体 ▷ 地域住民の参加



住民とNPOが行った過去のイベント

- ②大きな拠点づくりに向けての調査・議論(柏ビレジ活性化委員会と連携)  
どういった場が求められ、どう創出できるか？  
“小さな拠点づくり”イベントのフィードバックによって検討

付録資料－3

イベント通知資料



# 個性ある庭を活かした交流の場づくり

東京大学は柏ビレジ活性化委員会のご協力の下、柏ビレジにおいて、これからの社会において必要な住民同士が交流する場所、さらにはコミュニティを強化していく仕組み作りに取り組んでいます。柏ビレジ全体を考えると、商店街などの地区の中心に交流拠点を創出していくことがまず重要だと考えられます。それと同時に、各支部において、近所の方向士が自然と顔を合わせられる場、話せて休める場を挿入していく必要があります。そこで、柏ビレジの個性豊かな“庭”を活かして、近隣の方が集まり交流することのできる場を、住民の皆様と作っていきたいと考え、下記の3つのプログラムを開催することとしました。プログラムは“庭”を活かして交流の場を創出していくことをテーマとしていますが、庭作りに必要な知識・技術の習得や、住民同士が協力して重い負担なく美しい景観を維持していくための仕組み作りも含めて進めていくものですので、ご関心のある方はぜひご参加ください。また、地区中心の交流拠点作りに関しても、別のプログラムを開催する予定ですので、よろしくお願いいたします。



プログラムの詳細は裏面をご覧ください

**1** ワークショップ「庭から始まるまちづくりを考えよう！」  
6月10日(日) 15:30~17:30 @柏ビレジ自治会館

**2** 勉強会「オープンガーデンを見に行こう！」  
6月24日(日) 12:30~17:00 @柏市内バス見学

**3** イベント「オープンガーデンをやってみよう！」  
準備会：6月30日(土) イベント：7月中旬を予定

# 1 ワークショップ「庭から始まるまちづくりを考えよう！」

6月10日(日)

15:30~17:30

@柏ビレジ自治会館

予約不要/参加費無料



## □ディスカッション

「個性ある庭を活かした交流の場づくりに向けて」

- ・住民の皆様とこれからの柏ビレジのまちづくりを、「庭」というテーマから考えます。お茶を飲みながら楽しく議論する場ですので、気軽にいらしてください。
- ・話題提供者として、次の3名の方にも参加していただきます。
  - 柏市公園緑政課・職員
  - カシニワ制度(柏市のオープンガーデン支援制度)・参加者
  - 東京大学・助教(自然環境学専攻)

## □みどりの相談会

- ・植物の栽培を楽しむ上では、植物の病気に正しく対処することが必要ですが、なかなかわからないもの。今回、「植物のお医者さん」に、植物の病気に関する様々な悩みを相談できます。また、相談会は柏市内のコミュニティ植物医師の協力を得て行います。

講師：橋本 光司 氏(東京大学農学生命科学研究科・教授)  
コミュニティ植物医師数名(柏市民)

勉強会、イベントの詳細は後日改めて告知いたします。

## 2 勉強会

「オープンガーデンを見に行こう！」

☆日時：6/24(日)12:30 集合

@柏ビレジ自治会館

17:00 頃解散予定

☆内容：バスで柏市内のオープンガーデンを見学する勉強会です。

オープンガーデンを実施している方から、その魅力、楽しさ、地域への影響等、直接聞くことができます。

定員は20名程度、ワークショップに参加した方を優先して受付する予定です。

## 3 イベント

「オープンガーデンをやってみよう！」

☆日時：ワークショップ(イベント準備)

6/30(土)10:00~12:00

@柏ビレジ自治会館(予定)

イベント候補日

7/15(日),7/22(日)(詳細は未定)

☆内容：オープンガーデンによるイベントを住民の皆様と企画し、実施・運営します。

オープンガーデンを通して、その魅力、楽しさ、地域の交流場所の創出を体験することが狙いです。

オープンガーデンとは、個人の住宅の庭を公開し、近所の方をはじめ、花や植物が好きな方が見学できるようにすることです。所有者の娯楽にとどまらず、地域の魅力向上や、地域住民の交流場所としての機能も期待できます。東京大学では、学生の研究チーム(balloon)が2010年度、2011年度と柏ビレジで個人住宅の庭、ガレージを活用したイベントを開催させていただきました。2012年度は、柏市のオープンガーデン支援制度(カシニワ制度)を活用して、庭を介して住民同士が交流を図り、今後の地域に必要なコミュニティを強化していく仕掛けを作っていきたいと考えています。それと同時に、昨年度行わせていただいた「柏ビレジの住みよい街づくりに関するアンケート調査」に寄せられた皆様の声を参考に、柏ビレジの個性ある庭を今後も維持・発展させていくための技術や知識の習得の場、さらには住民同士が協力し合い柏ビレジ全体の景観を維持していく仕組みの構築も進めていきます。

# Open Garden Tour

「オープンガーデンを見に行こう!」カシニワ見学ツアー

バスで柏市内のオープンガーデン、「カシニワ」を見学する勉強会です。

本日は「カシニワ」を実施しているお宅やお店を6軒訪問します。

柏市のすてきなお庭の見学会を、柏ビレジのお庭づくりの参考にさせていただけると幸いです。

## 1. 本日のスケジュール

12:30  
柏ビレジ  
自治会館出発

45分



10分



20分



13:15~13:30頃

① 森の小人と福猫が遊ぶ  
ナチュラルプチガーデン

G-20  
手づくり器ギャラリーSAIYU  
(島田さん)

13:40~14:00頃

② 癒しの庭・元気のでる庭  
G-18  
ポプラ美容室(高橋さん)

14:20~14:45頃

③ 苔庭のオープンガーデン、  
枯山水回遊式庭園

G-1  
イタリアン割烹茶寮洛山  
(小関さん)

15分

17:15頃  
柏ビレジ  
自治会館到着

30分



カシニワマスコットキャラクター  
ニワやん



30分



30分



16:30~16:45頃

⑥ 雑木の中のパステル

G-11 パン&ガーデン  
クラインガルテン  
「メイ・ユール」  
(丸山さん)

15:45~16:00頃

⑤ 100本のバラの花と香りにつつまれてティータイムをどうぞ

G-13 パティスリー・ミレー  
(松永さん)

15:00~15:15頃

④ 木と花と野鳥が仲良く  
暮らす小さな庭

G-7 鈴木みゆきさん

## 2. 今回訪問先のマップ (Google map引用)



## 3. 次回ご案内

「オープンガーデンをやってみよう!」ワークショップ

柏ビレジで実際にオープンガーデンを企画しましょう。  
どこで開催するか、どんな内容にするか、どのように実行するかなどを  
話し合うためのワークショップを行います。  
オープンガーデンづくりを通して、地域の交流場所の創出を体験します。

オープンガーデンイベント実施日候補: 7/15(日) もしくは 7/22(日)

●6月30日(土)  
10:00~12:00  
@柏ビレジ自治会館

お問い合わせ:ryohei@ud.t.u-tokyo.ac.jp  
(お電話の方は080-5046-2058)

ご都合が悪くなった場合は上記連絡先までお知らせ下さい。

---

---

---

---

---

---

---

---



# Open Garden in Kashiwa Village

## Pre Event

### 柏ビレジでオープンガーデンをやってみよう！

(プライベート)

東京大学では柏市と柏ビレジ活性化委員会のご協力のもと、柏ビレジにおいて、今年度より見学会やワークショップを通して、交流拠点としてのオープンガーデンづくりに取り組んでいます。

今回は、3軒のお宅にご協力して頂き、実験的に小規模なオープンガーデンを行い、柏ビレジの個性のあるお庭をいかに活かしていけるか、住民の方と考えるワークショップです。9月にはより規模を拡げてオープンガーデンのイベントを行います。

また、今回のワークショップは参加人数の関係から、前回の見学会にご参加いただいた方のみにご案内しています。



お庭

+

イベント

お楽しみに!

ご協力いただいた方のお庭には、「見るだけ」ではなく、一緒に楽しめる企画が盛り込んであります。

柏ビレジのオープンガーデンについて、楽しみながら考えましょう！

日時:7月29日(日) 13:00

場所:柏ビレジ商店街 はなみずき前集合

参加費:500円

お申込みは7月27日までに下記の連絡先までお願いします。

お問い合わせ:ryohei@ud.t.u-tokyo.ac.jp (お電話の方は080-5046-2058)



# ぷらっとガーデン+リンクカフェ

柏ビレジのお庭と、商店街の空き店舗を使ったイベントを開催いたします！



イベント日時

9月23日(日)  
13:00~16:00

場所

柏ビレジ内のお庭4軒で開催  
はなみずき横空き店舗もオープン：  
ぷらっとガーデン詳細地図配布・  
ケーキセット・おつまみセット販売

東京大学・柏ビレジ活性化委員会・はなみずき協働プロジェクト

お問い合わせ：東京大学 鈴木亮平 ryohpei@ud.t.u-tokyo.ac.jp (お電話の方は 080-5046-2058)

## ■ぶらっとガーデン

### お庭を活かした新たな交流の場■

柏ビレジの資源である魅力的なお庭を活かした、交流の場づくりを目指した社会実験です。

ご近所で“ぶらっと”立ち寄れる。お散歩がてら“ぶらっと”巡れる。そんな地域に開けたお庭「ぶらっとガーデン」が、今回実験的に4軒登場します。

各お庭を楽しむプログラムが用意されており、2つ以上のプログラムを体験してスタンプを集めると、商店街内のインフォメーション・ブースにて花工房・カモミールからプレゼントがもらえます！

一般的に「オープンガーデン」はお庭を“見せる”ことを目的にしていますが、この「ぶらっとガーデン」は“使って楽しみ”、それを地域の魅力に、地域を支える場所にしていこうというものです。

住民同士が気軽に集まれる“プラットフォーム”のような場所に！

ぜひ、足を運んでみてください！

## ■リンクカフェ

### 生活支援サービスの拠点をめざして■

住民同士のつながり、「リンク」が持てる拠点になるようにという願いが込められた商店街の空き店舗「ビレジリンク（仮称）」にて、ぶらっとガーデンの開催に合わせて、商店街のご協力のもと、ケーキセット・おつまみセットをご提供します！ また、毎月2回（第1・3金曜日）商店街に出店している、花工房・カモミールの花苗の販売も行います。

当日商店街でお買い上げになった商品を、一人乗り電気自動車、「コムス」でご自宅まで配達する実験も実施いたします。

オープンガーデンの詳細マップもこちらで配布しております！

ぜひお立ち寄り下さい。

- ・ケーキセット（ケーキ・紅茶） 500円
- ・おつまみセット（ビール・おつまみ） 500円



7月に実験的に開催したワークショップの様子  
はなみずきのボランティアの方、お写真提供者の方にもご参加・ご協力いただき、賑やかな会となりました



イメージ

左・今回出店するカモミールの花苗 右・コムス



前回（8/11）の空き店舗イベントの様子

# PLAT GARDEN MAP

ぶらっとガーデンを行うお庭の簡単なお紹介と、スタンプラリー用紙です。

プログラム体験は無料です。（商品購入を除く）

詳しいMAPは当日商店街で配布いたします！

### ① 紙芝居

図書ボランティアによる紙芝居  
14:30~、15:30~（各15分）

### ② 絵画・写真展

柏ビレジの風景を描いた絵画  
・写真を展示するギャラリー

### ③ ポストカード工作

かわいいマスクングテープを使ったポストカード制作体験

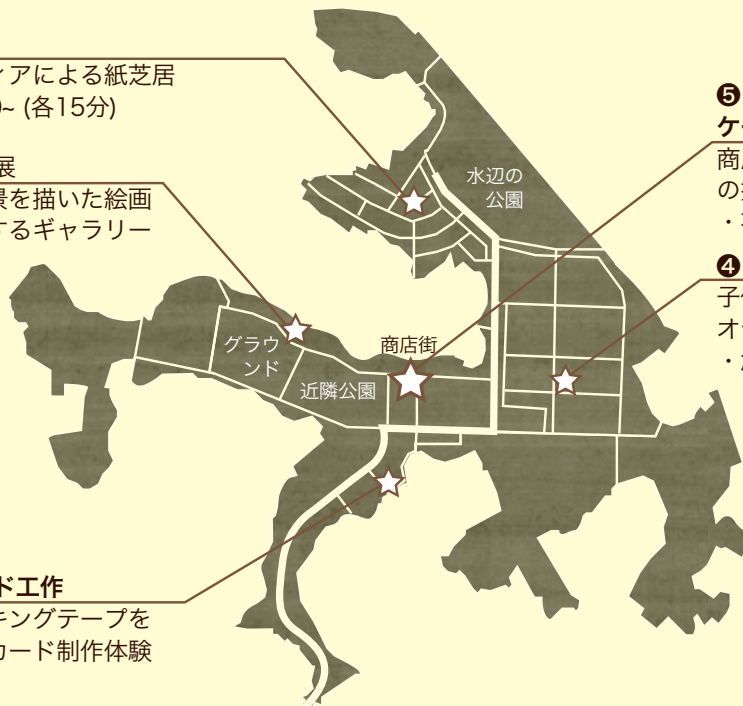
### ⑤ インフォメーション・ブース

#### ケーキ・おつまみ・花苗販売

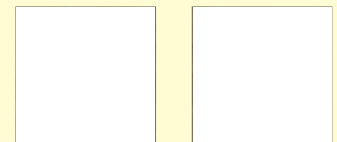
商店街のケーキやお酒など飲食物の提供（500円）  
・花工房カモミールの花苗販売

### ④ 駄菓子販売・ゲーム

子供たちによるDSゲームとオセロゲームの大会（13:00~14:00）  
・創作ゲーム・駄菓子販売（10円~）



## スタンプ欄



付録資料－４

ワークショップ意見表



| 120610WSで出た意見・感想   |   |
|--|---|
| 参加理由   | 一日中庭をいじっているので情報を得たい   |
|  | これからがんばってみようかなと思って参加した。   |
|  | やっと庭の手入れに時間がかけられるようになった。  |
|  | 犬の散歩でよそのお庭を見るのが好き   |
| 普段のお庭の手入れ  | 花って正直。手をかければかけるほどきれいになる。  |
|  | アイビーだと手入れが楽。花を植えると大変。   |
|  | よその庭を見て興味を持ち、花をきっかけに色々話をするようになった。友達が出来るきっかけがお庭だった。                                    |
|  | いつも同じところを歩いていると四季を感じて良い。  |
|  | セミパブリックの花壇について：水まきが大変。花ものは朝晩水をやるので大変。自動水まき機を買った。                                      |
|  | 外にきれいな鉢植えを飾ってあるのがびっくりした。人ととられるのではとおもった。それがきれいな町並みになっている。                              |
|  | 花の手入れは一年中欠かせない。冬に力を入れている。   |
|  | 最近蚊が少なくなった。日が強くなった。   |
|  | シンボルツリーが巨木化して煉瓦塀を壊してしまい、抜いてしまった。地域で話し合ってたて入れが大変なものは抜いてしまおうという話になったため。木を抜いたら風が強くなって大変。 |
|  | 山の木は手入れや農薬無しでも大丈夫。日あたりと風通しをを良くすると病気を防げるので、農薬はいらない。                                    |
|  | 継続するには疲れたら休むことが大事。庭はリフレッシュするためのものであるべき。   |
|  | 農薬の利用はご近所関係や、犬の健康のことを考えると心配。  |
|  | オープンガーデンについて思ったこと・考えたこと   |
| 庭まで人が入ってくると心配  |   |
| イギリスの庭園が憧れ   |   |
| 何件かバラを見せている家がある。バラ仲間はお互いに見せあっている。  |   |
| 期間限定だったら良い。その人その人によって見せたい期間が異なる。常にきれいにしておくとなると、プレッシャーになる。                            |   |
| 一件だけの為に来てもらうのは申し訳ないから、5,6軒をまわるツアーだといい。   |   |
| ビレジのお庭の広さはお互い狭いことを知っているの、あまり問題にならないのでは   |   |
| 見るのはみんな好きなので、今度は感動を与える側になるという姿勢が大事   |   |
| 見てもらうために参加というより、自分が庭づくりをするためのモチベーションにしていきたい  |   |
| カシニワ制度は外から見るとということだけでもオッケー。ビレジの住宅の塀の外の花壇をきれいにするのはオープンガーデン的な発想。まずは外回りから始めるのがいいかもしれない。 |   |
| お散歩中の方が少し休めるように自分の家の前にイスをおいてみた。利用されることはあまりないが。                                       |   |
| 鉢植えを外に置くなどして、外に出ること、人目を増やすことは大事。防犯にも役立つ。   |   |

| カシニワ見学感想文 |   |
|-----------|---|
|           | <p>緑字：カシニワから学んだこと、感動したこと<br/>赤字：自分の庭づくりや関わり方を変えていこうという意思表示</p>  |
| 1         | 今日は楽しい一日でした。またこのような企画がありましたら参加したいと思います。ありがとうございました。   |
| 2, 3      | 好天に恵まれ見事な庭園美を半日あまり堪能させて頂きました。中でも頭を驚かせられた日本庭園の美。ヤマモモは南国高知の特産品で、嬉しく懐かしく思いました。（私は高知出身）   |
| 4         | 今日のオープンガーデンは大変勉強になりました。色々な庭園で知らない花々が見ることが出来て良かったです。一軒一軒が素敵でした。又、パティスリーミレーにてコーヒーとケーキを心して頂き大変良い企画に参加しよかったです。又こんな企画がありましたらと思っております。  |
| 5         | この企画そのものに喝采！それぞれ内容が違って楽しかったです。鈴木宅がとても参考になりました。ビレジもこうした庭園が増えていったらオープンガーデンをして皆様に楽しんで頂けて明るい町並みになるでしょう。これからに期待します。乱文乱筆  |
| 6         | 休日の午後を楽しく過ごさせて頂きました。それぞれの個性が感じられましたが、植物を愛する心は共通。日々の努力に脱帽です。葉色の合わせ方、参考になりました。  |
| 7         | なかなか自分ではまわれないので今回の企画はとても楽しいものでした。それぞれの個性を生かした庭を見学でき、勉強になりました。今日ありがとうございました。   |
| 8         | 鈴木さんのお宅小さな庭でも十分楽しめること、参考になりました。楽しい一日でした。  |
| 9         | 各お庭の所有者の方達がとても親切に説明して下さい、楽しく有意義な半日でした。  |
| 10        | 色々勉強になりました。G7の鈴木みゆきさんのお庭が素敵でした。G18のポプラさんの広大な花畑は感心しました。大変な努力がいるのによかんばっているなと感心しました。   |
| 11        | 実際にオープンガーデンをするには植物の選択が課題だと感じた。年間を通して見せる庭を造るのはなかなか困難です。今日はありがとうございました。   |
| 12        | なかなか個人では行きにくかったのですが、こういう機会をつくっていただいて参加が出来て、勉強になりました。（訪問先で）質問にも答えていただき、お茶もごちそうになり、又次回があれば参加させて頂きたいと思っております。私自身ももっと勉強して次回があれば参加に備えたいと思っております。   |
| 13        | <p>見学記</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 商業系施設には馴染みやすいと思われる。</li> <li>2. 一般住宅では手入れが行き届くかどうか</li> <li>3. 町の景観・緑化向上にはいいきっかけ。</li> <li>4. コミュニケーションの輪を広げるには何らかの会員制化と継続研修の場づくりが必要か</li> <li>5. コミュニティビジネスという視点からは全く発想できなかった</li> <li>6. 植物医研修の皆さんがどうからめるのか不明ながら、学んだ知識を知識を生かせるところは少なくないと思われる</li> <li>7. 休日出勤の市公園緑政課阿藤さん、古橋さんには多謝。バルーンの皆さんにも感謝。</li> </ol> |
| 14        | カシニワ先の皆さんが暖かく迎え入れてくれて良かった。小関さんのように最初にみんなに説明してくれると良かった。  |
| 15        | 楽しい時間を過ごすことが出来ました。今後の企画楽しみにしています。一つでも参考にしたいです。ビレジの中で出来ることも企画して頂きたいと思っております。   |
| 16        | お天気にも恵まれ皆様と楽しい時間でした。それぞれ違うタイプの庭で興味深かったです。ミレーでは買い物で時間を取りスタッフ、運転手の方にご迷惑をおかけしました（駐車は大変ですネ！）  |
| 17        | 本日はお世話になりました。庭の手入れは広い狭い関係なく心を込めてかわいがってやれば素晴らしい庭になりますね。我が家の庭がいちいち頭に浮かびました。反省しきりです。皆様にお見せできるお庭づくりがしたくなりました。ありがとうございました。   |
| 18        | 今日一日楽しいときを過ごさせて頂きました。それぞれの個性豊かなお庭で楽しませて頂きました。これから我が家でも、... 考えても私には無理なので、皆様のきれいなお庭を見せてもらい楽しませてもらいたいと思っております！   |